
大府市ヤングケアラーに関するアンケート調査
結果報告書

令和6年3月

大府市

目次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査対象.....	1
3. 調査期間.....	1
4. 調査方法.....	1
5. 回収結果.....	2
6. 調査結果の表示方法.....	2
II 子どもの調査結果.....	3
1. 回答者の属性.....	8
2. 普段の生活について.....	11
3. 悩みや困りごと.....	17
4. ヤングケアラーについて.....	20
5. 家族の中にお世話をする必要がある人がいる子どもの置かれた状況.....	29
6. 自由回答(子ども).....	50
III 学校教職員の調査結果.....	57
1. 回答者の属性.....	61
2. 勤務状況について.....	63
3. 子どもの権利について.....	66
4. ヤングケアラーのイメージ・影響について.....	73
5. ヤングケアラーと思われる子どもについて.....	75
6. ヤングケアラーへの対応・支援について.....	78
7. 自由回答(教職員).....	88
IV 調査結果の考察.....	91

(参考資料) 家族の中にお世話をする必要がある人がいる子どもの置かれた状況(詳細) 100

I 調査の概要

1. 調査の目的

本市では令和4年度から愛知県のヤングケアラー支援モデル事業を受託し、ヤングケアラー本人および家族への支援事業を実施しています。

本市のヤングケアラーに係る現状及び課題を顕在化させるとともに、支援施策の策定についての基礎資料とすること、さらには、アンケートの回答者が、アンケートへの回答を通じてヤングケアラーの現状及び課題についての認識を深められるとともに、支援の必要性について思索する契機とすることを目的に、子どもと学校教職員を対象に調査を実施しました。

2. 調査対象

子どもを対象とする調査は、大府市内の公立の小学校、中学校及び高等学校に在籍する児童生徒(小学5年生、中学2年生、高等学校2年生)全員です。

学校教職員を対象とする調査は、本市内にある公立の小学校、中学校及び高等学校に勤務する教職員全員です。

3. 調査期間

令和5年10月～12月中

4. 調査方法

調査の回答URL(二次元コード)を記載したものを直接配布し、WEB上で回収を行いました。

5. 回収結果

調査対象者	配布数 (件)	有効回答数 (件)	有効回答率 (%)
教職員	584	421	72.1
小学5年生	939	786	83.7
中学2年生	914	778	85.1
高校2年生	609	449	73.7

6. 調査結果の表示方法

- 回答は各質問の回答者数(n)を基数とした百分率(%)で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計(全体)の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

Ⅱ. 子どもの調査結果

Ⅱ. 子どもの調査結果

【調査結果 概要】

1. 普段の生活について

- 欠席および遅刻・早退については、すべての学年で「たまにする」が1～2割程度、「ときどきする」が3～4%程度、「よくする」が1%程度あります。
- 放課後や休日の習い事をしているかは、小学5年生では、「はい」が84.0%、「いいえ」が16.0%となっています。
- 習い事・部活動・学校外のクラブ活動は、中学2年生では、「はい」が91.5%、「いいえ」が8.5%となっています。高校2年生では、「はい」が75.5%、「いいえ」が24.5%となっています。
- 最近の睡眠時間が足りていないかについては、「はい」と回答した割合は、小学5年生では、27.6%、中学2年生では44.9%、高校2年生では57.5%となっており、学年が上がるにつれて高くなっています。
- 毎朝朝食をとっているかについては、小学5年生と中学2年生では9割以上、高校2年生では8割以上が「はい」と回答しています。他方で、「いいえ」も、小学5年生では4.6%、中学2年生では8.5%、高校2年生では13.4%と1割程度あります。
- ふだんの学校生活であてはまることは、すべての学年で「あてはまるものはない」が最も高く5～6割程度。その他、小学5年生と中学2年生では、「持ち物の忘れ物が多い」「宿題や課題ができないことが多い」「提出物を出すのが遅れることが多い」などが多くなっています。高校2年生では、「授業中に居眠りすることが多い」「持ち物の忘れ物が多い」「提出物を出すのが遅れることが多い」などが多くなっています。

2. 悩みや困りごと

- 悩みや困りごとについては、小学5年生では、「特にない」が最も高く66.0%となっていますが、「学校の成績のこと」が17.2%、「友達のこと」が15.1%、「家族のこと」が7.4%なども高くなっています。中学2年生および高校2年生では、「特にない」が最も高く4割となっていますが、「学業成績のこと」「進路のこと」が4割、「友人関係」が1～2割程度と高くなっています。
- 悩みや困りごとの相談先は、小学5年生・中学2年生では、「家族」が8割程度と高くなっています。次いで「友達」が、小学5年生では5割、中学2年生では7割と続き、「学校の先生」が、小学5年生・中学2年生ともに3割となっています。高校2年生では、「友達」が最も高く8割、次いで、「家族」が7割、「学校の先生」が2割となっています。
- 悩みや困りごとを相談しやすい方法については、すべての学年で「相手の顔をみながら直接相談できる方法」が最も高く6割程度となっています。次いで、小学5年生と中学2年生では、「自分のことは知られずに、相談できる方法」が2～3割と高くなっています。さらに、小学5年生では、「電話で相談できる方法」が2割、中学2年生では「インターネットやSNSを使って文字で相談する方法」が3割となっています。高校2年生では、「相手の顔をみながら直接相談できる方法」に次いで、「インターネットやSNSを使って文字で相談する方法」「自分のことは知られず

に、相談できる方法」が3割となっています。

3. ヤングケアラーについて

- ヤングケアラーの言葉を「聞いたことがある」と回答した割合は、小学5年生では42.0%、中学2年生では65.0%、高校2年生では70.8%となっており、学年が上がるにつれて高くなっています。前回調査との比較では、「聞いたことがある」は、小学5年生では12.9ポイント、中学2年生では18.9ポイント増加しています。
- ヤングケアラーという言葉を知った媒体は、小学5年生と中学2年生では、「テレビ、新聞」が最も高く46%程度となっています。次いで、「学校」が、小学5年生では29.7%、中学2年生では43.5%となっています。さらに、小学5年生では「雑誌や本」が23.6%、中学2年生では、「研修会・人権講話」が27.1%となっています。高校2年生では、「学校」が58.8%と最も高く、次いで、「テレビ、新聞」が47.2%、「SNSやインターネット」が29.6%となっています。
- 身近にヤングケアラーにあてはまるようなクラスメイトや友だちがいるかについては、すべての学年で、「いないと思う」が高く9割前後となっています。他方で、「いると思う」と回答した割合は、小学5年生では9.5%、中学2年生では7.6%、高校2年生では14.5%となっています。
- ヤングケアラーの状態になると、毎日の生活にどんな影響があるかについては、小学5年生と中学2年生では、「自分の自由な時間がなくなる」「友達と遊ぶことができなくなる」「睡眠時間が少なくなる」といったおおむねすべての項目で8割程度かそれ以上と高くなっています。
- 市が主催するサロンで関心のある企画は、小学5年生では、「ボードゲーム大会」が50.3%、「料理教室」が45.5%となっています。中学2年生では、「料理教室」が57.2%、「キャリア講座(将来の生き方や仕事について考える講座)」が44.9%、「介護(ケア)についての勉強会」が23.9%となっています。高校2年生では、「メンタルヘルス講座」が48.6%、「料理教室」が42.1%、「キャリア講座(将来の生き方や仕事について考える講座)」が33.6%となっています。
- 市が主催する人権講話の感想は、すべての学年で、「講話を聞いて、はじめてヤングケアラーを知った」が最も高く、小学5年生では66.9%、中学2年生では60.9%、高校2年生では51.5%となっています。

4. 家族の中にお世話をする必要のある人がいる子どもの置かれた状況

- 家族の中にお世話が必要な人がいるかについては、「いる」と回答した割合は、小学5年生では9.0%です。中学2年生では3.5%、高校2年生では4.9%となっています。
- 「家族の中にお世話が必要な人がいる」と回答した人のうち、自身がお世話をしているかについて「はい」と回答した割合は、小学5年生では46.5%(33件)、中学2年生では44.4%(12件)、高校2年生では40.9%(9件)となっています。前回調査との比較では、小学5年生では3.5ポイント、中学2年生では22.3ポイント減少しています。
- お世話をしている対象は、小学5年生では、「弟・妹」が63.6%(21件)、「母親」が21.2%(7件)、「祖母」が15.2%(5件)となっています。中学2年生では、「弟・妹」が41.7%(2件)、「母親」が33.3%(4件)、「兄・姉」が25.0%(3件)となっています。「母親」については、他の学年と比べると10ポイント程度高くなっています。高校2年生では、「弟・妹」が33.3%(3件)、「母

親」が 22.2%(2件)、「祖母」が 22.2%(2件)となっています。

- お世話の種別は、小学5年生では、「身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)」が 51.5%(17件)、「見守り」が 45.5%(15件)、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が 36.4%(12件)となっています。中学2年生では、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」、「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」、「見守り」が 33.3%(4件)となっています。高校2年生では、「見守り」が 66.7%(6件)、「身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)」が 33.3%(3件)、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」、「外出の付き添い(買い物、散歩など)」、「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」が 22.2%(2件)となっています。
- お世話の頻度について、週の日数では、小学5年生では、「2~3日」が 33.3%(11件)、「4~5日」、「6日以上」が 27.3%(9件)となっています。中学2年生では、「2~3日」、「4~5日」、「6日以上」が 33.3%(4件)となっています。高校2年生では、「2~3日」、「6日以上」が 33.3%(3件)、「4~5日」が 22.2%(2件)となっています。
- お世話をしている時間では、小学5年生では、「6時間未満」が 90.9%(30件)、「12時間以上」が 6.1%(2件)、「6時間以上 12時間未満」が 3.0%(1件)となっています。中学2年生では、「6時間未満」が 91.7%(11件)、「12時間以上」が 8.3%(1件)となっています。高校2年生では、「6時間未満」が 77.8%(7件)、「6時間以上 12時間未満」が 11.1%(1件)となっています。
- お世話を始めてからの期間は、小学5年生では、「小学校4年生のころ」が 42.4%(14件)、「最近(小学校5年生になってから)」が 27.3%(9件)、「小学校3年生のころ」が 12.1%(4件)となっています。中学2年生では、「中学1年生になってから」、「小学校4年生のころから」が 25.0%(3件)、「最近(中学2年生になってから)」、「小学校6年生のころから」が 16.7%(2件)となっています。高校2年生では、「高校1年生になってから」、「中学生のころから」が 33.3%(3件)、「小学校のころから」が 22.2%(2件)となっています。
- お世話を一緒にしてくれる人の有無について「いない」は、小学5年生では 12.1%(4件)、中学2年生では 8.3%(1件)、高校2年生では 22.2%(2件)となっています。
- お世話を一緒にしてくれる人は、お世話を一緒にしてくれる人は、すべての学年で「父親、母親、兄姉、弟妹」が最も高く、9~10割となっています。
- お世話をすることについて大変さやつらさを感じているかは、体力の面では、小学5年生では、「全くつらくない」が 36.4%(12件)、「あまりつらくない」が 30.3%(10件)、「少しつらい」が 21.2%(7件)となっています。中学2年生では、「全くつらくない」、「あまりつらくない」が 33.3%、「少しつらい」が 16.7%(4件)となっています。高校2年生では、「全くつらくない」、「あまりつらくない」、「少しつらい」が 33.3%(3件)となっています。「かなりつらい」「とてもつらい」の回答は、すべての学年で合計8件あります。
- 気持ちの面では、小学5年生では、「全くつらくない」が 42.4%(14件)、「あまりつらくない」が 30.3%(10件)、「少しつらい」が 12.1%(4件)となっています。中学2年生では、「全くつらくない」が 41.7%(5件)、「少しつらい」が 25.0%(3件)、「あまりつらくない」が 16.7%(2件)となっています。高校2年生では、「少しつらい」が 55.6%(5件)、「あまりつらくない」が 22.2%(2件)、「全くつらくない」、「かなりつらい」が 11.1%(1件)となっています。「かなりつ

らい」「とてもつらい」の回答は、小学5年生・中学2年生、高校2年生で8件あります。

- お世話の悩みについて誰かに相談したことの有無については、すべての学年でおおむね7～8割が「ない」と回答しています。
- お世話の悩みについて相談した相手は、「家族」、「友達」、「学校の先生」、「習い事の先生」などとなっています。
- 家族以外で家族のことについて相談できる場所については、中学2年生では、「大府市役所(福祉総合相談室など)」が 33.3%(4件)、「大府市のLINE相談窓口」、「児童(老人福祉)センター」が 25.0%(3件)が知っている場所として高くなっています。高校2年生では、「大府市役所(福祉総合相談室など)」が 21.4%、「児童(老人福祉)センター」が 16.0%、「大府市のLINE相談窓口」が 11.4%知っている場所として高くなっています。
- 家族や周りの大人にしてもらいたいことについては、小学5年生では、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」が 21.2%(7件)、「自由に使える時間がほしい」が 15.2%(5件)、「家族のお世話について相談に乗ってほしい」が 12.1%(4件)となっています。中学2年生では、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」、「進路や就職など将来の相談に乗ってほしい」が 25.0%(3件)、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」が 16.7%(2件)となっています。高校2年生では、「自由に使える時間がほしい」が 33.3%(3件)、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」、「進路や就職など将来の相談に乗ってほしい」、「家庭への経済的(金銭面)な支援」が 22.2%(2件)となっています。

1. 回答者の属性

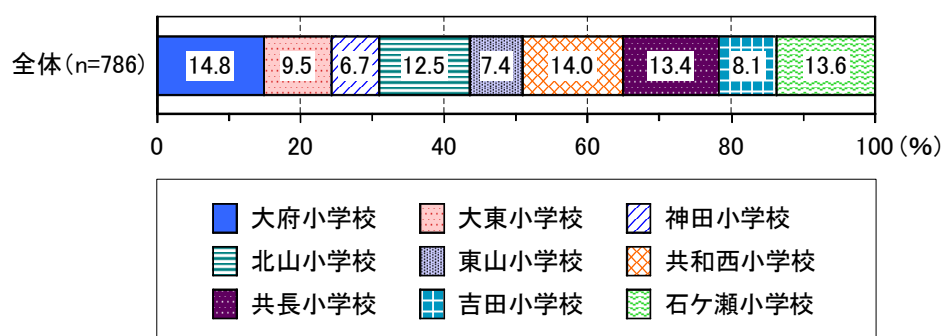
①通っている学校

あなたの通っている学校を選んでください。(単数回答)

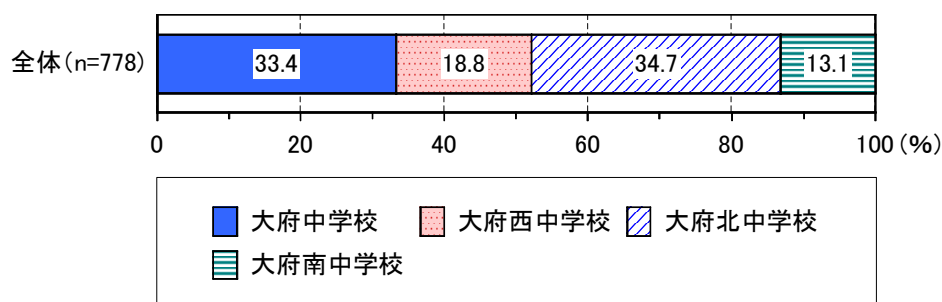
[小学5年生・中学2年生・高校2年生:問1]

- 小学5年生は、高い順に「大府小学校」が14.8%、「共和西小学校」が14.0%、「石ヶ瀬小学校」が13.6%となっています。
- 中学2年生では、高い順に「大府北中学校」が34.7%、「大府中学校」が33.4%、「大府西中学校」が18.8%となっています。
- 高校2年生では、高い順に「大府高校」が48.1%、「大府東高校」が47.4%、「桃陵高校」が4.5%となっています。

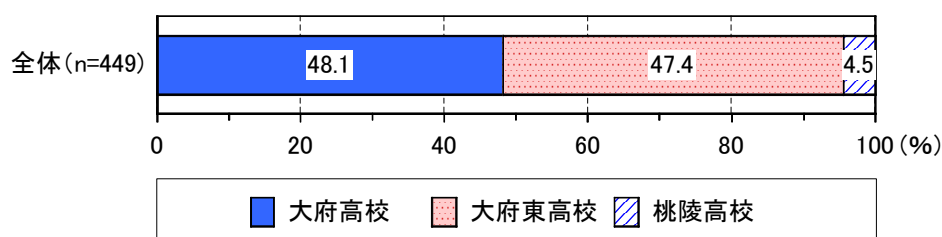
【小学5年生】



【中学2年生】



【高校2年生】

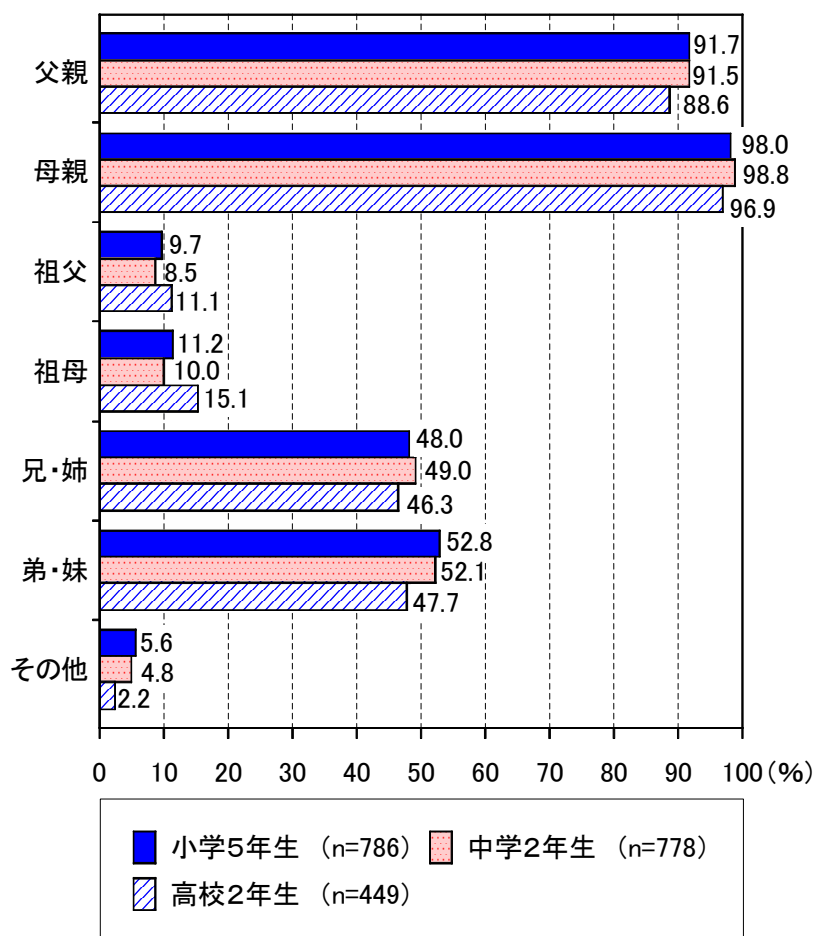


②一緒に住んでいる人

あなたが一緒に住んでいるのは誰ですか。(複数回答)

[小学5年生・中学2年生・高校2年生:問2]

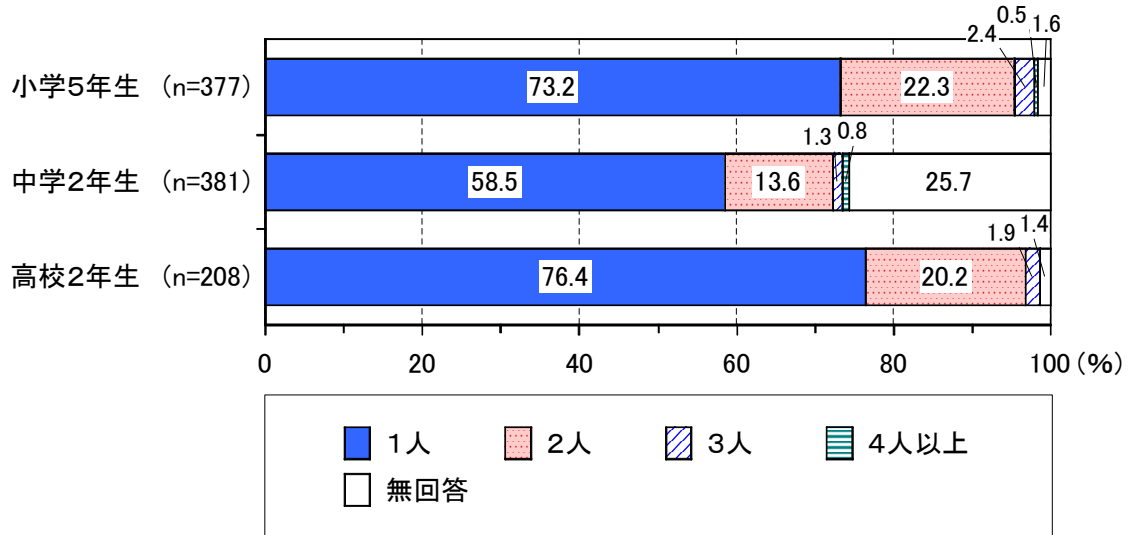
- 小学5年生では、「母親」が 98.0%、「父親」が 91.7%、「弟・妹」が 52.8%となっています。
- 中学2年生では、「母親」が 98.8%、「父親」が 91.5%、「弟・妹」が 52.1%となっています。
- 高校2年生では、「母親」が 96.9%、「父親」が 88.6%、「弟・妹」が 47.7%となっています。



②「兄・姉」の人数

「兄・姉」を選んだ人 お兄さん・お姉さんの人数を教えてください。(数量回答)

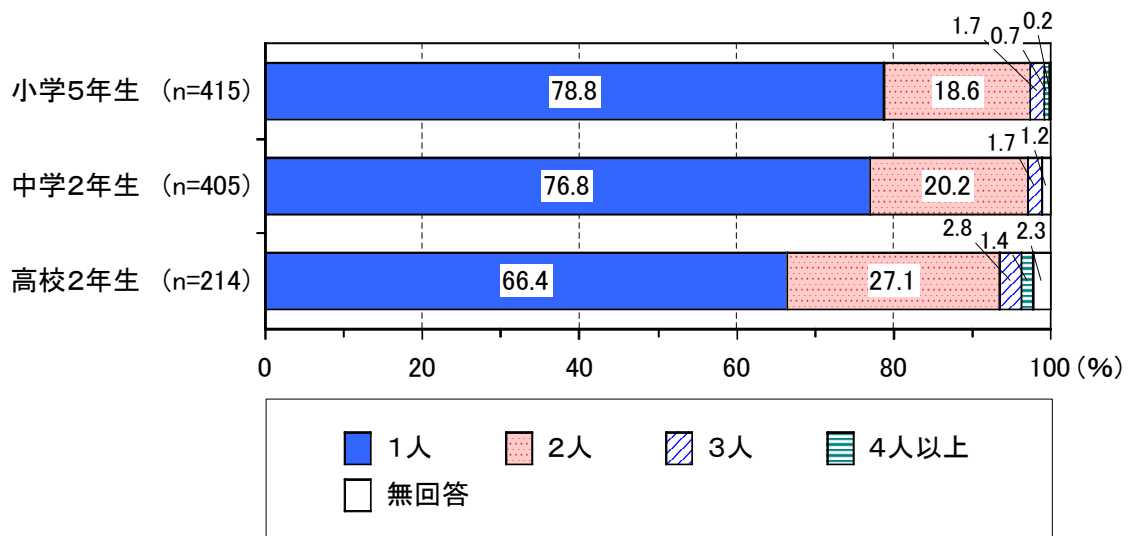
- 「兄・姉」の人数は、小学5年生では、「1人」が 73.2%、「2人」が 22.3%、「3人」が 2.4%です。中学2年生では、「1人」が 58.5%、「2人」が 13.6%、「3人」が 1.3%です。高校2年生では、「1人」が 76.4%、「2人」が 20.2%、「3人」が 1.9%です。



③「弟・妹」の人数

「弟・妹」を選んだ人 弟さん・妹さんの人数を教えてください。(数量回答)

- 「弟・妹」の人数は、小学5年生では、「1人」が 78.8%、「2人」が 18.6%、「3人」が 1.7%です。中学2年生では、「1人」が 76.8%、「2人」が 20.2%、「3人」が 1.7%です。高校2年生では、「1人」が 66.4%、「2人」が 27.1%、「3人」が 2.8%です。



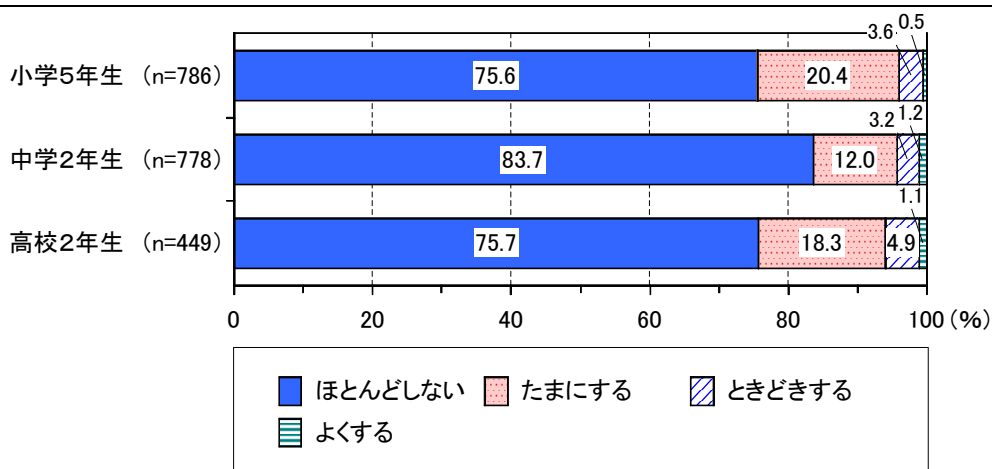
2. 普段の生活について

あなたは学校を欠席したり、遅刻や早退をすることがありますか。(単数回答)

[小学5年生・中学2年生・高校2年生:問3]

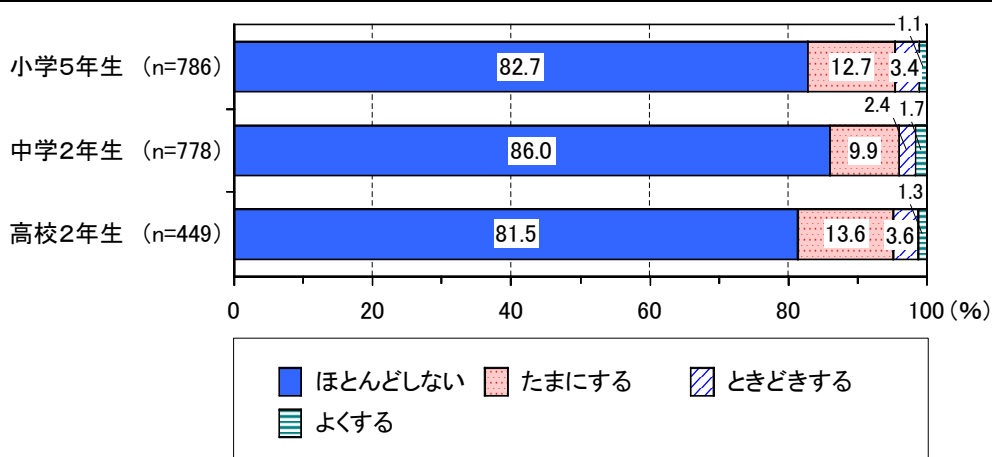
①欠席について

- 欠席については、小学5年生と高校2年生では7割以上が、中学2年生では8割以上が「ほとんどしない」と回答しています。
- 他方で、「たまにする」は、小学5年生と高校2年生では2割、中学2年生では1割あります。また、すべての学年で、「ときどきする」が3～4%程度、「よくする」が1%程度あります。



②遅刻・早退について

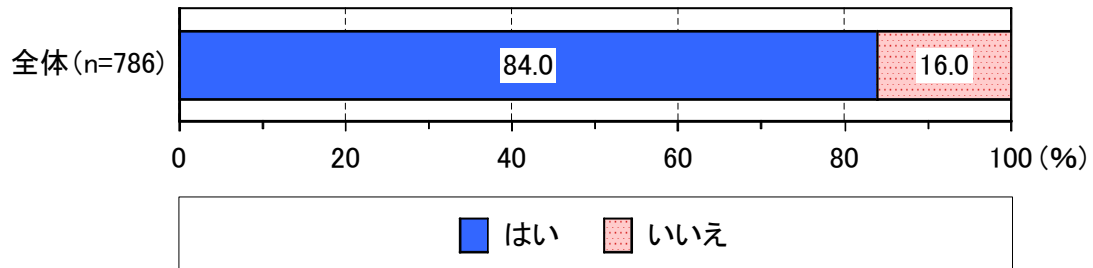
- 遅刻・早退については、すべての学年で8割以上が「ほとんどしない」と回答しています。
- 他方で、すべての学年で「たまにする」が1割程度、「ときどきする」が2～4%程度、「よくする」が1～2%程度あります。



③放課後や休日の習い事(小学5年生)

あなたは放課後や休日に習い事をしていますか。(単数回答)[小学5年生:問4]

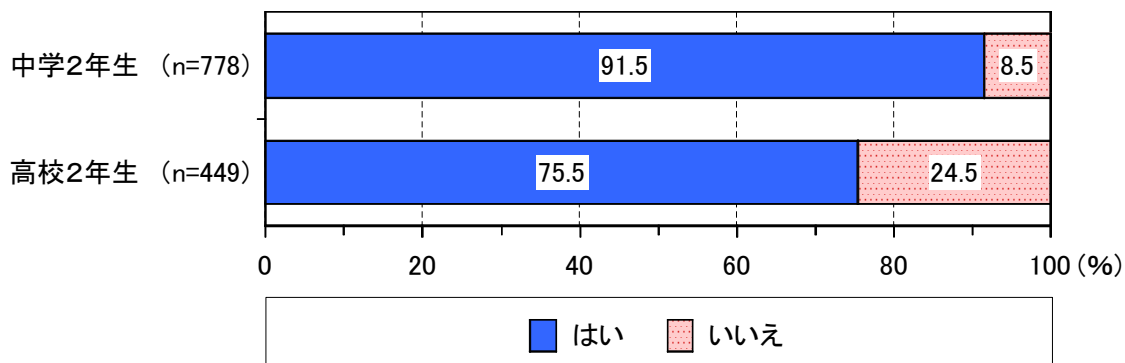
- 放課後や休日の習い事をしているかは、「はい」が 84.0%、「いいえ」が 16.0%となっています。



④習い事・部活動・学校外のクラブ活動(中学2年生、高校2年生)

あなたは習い事・部活動・学校外のクラブ活動に参加していますか。(単数回答)
[中学2年生・高校2年生:問4]

- 習い事・部活動・学校外のクラブ活動は、中学2年生では、「はい」が 91.5%、「いいえ」が 8.5%となっています。
- 高校2年生では、「はい」が 75.5%、「いいえ」が 24.5%となっています。

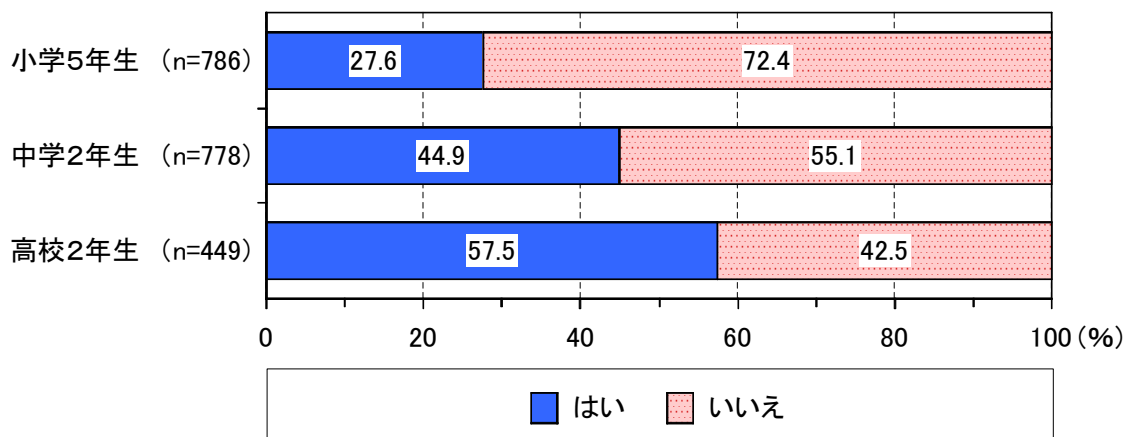


⑤睡眠時間が足りないか

最近睡眠時間が足りないと感じていますか。(単数回答)

[小学5年生・中学2年生・高校2年生:問5]

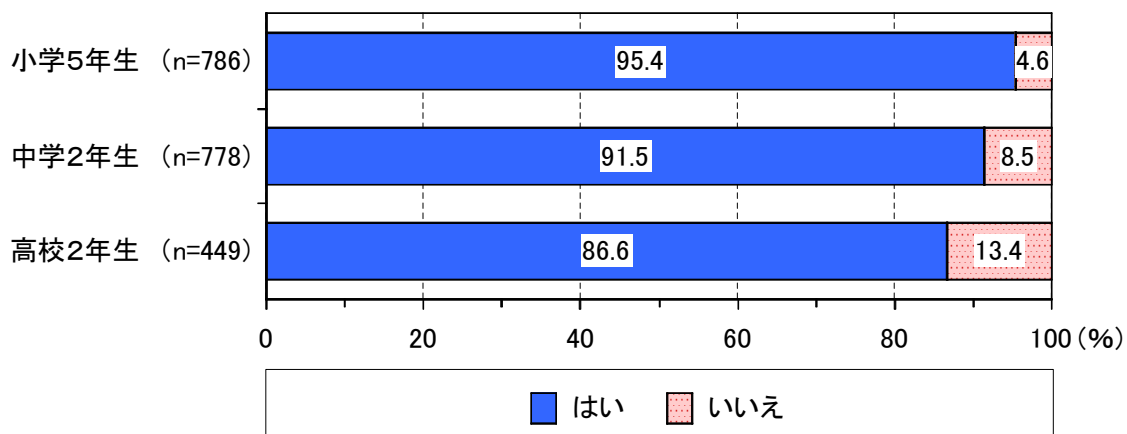
- 最近の睡眠時間が足りないと感じるかについては、「はい」と回答した割合は、小学5年生では、27.6%、中学2年生では 44.9%、高校2年生では 57.5%となっており、学年が上がるにつれて高くなっています。



⑥朝食をとっているか

毎朝朝食をとっていますか。(単数回答)[小学5年生・中学2年生・高校2年生:問6]

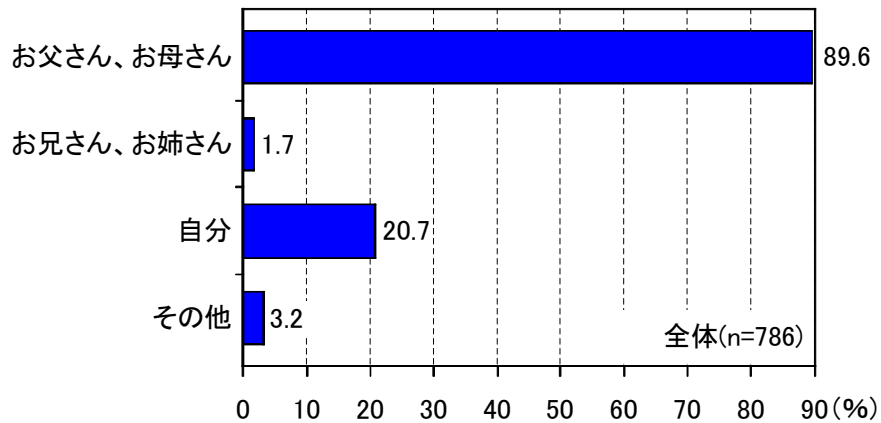
- 毎朝朝食をとっているかについては、小学5年生と中学2年生では9割以上、高校2年生では8割以上が「はい」と回答しています。
- 他方で、「いいえ」も、小学5年生では 4.6%、中学2年生では 8.5%、高校2年生では 13.4%と1割程度あります。



⑦朝食の準備をする人

朝食は誰が準備していますか。(単数回答)[小学5年生:問7]

- 朝食の準備をする人は、「お父さん、お母さん」が 89.6%、「自分」が 20.7%、「その他」が 3.2%となっています。

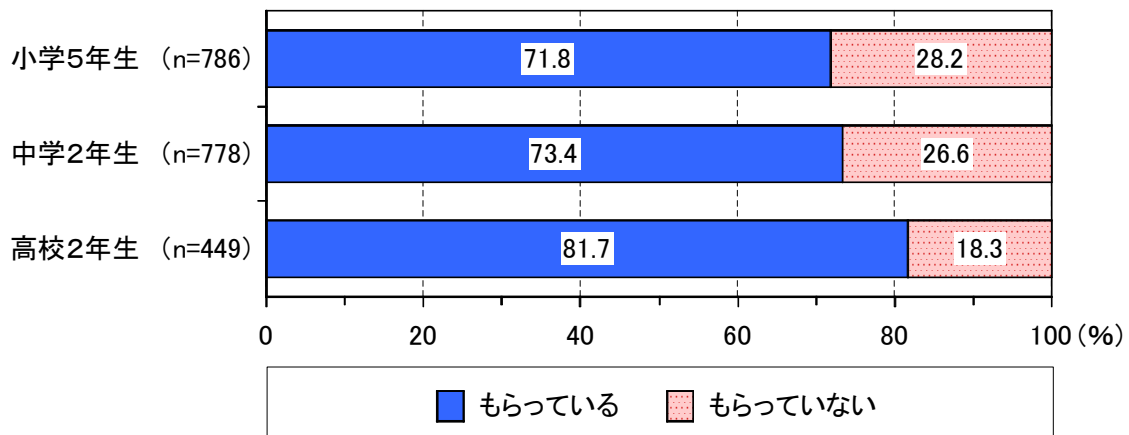


⑧お小遣いをもらっているか

あなたは保護者の方からお小遣いをもらっていますか。(単数回答)

[小学5年生:問8、中学2年生・高校2年生:問7]

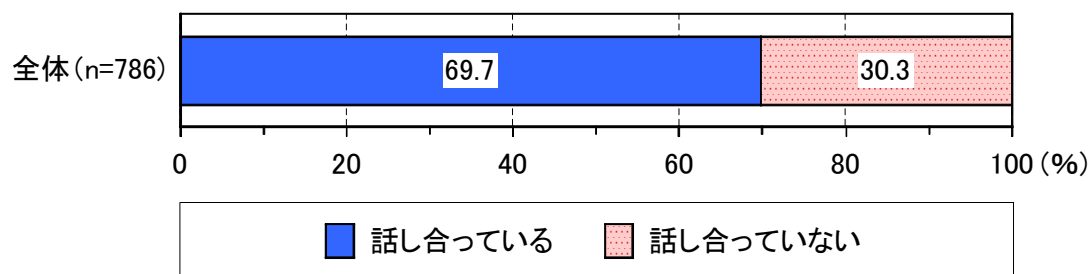
- 保護者からお小遣いをもらっているかは、小学5年生と中学2年生では7割以上、高校2年生では8割以上が「はい」と回答しています。



⑨家でのルールや決まりごとについて保護者と話し合っているか

あなたは家でのルールや決まりごとについて保護者の人と話し合っていますか。(単数回答)
[小学5年生:問9]

- 家でのルールや決まりごとについて保護者と話し合っているかについては、「話し合っている」が69.7%、「話し合っていない」が30.3%となっています。

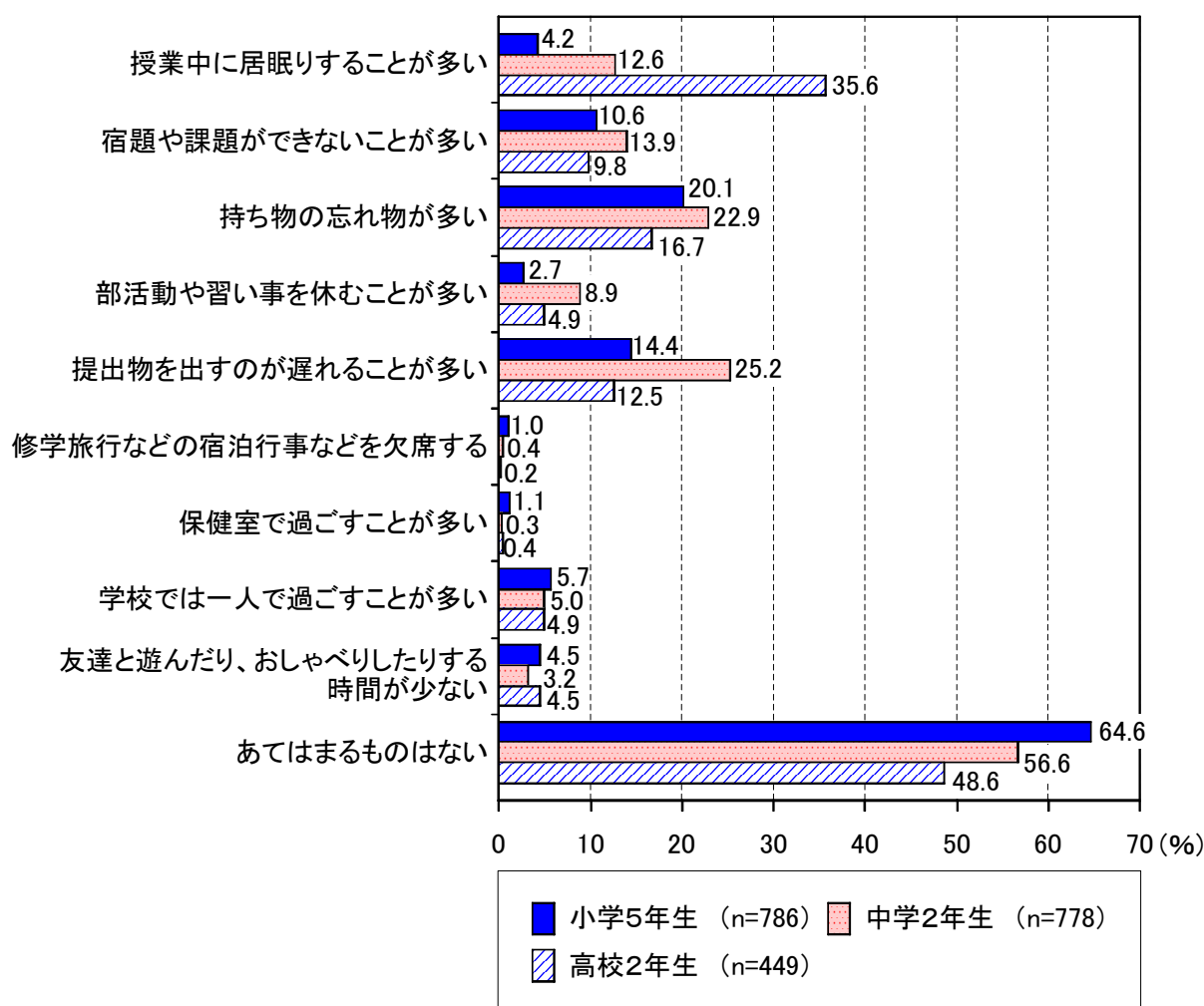


⑩ふだんの学校生活であてはまること

ふだんの学校生活で以下にあてはまるものはありますか。(複数回答)

[小学5年生:問10、中学2年生・高校2年生:問8]

- ふだんの学校生活であてはまることは、すべての学年で「あてはまるものはない」が最も高く、小学5年生で64.6%、中学2年生で56.6%、高校2年生で48.6%となっています。
- 次に、小学5年生では、「持ち物の忘れ物が多い」が20.1%、「提出物を出すのが遅れることが多い」が14.4%、「宿題や課題ができないことが多い」が10.6%となっています。
- 中学2年生では、「提出物を出すのが遅れることが多い」が25.2%、「持ち物の忘れ物が多い」が22.9%、「宿題や課題ができないことが多い」が13.9%となっています。
- 高校2年生では、「授業中に居眠りすることが多い」が35.6%、「持ち物の忘れ物が多い」が16.7%、「提出物を出すのが遅れることが多い」が12.5%となっています。



3. 悩みや困りごと

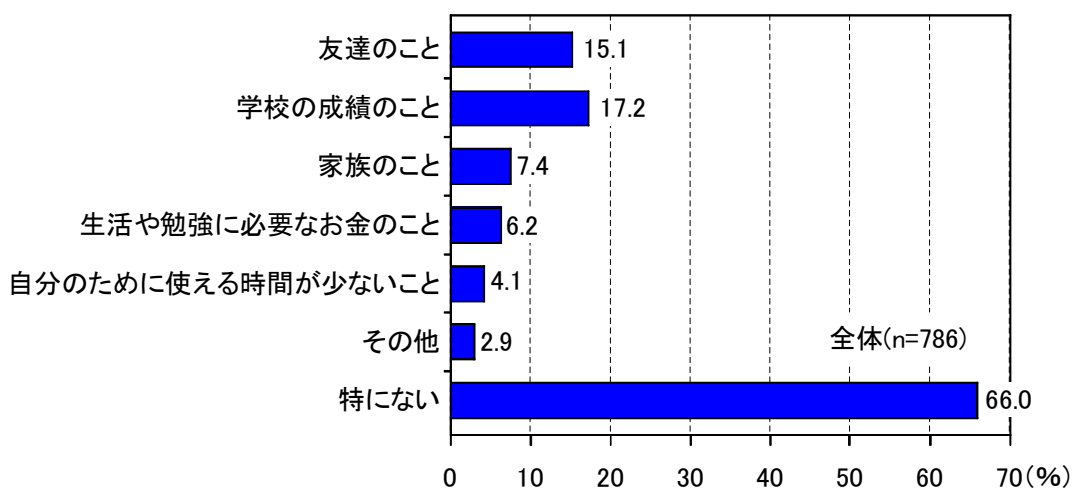
①悩みや困りごと

あなたが悩んでいることや困りごとはありますか。(複数回答)

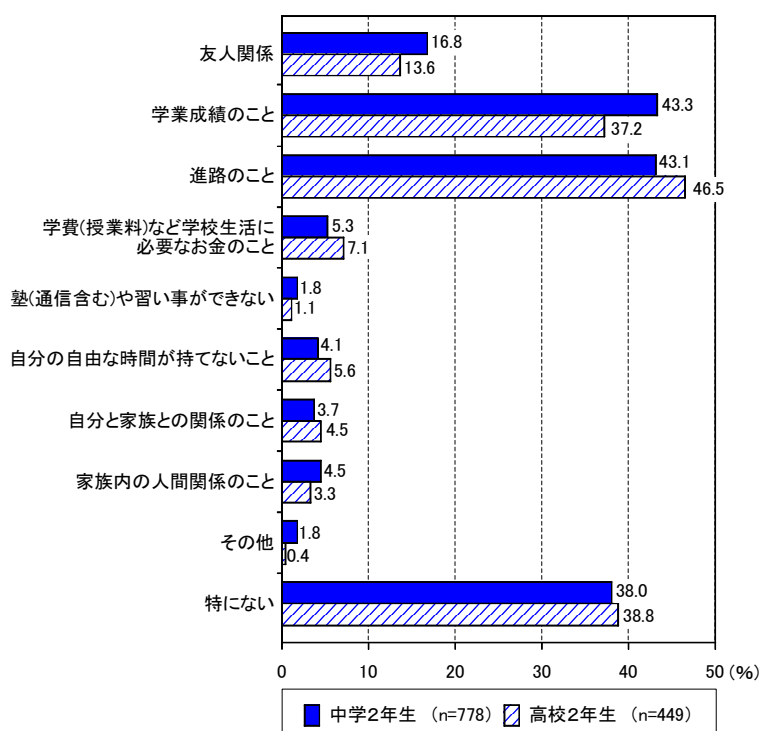
[小学5年生:問 11、中学2年生・高校2年生:問9]

- 悩みや困りごとについては、小学5年生では、「特にない」が最も高く66.0%となっていますが、次いで、「学校の成績のこと」が17.2%、「友達のこと」が15.1%、「家族のこと」が7.4%などとなっています。
- 中学2年生および高校2年生では、「特にない」が最も高く4割となっていますが、「学業成績のこと」「進路のこと」が4割、「友人関係」が1～2割程度と高くなっています。

【小学5年生】 7項目



【中学2年生・高校2年生】 10項目

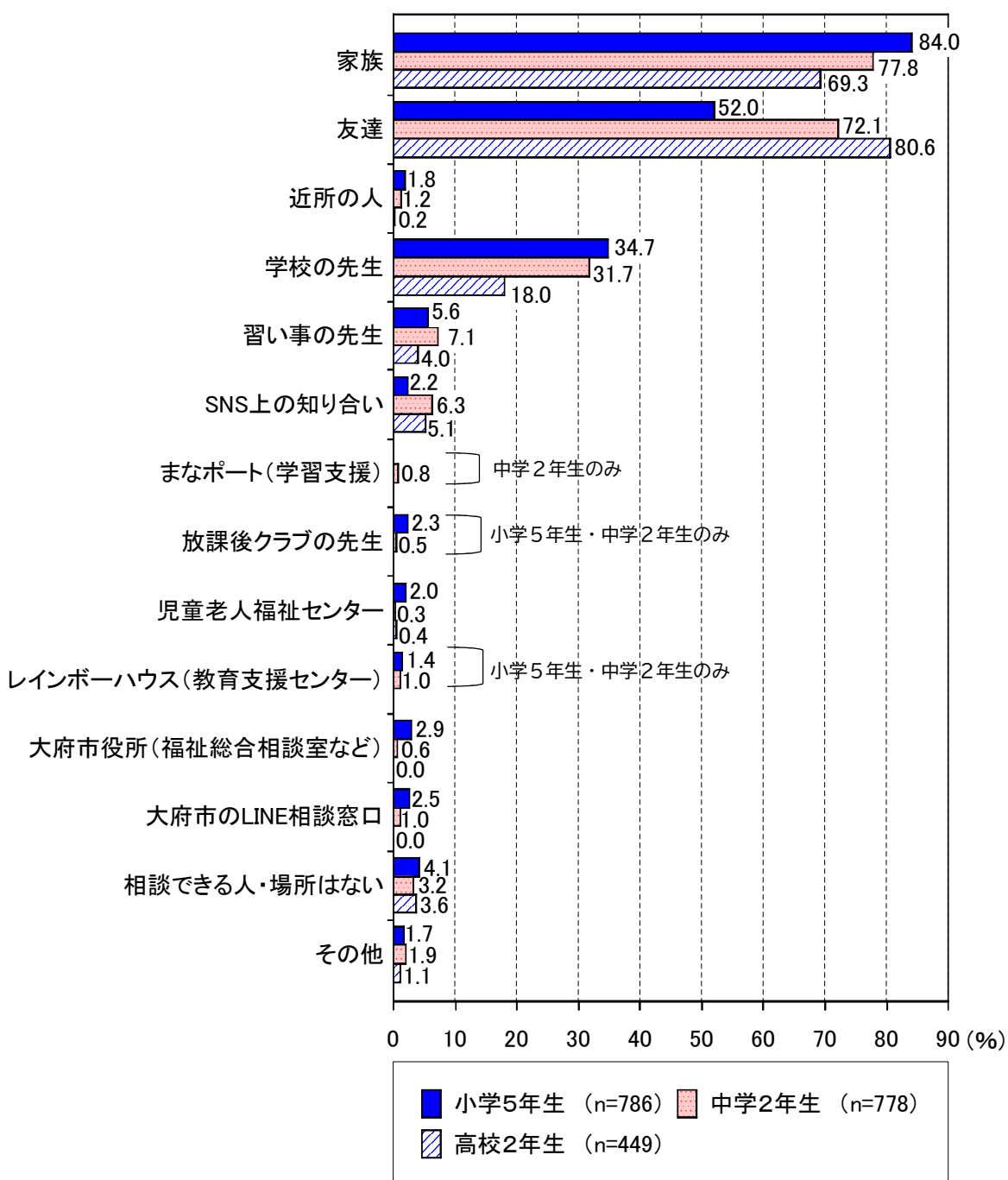


②悩みや困りごとの相談先

あなたは、悩んでいることや困りごとがあったとき、「誰(どこ)」に相談しますか。

(複数回答)[小学5年生:問 12、中学2年生・高校2年生:問 10]

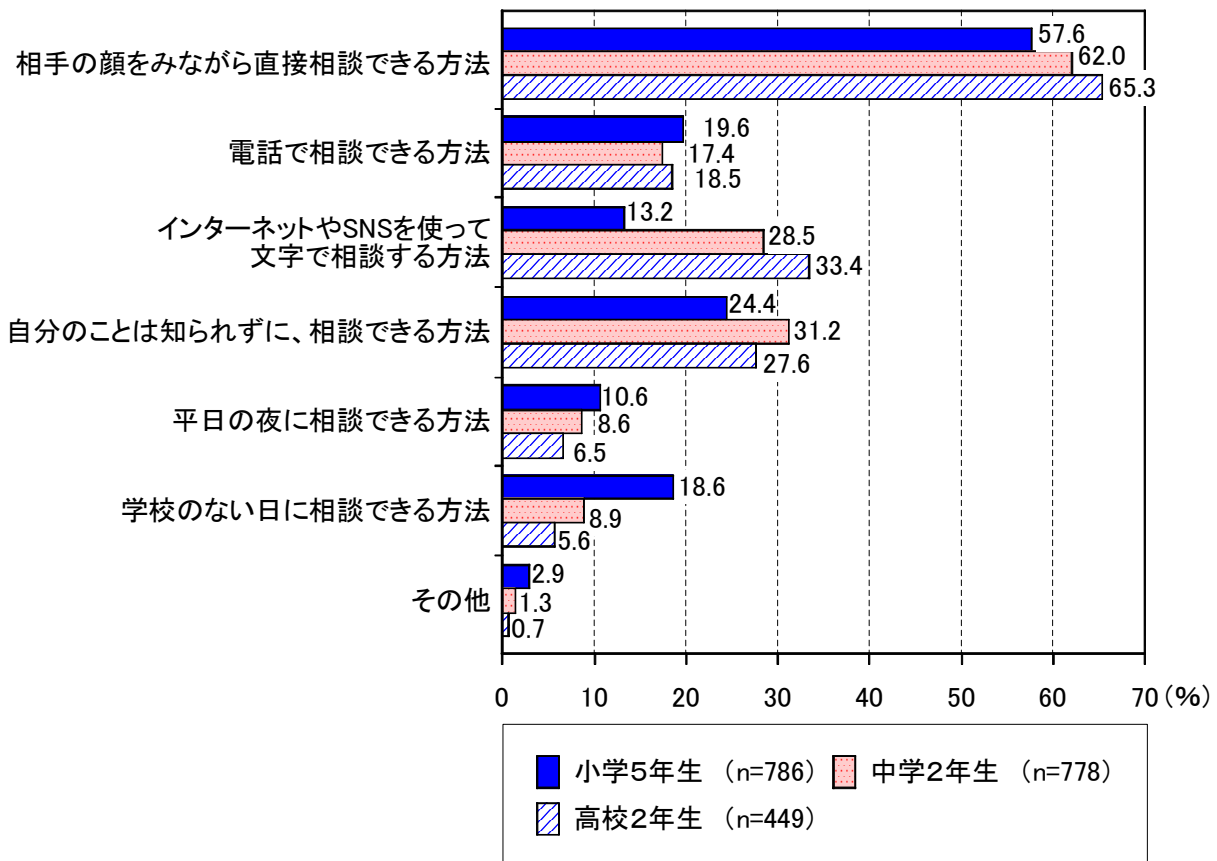
- 悩みや困りごとの相談先は、小学5年生・中学2年生では、「家族」が8割程度と高くなっています。次いで「友達」が、小学5年生では5割、中学2年生では7割と続き、「学校の先生」が、小学5年生・中学2年生ともに3割となっています。
- 高校2年生では、「友達」が最も高く8割、次いで、「家族」が7割、「学校の先生」が2割となっています。



③悩みや困りごとを相談しやすい方法

悩んでいることや困りごとがあったとき、相談しやすいのはどのような「方法」ですか。
 (複数回答)[小学5年生:問 13、中学2年生・高校2年生:問 11]

- 悩みや困りごとを相談しやすい方法については、すべての学年で「相手の顔をみながら直接相談できる方法」が最も高く6割程度となっています。
- 次いで、小学5年生と中学2年生では、「自分のことは知られずに、相談できる方法」が2～3割と高くなっています。さらに、小学5年生では、「電話で相談できる方法」が2割、中学2年生では「インターネットやSNSを使って文字で相談する方法」が3割となっています。
- 高校2年生では、「相手の顔をみながら直接相談できる方法」に次いで、「インターネットやSNSを使って文字で相談する方法」「自分のことは知られずに、相談できる方法」が3割となっています。



4. ヤングケアラーについて

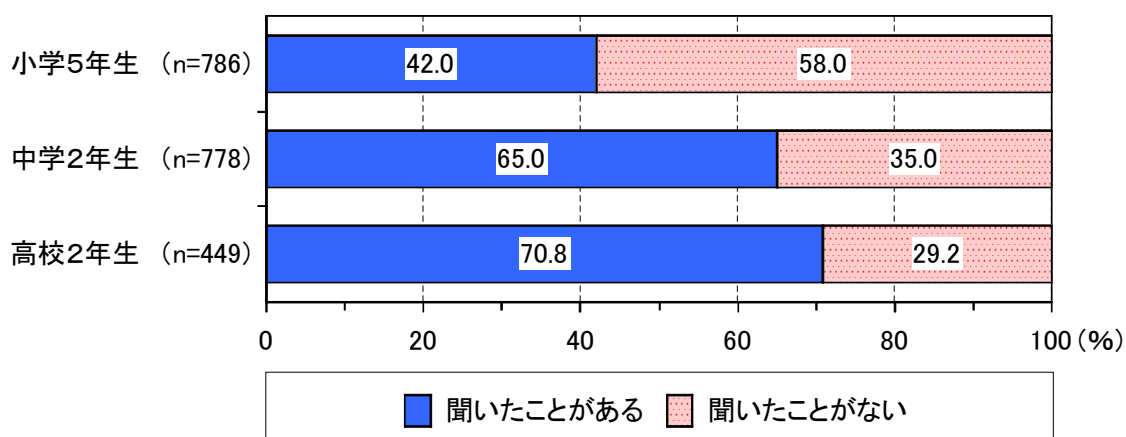
①ヤングケアラーの認知度

あなたは「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。(単数回答)

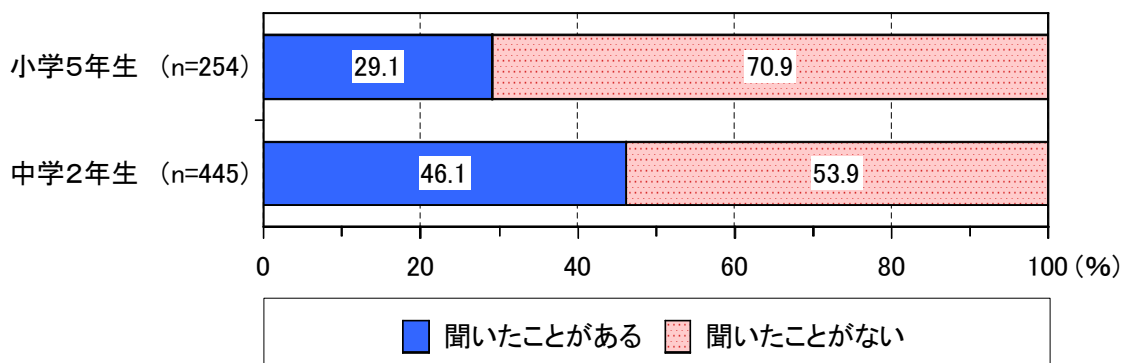
[小学5年生:問 24、中学2年生・高校2年生:問 23]

- ヤングケアラーの言葉を「聞いたことがある」と回答した割合は、小学5年生では 42.0%、中学2年生では、65.0%、高校2年生では 70.8%となっており、学年が上がるにつれて高くなっています。
- 前回調査との比較では、「聞いたことがある」は、小学5年生では12.9ポイント、中学2年生では18.9ポイント増加しています。

【今回調査】



【前回調査】



②ヤングケアラーを知った媒体

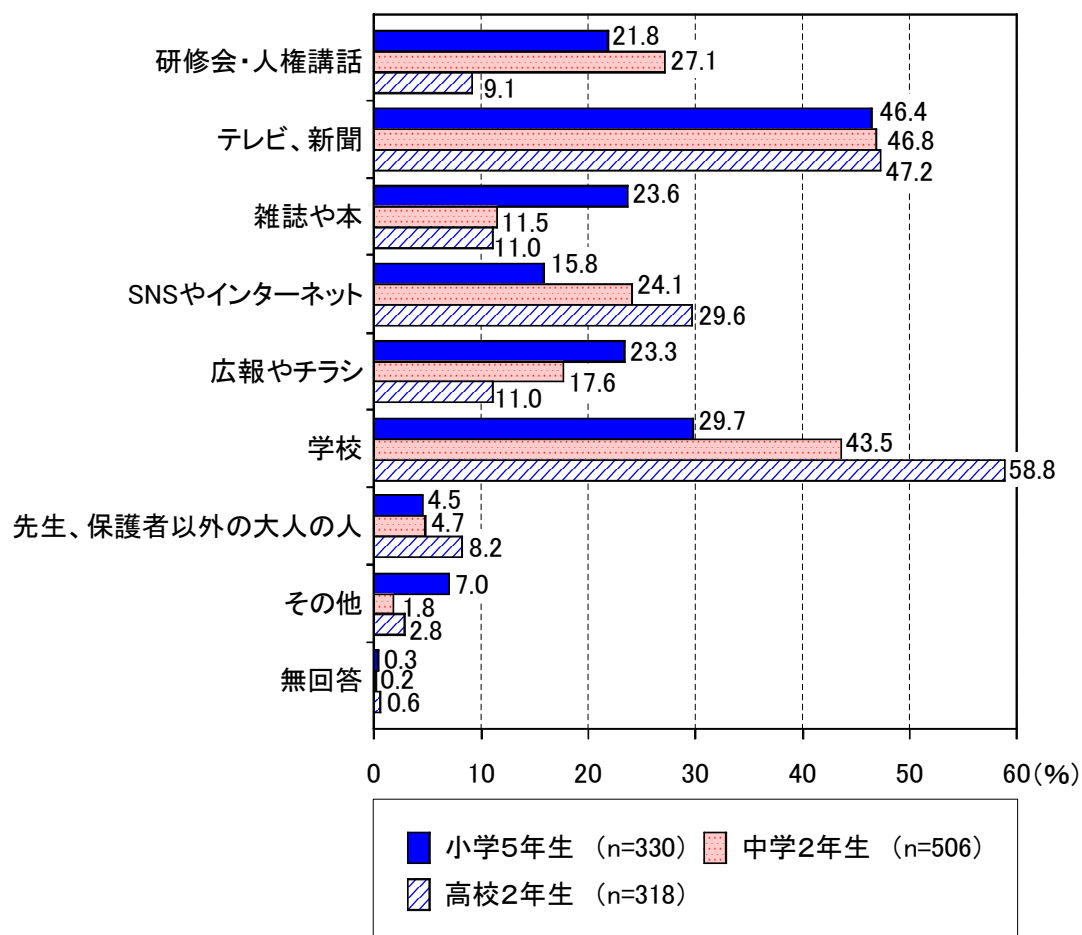
「聞いたことがある」を選んだ人にお聞きします。

「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(複数回答)

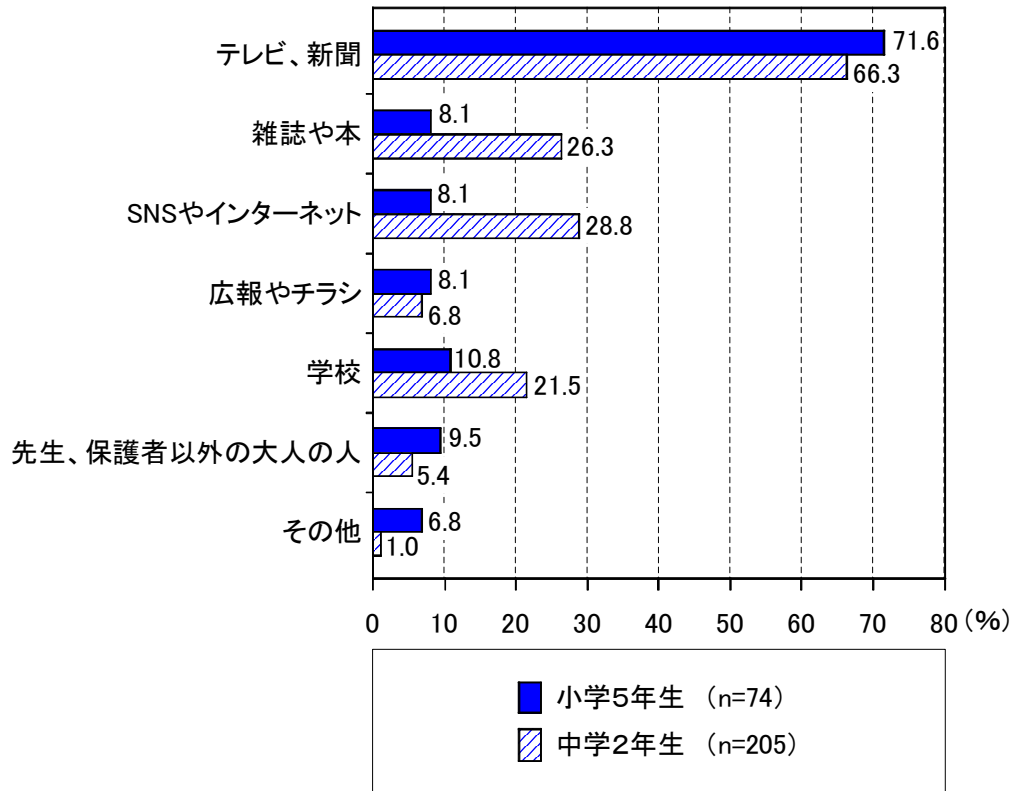
[小学5年生:問 25、中学2年生・高校2年生:問 24]

- ヤングケアラーという言葉を知った媒体は、小学5年生と中学2年生では、「テレビ、新聞」が最も高く 46%程度となっています。次いで、「学校」が、小学5年生では 29.7%、中学2年生では 43.5%となっています。さらに、小学5年生では「雑誌や本」が 23.6%、中学2年生では、「研修会・人権講話」が 27.1%となっています。
- 高校2年生では、「学校」が 58.8%と最も高く、次いで、「テレビ、新聞」が 47.2%、「SNSやインターネット」が 29.6%となっています。
- 「学校」のポイントは、前回調査と比べ、小学5年生では18.9ポイント、中学2年生では22.0ポイントと大きく増加しています。

【今回調査】



【前回調査】



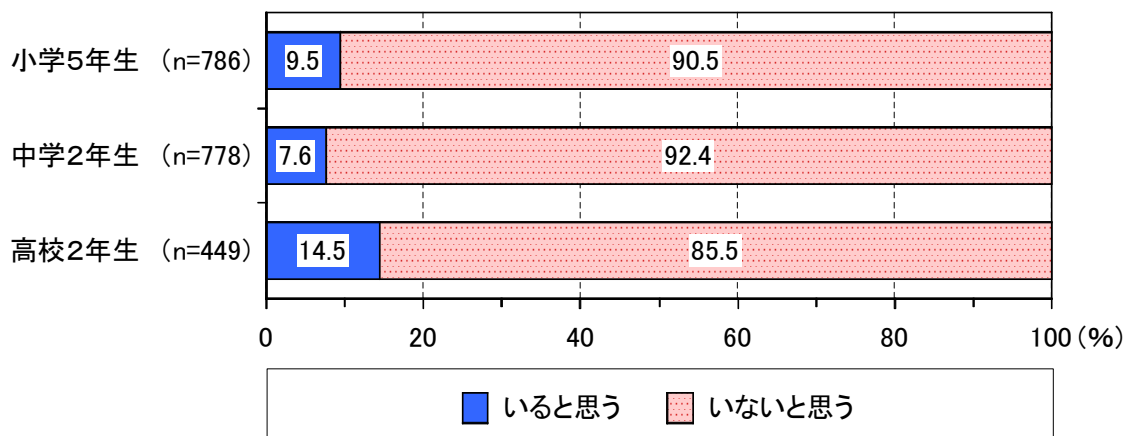
③身近にヤングケアラーがいるか

あなたの身近にヤングケアラーにあてはまるような子どもはいますか。(単数回答)

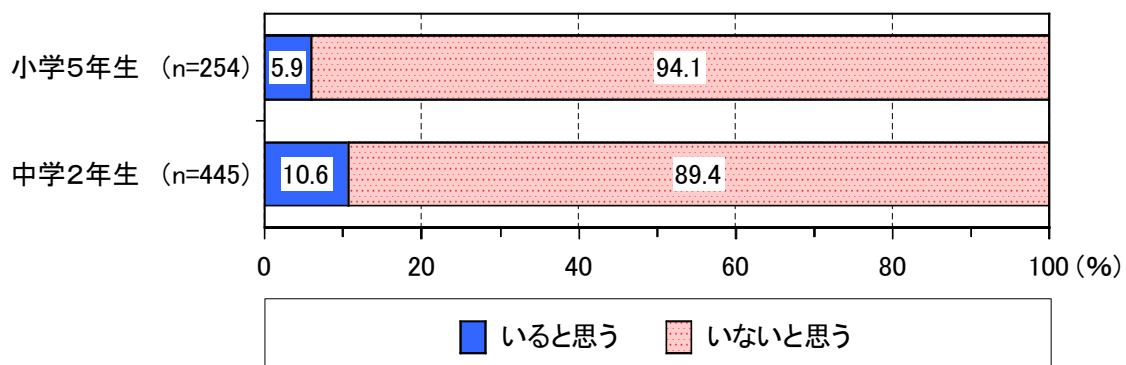
[小学5年生:問 26、中学2年生・高校2年生:問 25]

- 身近にヤングケアラーにあてはまるようなクラスメイトや友達がいるかについては、すべての学年で、「いないと思う」が高く9割前後となっています。
- 他方で、「いると思う」と回答した割合は、小学5年生では 9.5%、中学2年生では 7.6%、高校2年生では 14.5%となっています。
- 前回調査との比較では、「いると思う」は、小学5年生では 3.6 ポイント増加し、中学2年生では 3.0 ポイント減少しています。

【今回調査】



【前回調査】

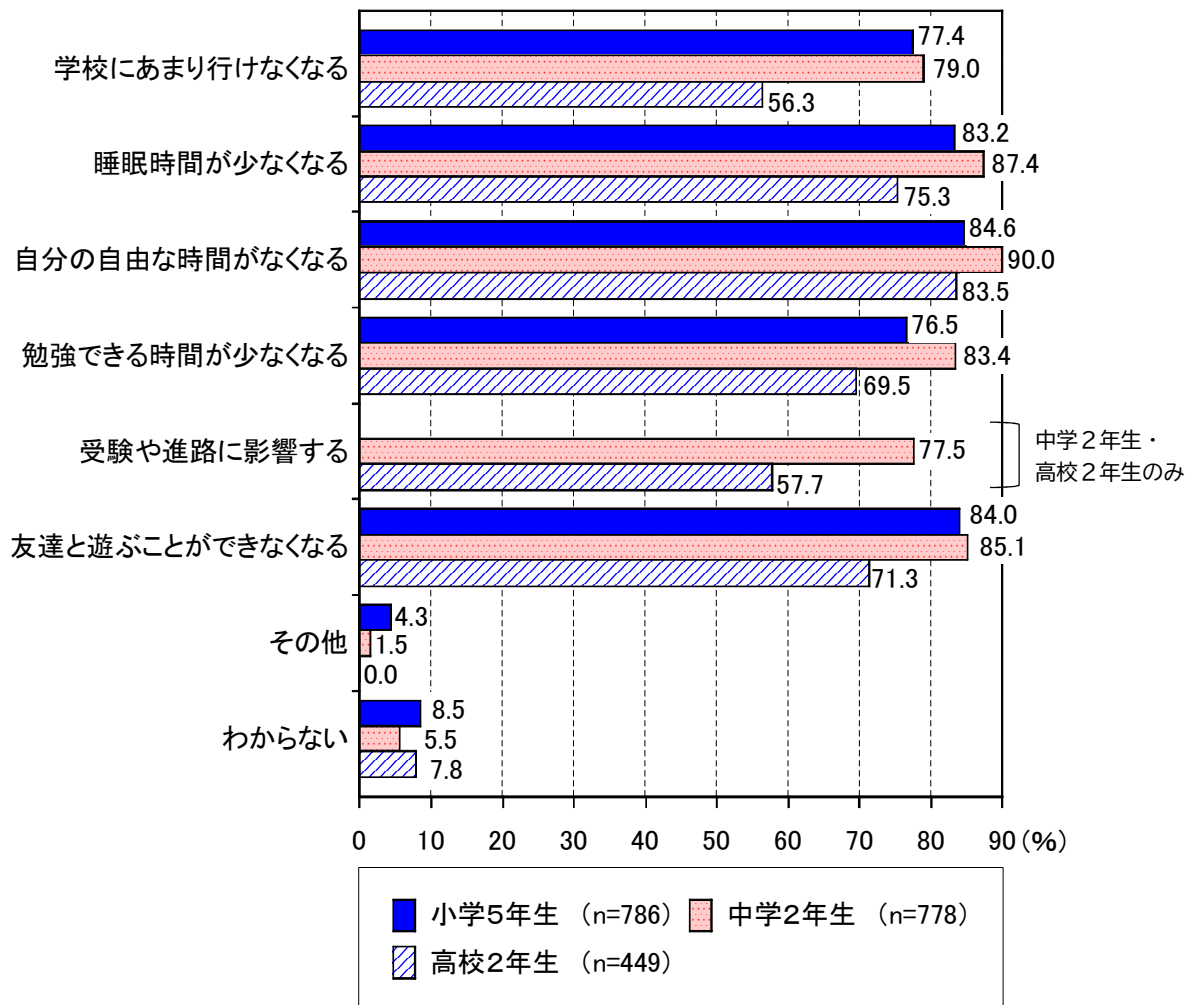


④ヤングケアラーの生活への影響

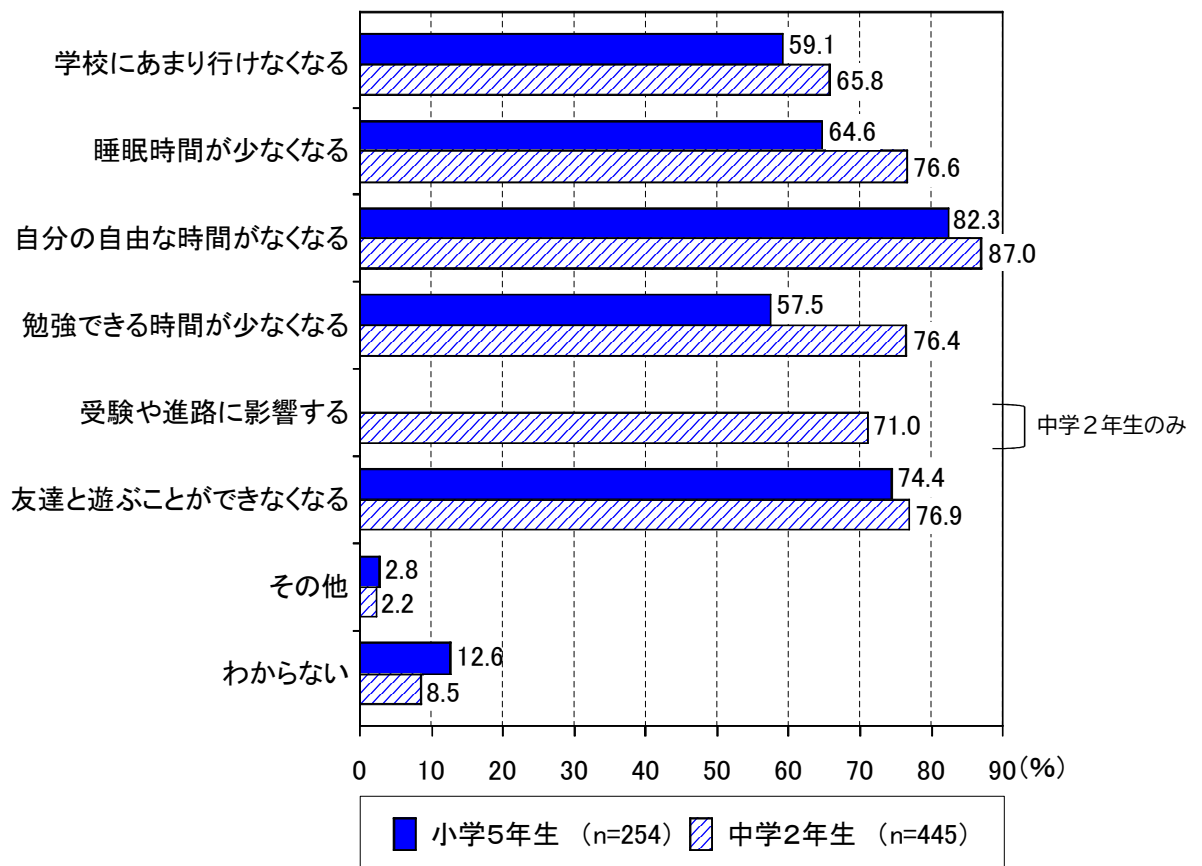
ヤングケアラーの状態になると、毎日の生活にどんな影響が出るとお思いますか。(複数回答)
 [小学5年生:問 27、中学2年生・高校2年生:問 26]

- ヤングケアラーの状態になると、毎日の生活にどんな影響があるかについては、小学5年生と中学2年生では、おおむねすべての項目で8割程度かそれ以上と高くなっています。
- 小学5年生では、「自分の自由な時間がなくなる」が 84.6%、「友達と遊ぶことができなくなる」が 84.0%、「睡眠時間が少なくなる」が 83.2%です。
- 中学2年生では、「自分の自由な時間がなくなる」が 90.0%、「睡眠時間が少なくなる」が 87.4%、「友達と遊ぶことができなくなる」が 85.1%です。
- 高校2年生では、「自分の自由な時間がなくなる」が 83.5%、「睡眠時間が少なくなる」が 75.3%、「友達と遊ぶことができなくなる」が 71.3%です。

【今回調査】



【前回調査】

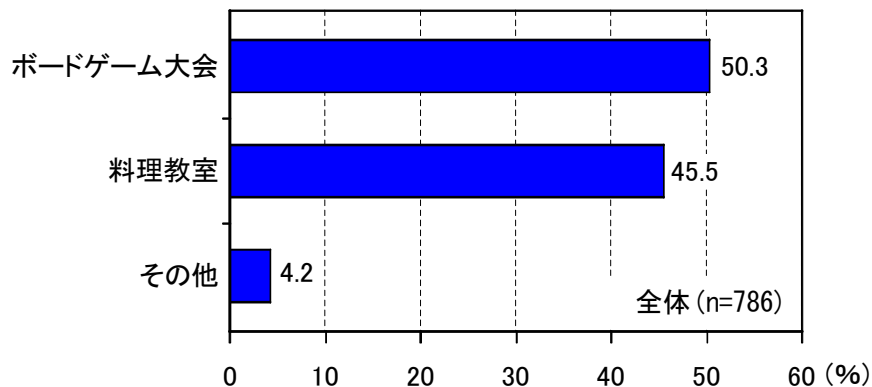


⑤市が主催するサロンで関心のある企画

市では、ヤングケアラーの子どもの支援としてサロン(交流ができる場)を設けています。
サロンの企画の内容について、関心があるものを教えてください。(複数回答)
[小学5年生:問 28、中学2年生・高校2年生:問 27]

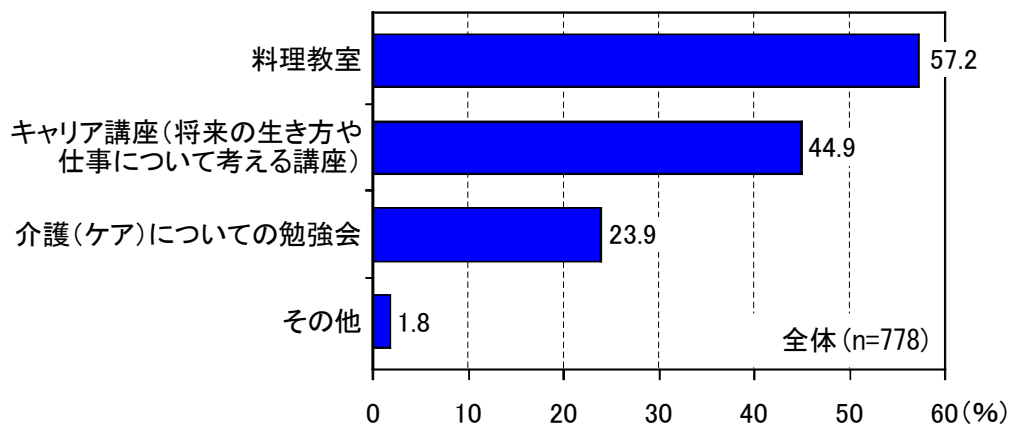
【小学5年生】

- 市が主催するサロンで関心のある企画は、小学5年生では、「ボードゲーム大会」が 50.3%、「料理教室」が 45.5%となっています。



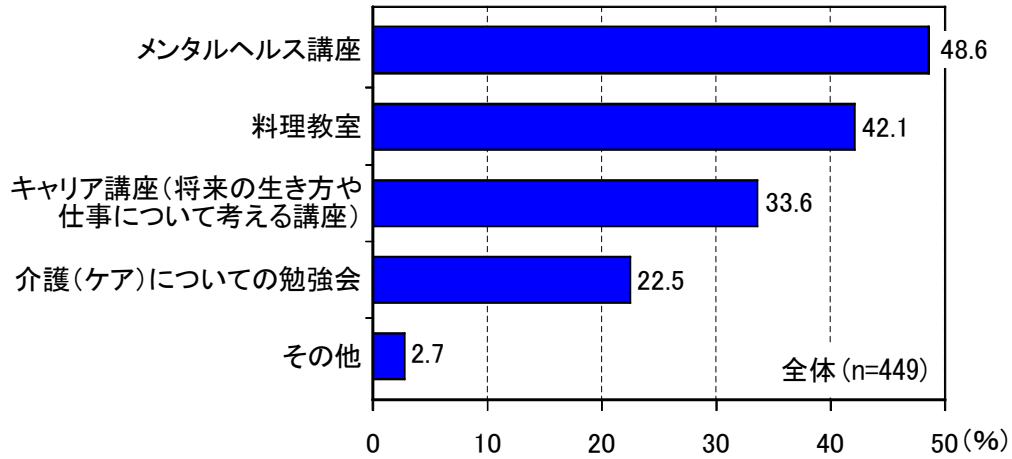
【中学2年生】

- 市が主催するサロンで関心のある企画は、中学2年生では、「料理教室」が 57.2%、「キャリア講座(将来の生き方や仕事について考える講座)」が 44.9%、「介護(ケア)についての勉強会」が 23.9%となっています。



【高校2年生】

- 市が主催するサロンで関心のある企画は、高校2年生では、「メンタルヘルス講座」が48.6%、「料理教室」が42.1%、「キャリア講座(将来の生き方や仕事について考える講座)」が33.6%となっています。

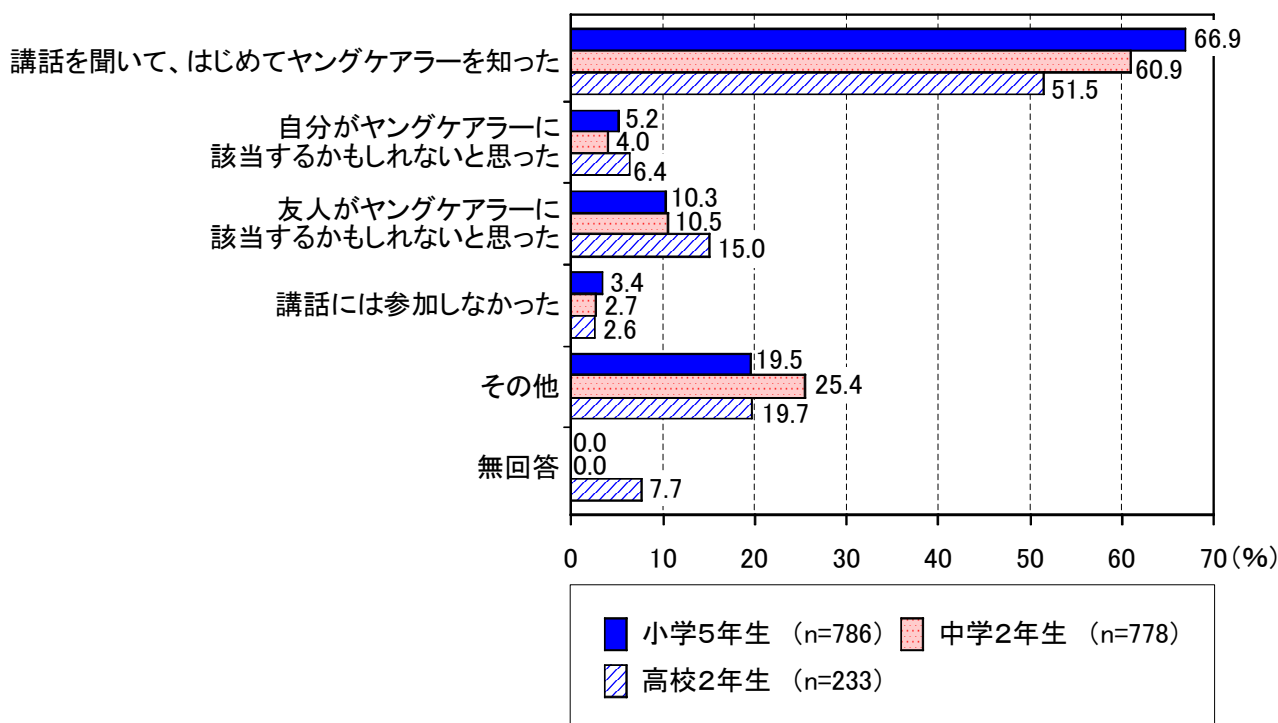


⑥人権講話の感想

大府市の人権講話の感想を教えてください。(複数回答)

[小学5年生:問 29、中学2年生・高校2年生:問 28]

- 市が主催する人権講話の感想は、すべての学年で、「講話を聞いて、はじめてヤングケアラーを知った」が最も高く、小学5年生では 66.9%、中学2年生では 60.9%、高校2年生では 51.5%となっています。
- 次に、すべての学年で、「友人がヤングケアラーに該当するかもしれないと思った」が高く、小学5年生では 10.3%、中学2年生では 10.5%、高校2年生では 15.0%となっています。
- また、「自分がヤングケアラーに該当するかもしれないと思った」は、小学5年生では 5.2%、中学2年生では 4.0%、高校2年生では 6.4%となっています。



※大府高校では人権講話を実施していないため、大府高校の生徒にはお尋ねしていません。

5. 家族の中にお世話をする必要がある人がいる子どもの置かれた状況

①家族の中にお世話が必要な人がいるか

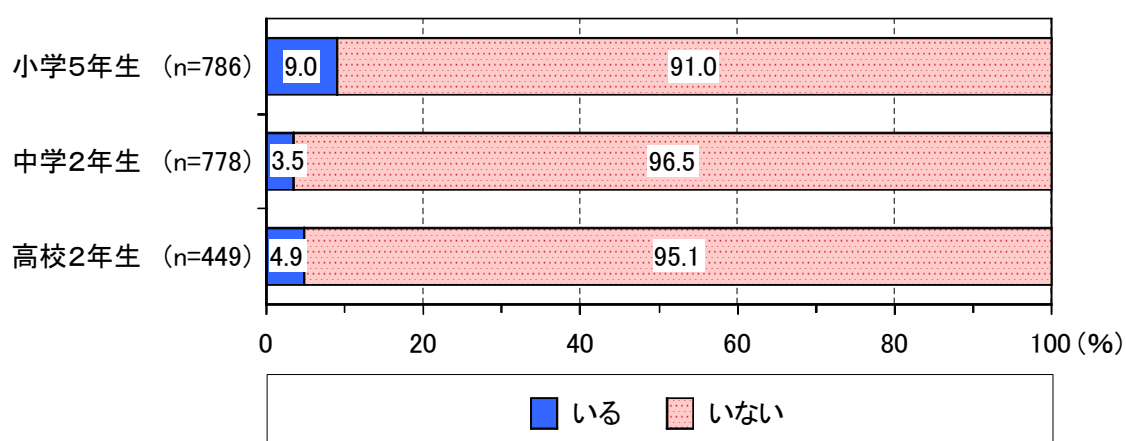
家族の中にお世話が必要な人はいますか。

(ここでお世話とは、ふつう大人が行うような家事や家族のお世話をいいます。)

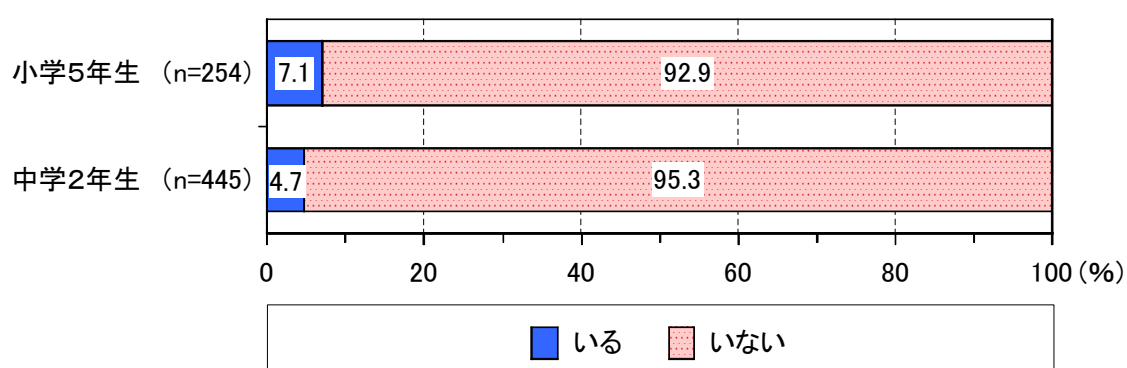
(単数回答)[小学5年生:問 14、中学2年生・高校2年生:問 12]

- 家族の中にお世話が必要な人がいるかについては、すべての学年で「いない」が9割以上となっています。
- 他方で、「いる」と回答した割合は、小学5年生では 9.0%です。中学2年生では 3.5%、高校2年生では 4.9%となっています。

【今回調査】



【前回調査】



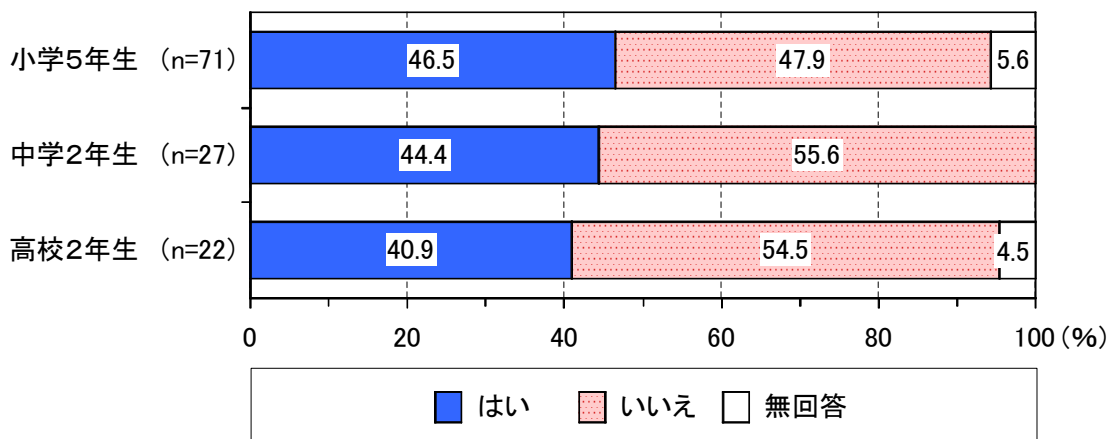
②自身がお世話をしているか

「いる」を選んだ人にお聞きします。あなたはその人のお世話をしていますか。(単数回答)

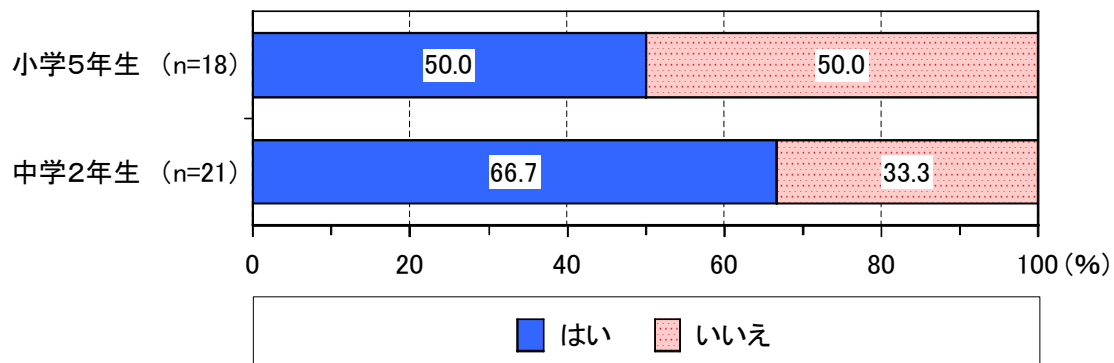
[小学5年生:問 15、中学2年生・高校2年生:問 13]

- 「家族の中にお世話が必要な人がいる」と回答した人のうち、自身がお世話をしているかについて、「はい」と回答した割合は、小学5年生では 46.5%(33 件)、中学2年生では 44.4%(12 件)、高校2年生では 40.9%(9件)となっています。
- 前回調査との比較では、小学5年生では 3.5 ポイント、中学2年生では 22.3 ポイント減少しています。

【今回調査】



【前回調査】



<注>

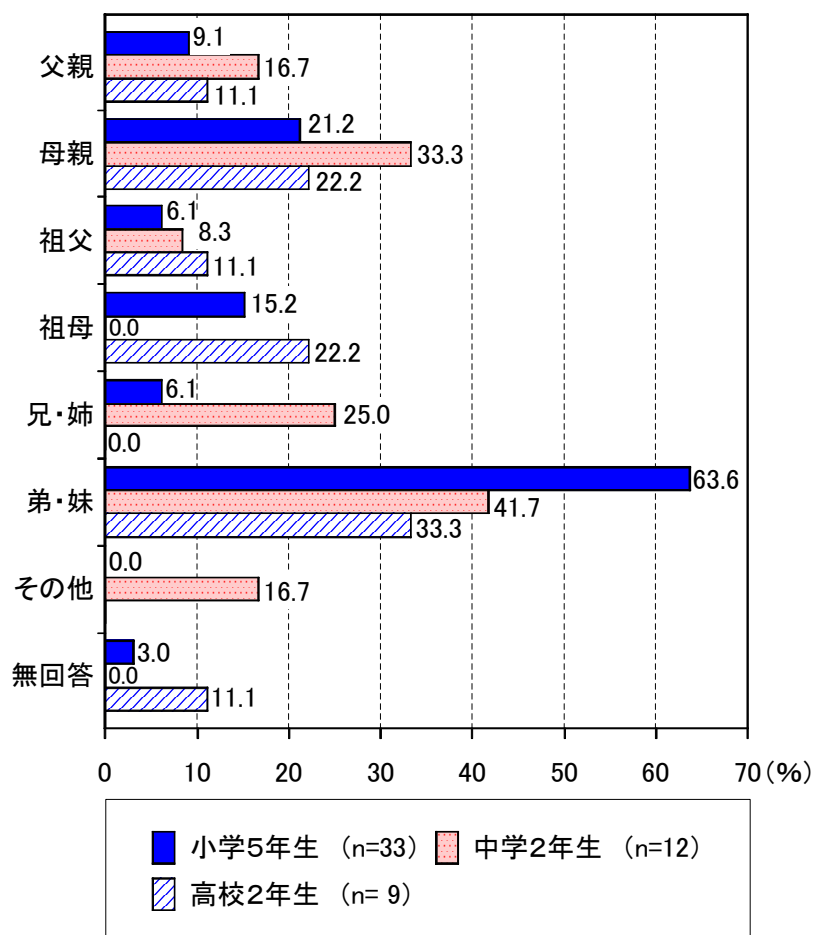
P31③～P49⑤については、特定の対象者(家族の中にお世話が必要な人がいるかについて「いる」と回答した人のうち、「自分がお世話をしているか」について「はい」と回答した人)に限定した設問となっているため、回答者数(n)が少なくなっています。そのため、参考程度の資料となります。

③お世話をしている対象

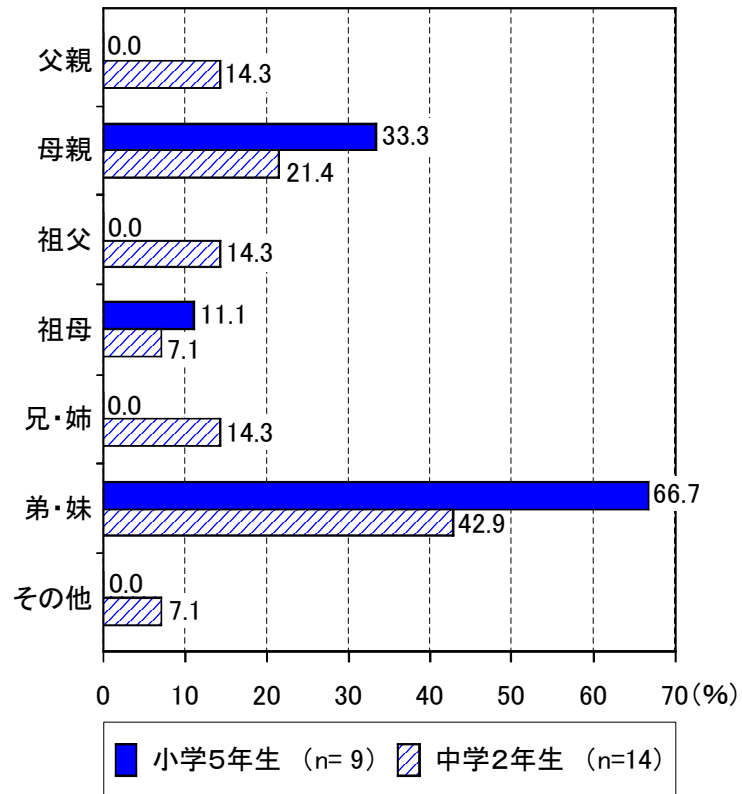
②で「はい」を選んだ人にお聞きします。あなたは誰にどのようなお世話をしていますか。(複数回答) [小学5年生:問 16、中学2年生・高校2年生:問 14]

- お世話をしている対象は、小学5年生では、「弟・妹」が 63.6%(21 件)、「母親」が 21.2%(7件)、「祖母」が 15.2%(5件)となっています。
- 中学2年生では、「弟・妹」が 41.7%(2件)、「母親」が 33.3%(4件)、「兄・姉」が 25.0%(3件)となっています。「母親」については、他の学年と比べると 10 ポイント程度高くなっています。
- 高校2年生では、「弟・妹」が 33.3%(3件)、「母親」が 22.2%(2件)、「祖母」が 22.2%(2件)となっています。

【今回調査】



【前回調査】

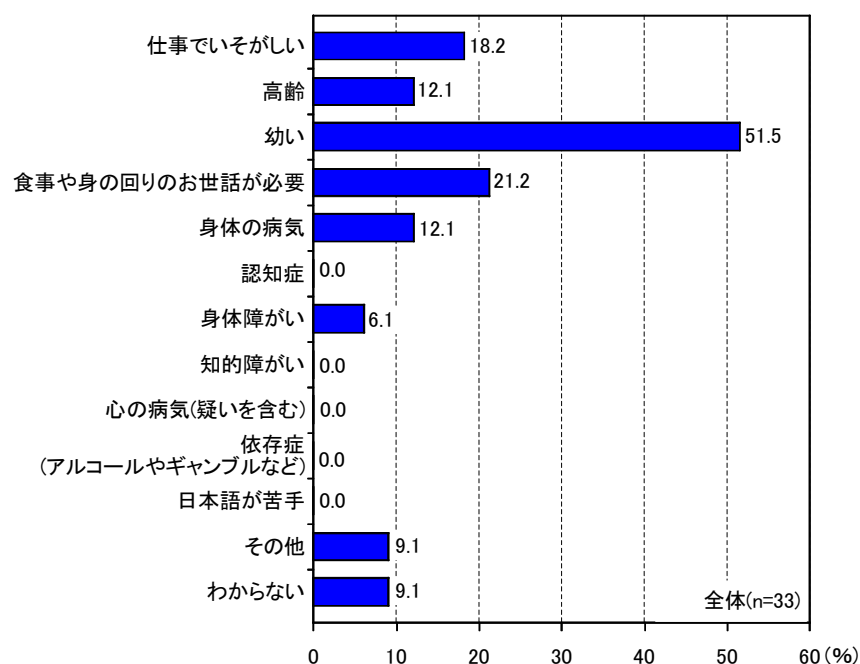


④お世話をしている人の状況

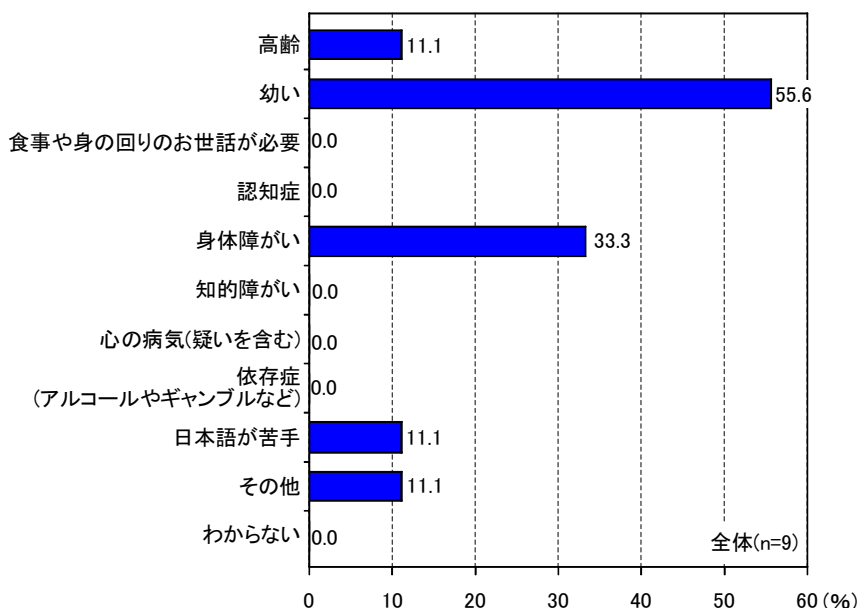
お世話をしている人の状況について教えてください。(複数回答)

- お世話をしている人の状況は、小学5年生では、「若い」が 51.5%(17 件)、「食事や身の回りのお世話が必要」が 21.2%(7件)、「仕事でいそがしい」が 18.2%(4件)となっています。
- 中学2年生では、「若い」が 33.3%(4件)、「身体障がい」、「日本語が苦手」が 16.7%(2件)となっています。
- 高校2年生では、「高齢(65 歳以上)」、「若い」が 33.3%(3件)、「要介護(介護が必要な状態)」、「認知症」が 22.2%(2件)となっています。

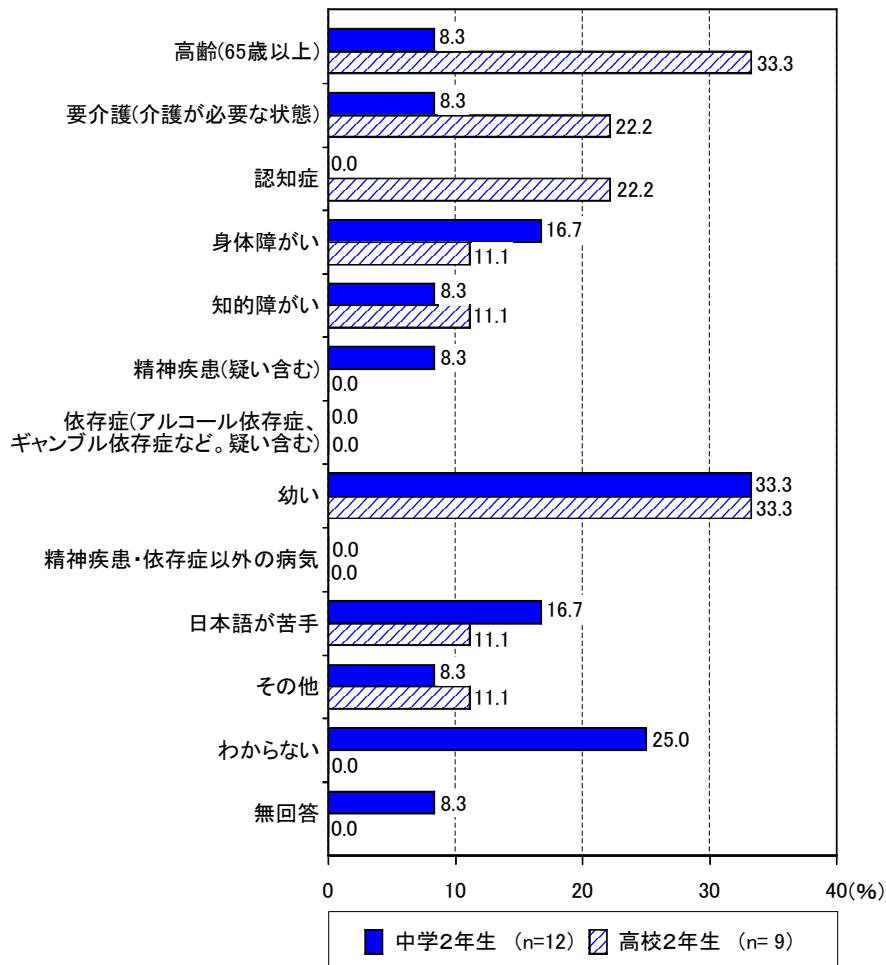
【小学5年生 今回調査】



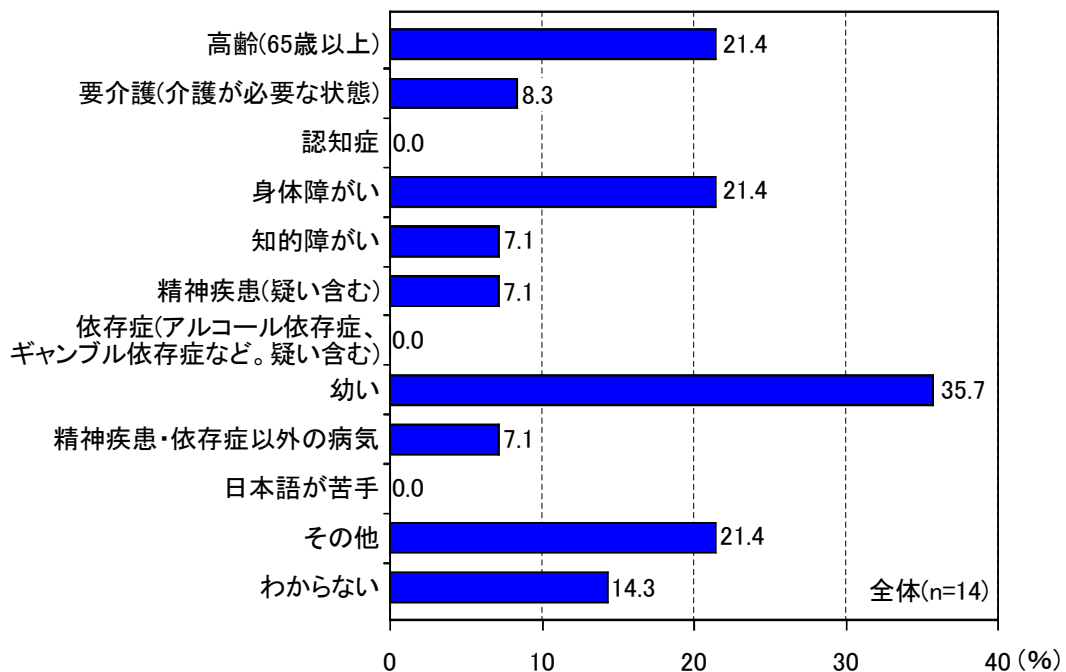
【小学5年生 前回調査】



【中学2年生・高校2年生 今回調査】



【中学2年生 前回調査】

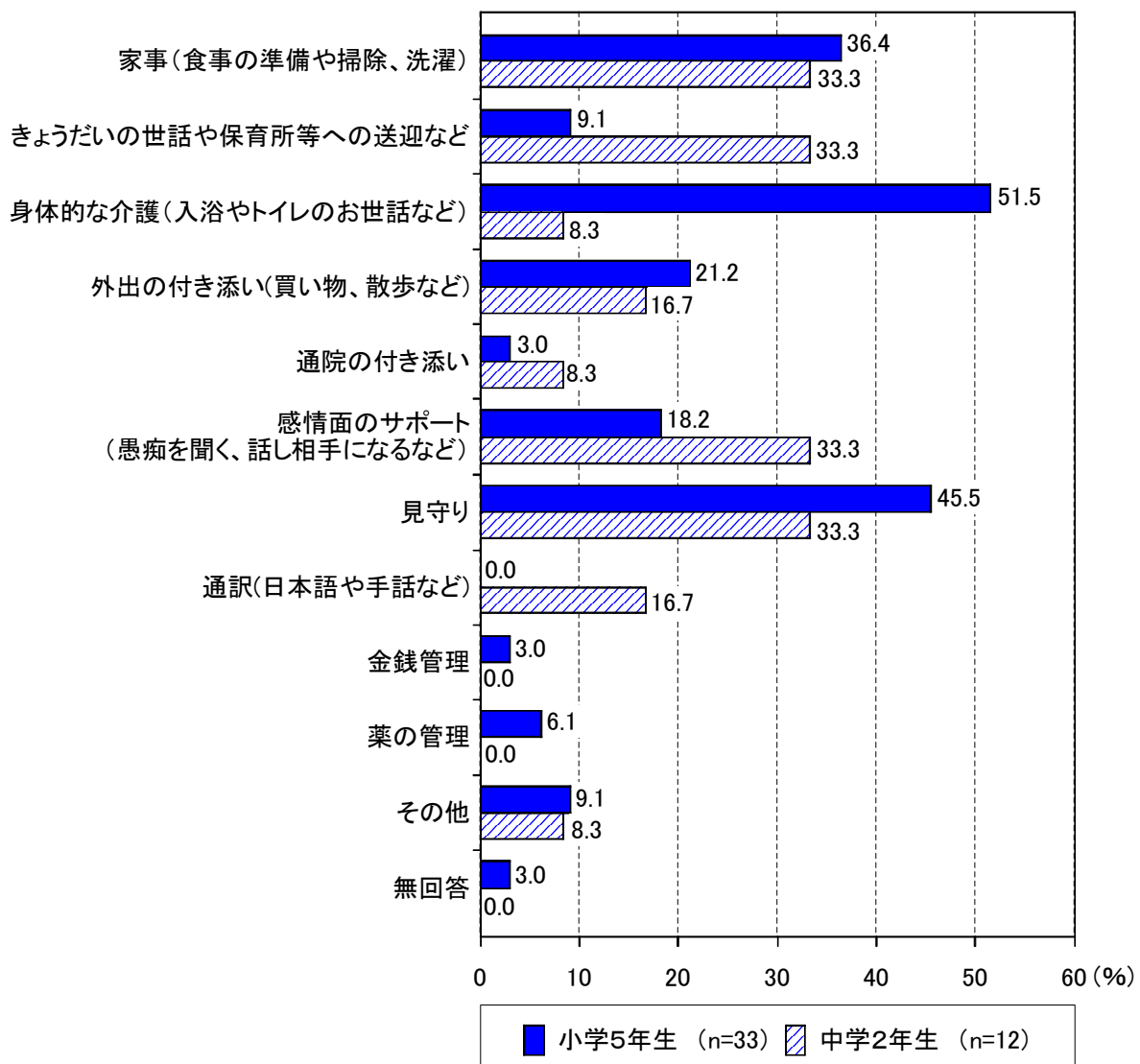


⑤お世話の種別

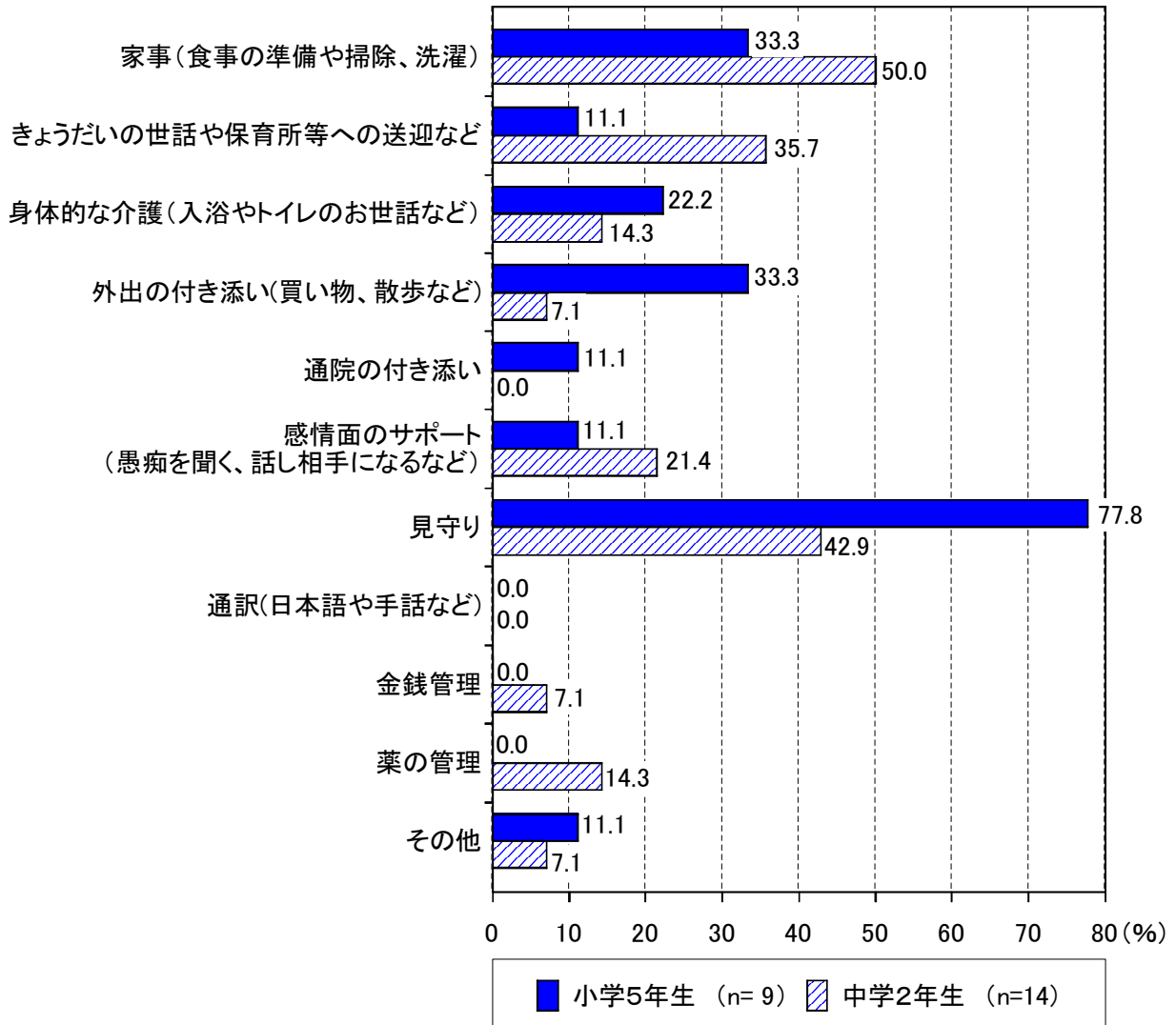
あなたはどのようなお世話をしていますか。(複数回答)

- お世話の種別は、小学5年生では、「身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)」が 51.5% (17件)、「見守り」が45.5%(15件)、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が36.4%(12件)となっています。
- 中学2年生では、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」、「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」、「見守り」が 33.3%(4件)となっています。
- 高校2年生では、「見守り」が 66.7%(6件)、「身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)」が 33.3%(3件)、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」、「外出の付き添い(買い物、散歩など)」、「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」が 22.2%(2件)となっています。

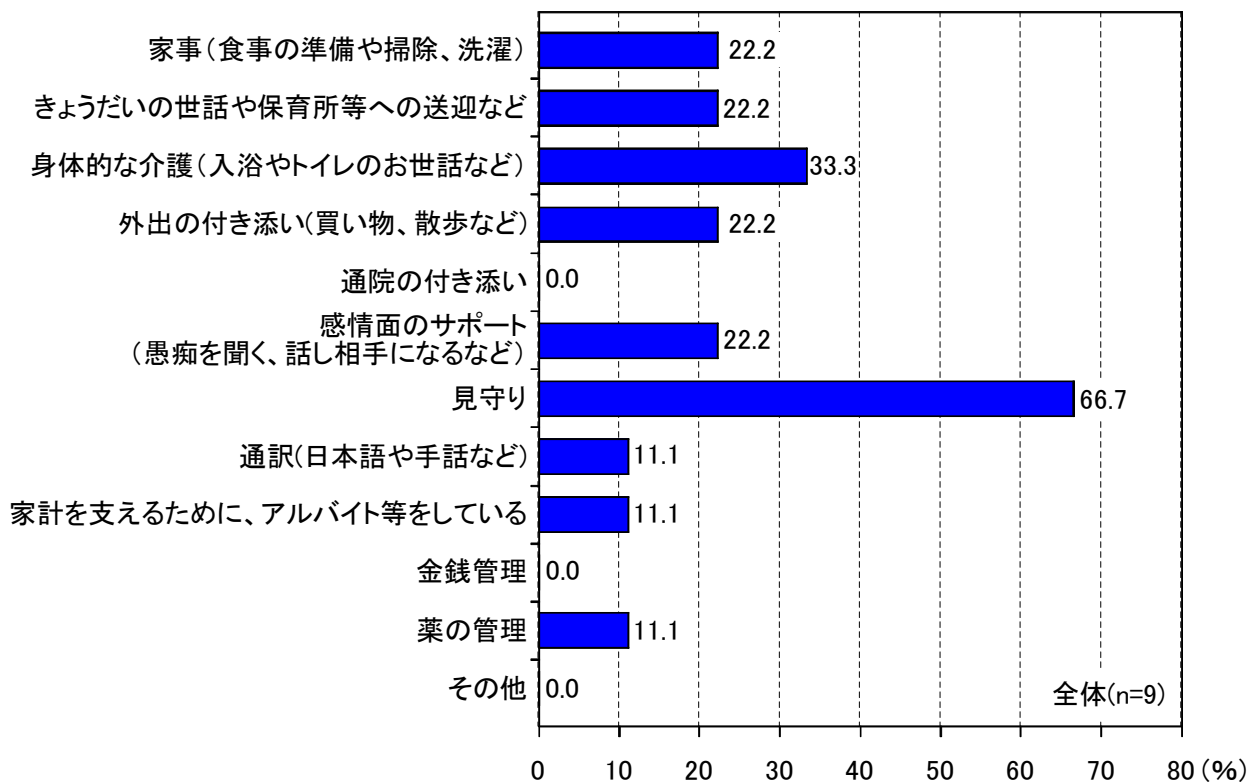
【小学5年生・中学2年生 今回調査】



【小学5年生・中学2年生 前回調査】



【高校2年生】

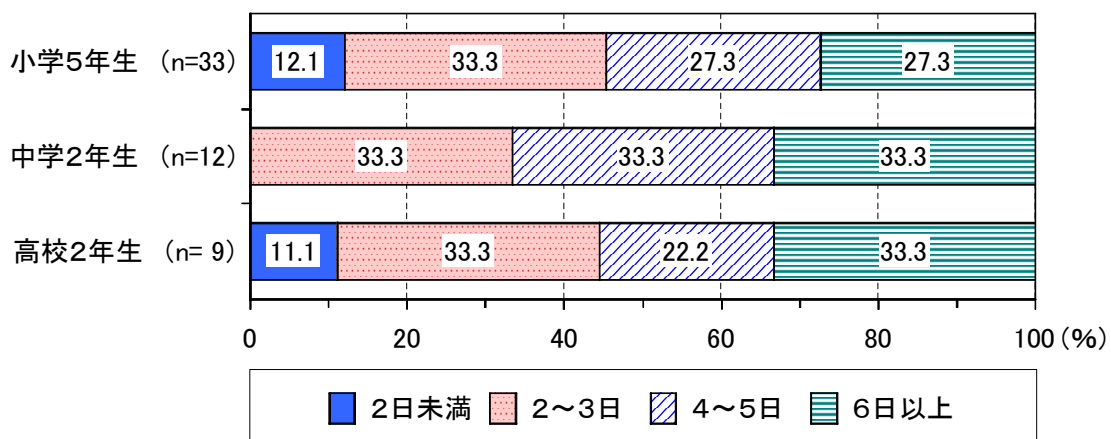


⑥お世話の頻度

あなたは、どれくらいお世話をしていますか。(数量回答)

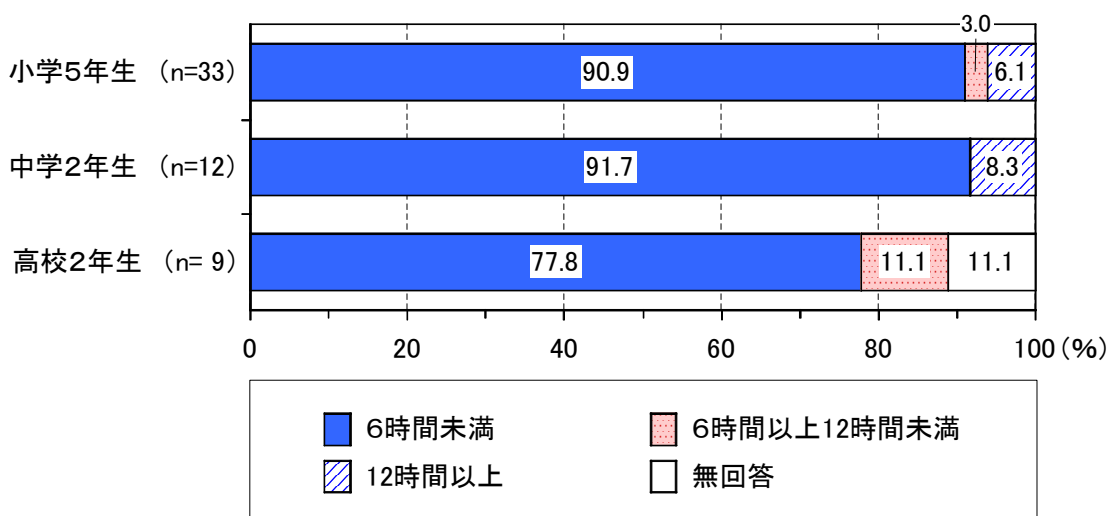
(1)週の日数

- 週の日数では、小学5年生では、「2～3日」が 33.3%(11 件)、「4～5日」、「6日以上」が 27.3%(9件)となっています。
- 中学2年生では、「2～3日」、「4～5日」、「6日以上」が 33.3%(4件)となっています。
- 高校2年生では、「2～3日」、「6日以上」が 33.3%(3件)、「4～5日」が 22.2%(2件)となっています。



(2)お世話をしている時間

- お世話をしている時間では、小学5年生では、「6時間未満」が 90.9%(30 件)、「12 時間以上」が 6.1%(2件)、「6時間以上 12 時間未満」が 3.0%(1件)となっています。
- 中学2年生では、「6時間未満」が 91.7%(11 件)、「12 時間以上」が 8.3%(1件)となっています。
- 高校2年生では、「6時間未満」が 77.8%(7件)、「6時間以上 12 時間未満」が 11.1%(1件)となっています。

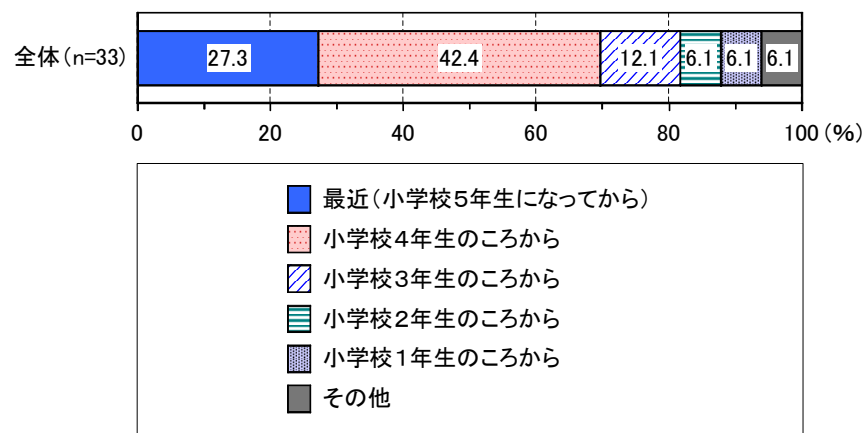


⑦お世話をしている期間

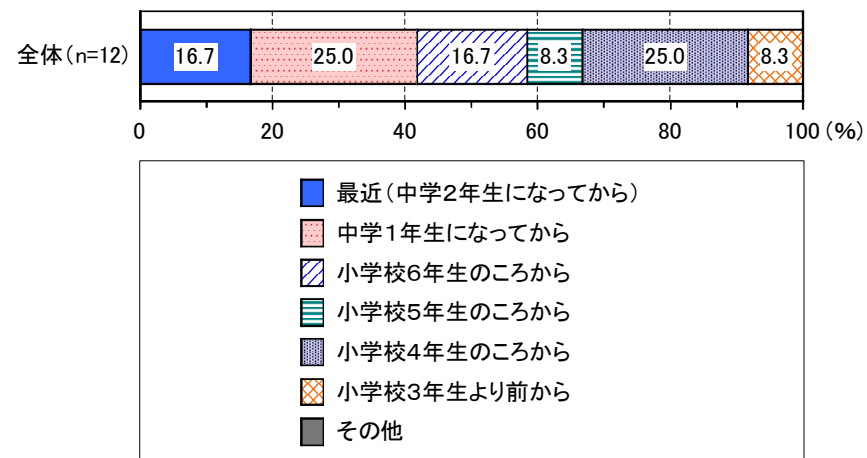
あなたはお世話をするようになってどれくらいの期間が経っていますか。(単数回答)

- お世話をはじめてからの期間は、小学5年生では、「小学校4年生のころから」が 42.4% (14 件)、「最近(小学校5年生になってから)」が 27.3%(9件)、「小学校3年生のころから」が 12.1%(4件)となっています。
- 中学2年生では、「中学1年生になってから」、「小学校4年生のころから」が 25.0%(3件)、「最近(中学2年生になってから)」、「小学校6年生のころから」が 16.7%(2件)となっています。
- 高校2年生では、「高校1年生になってから」、「中学生のころから」が 33.3%(3件)、「小学校のころから」が 22.2%(2件)となっています。

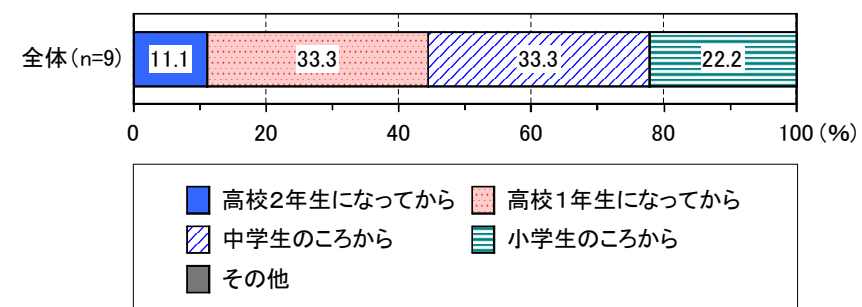
【小学5年生】



【中学2年生】



【高校2年生】



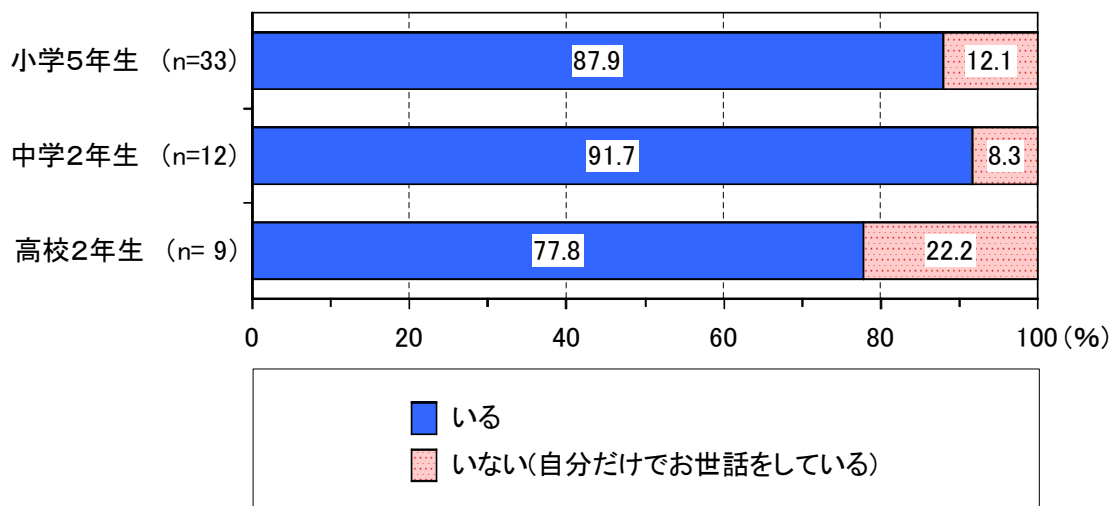
⑧お世話を一緒にしてくれる人の有無

あなたのお世話を一緒にしてくれる人、手伝ってくれる人はいますか。(複数回答)

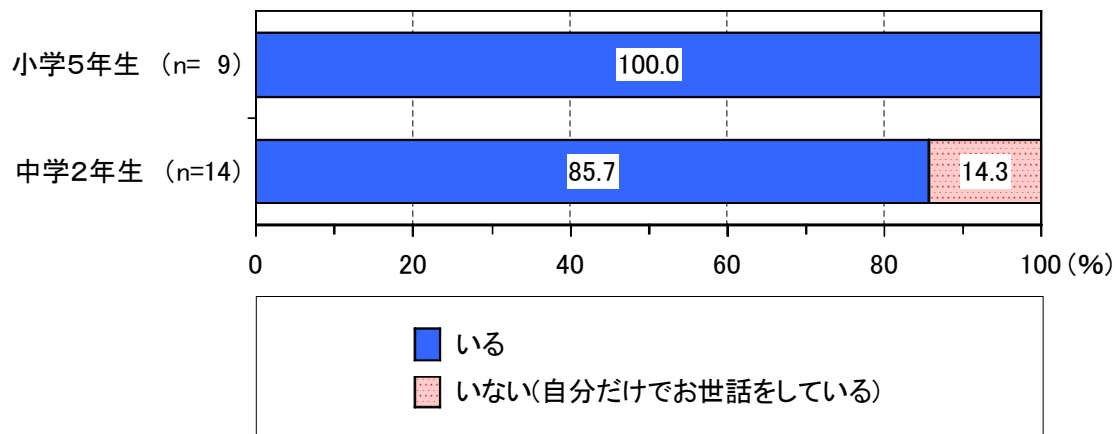
[小学5年生:問 17、中学2年生・高校2年生:問 15]

- お世話を一緒にしてくれる人の有無について、「いない」は、小学5年生では 12.1%(4件)、中学2年生では 8.3%(1件)、高校2年生では 22.2%(2件)となっています。

【今回調査】



【前回調査】

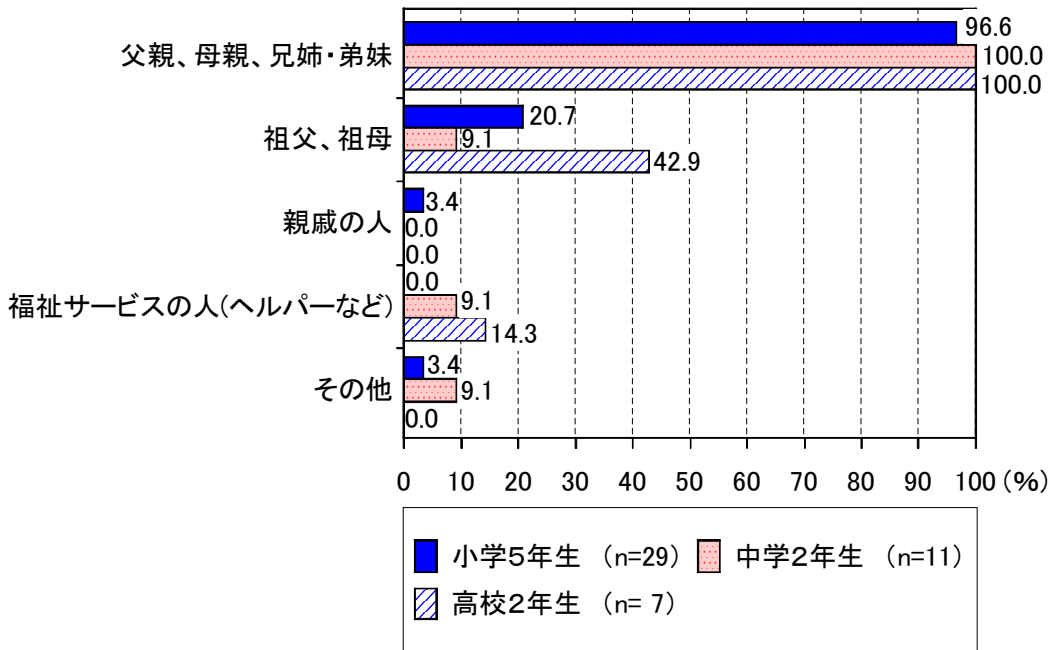


⑨お世話を一緒にしてくれる人

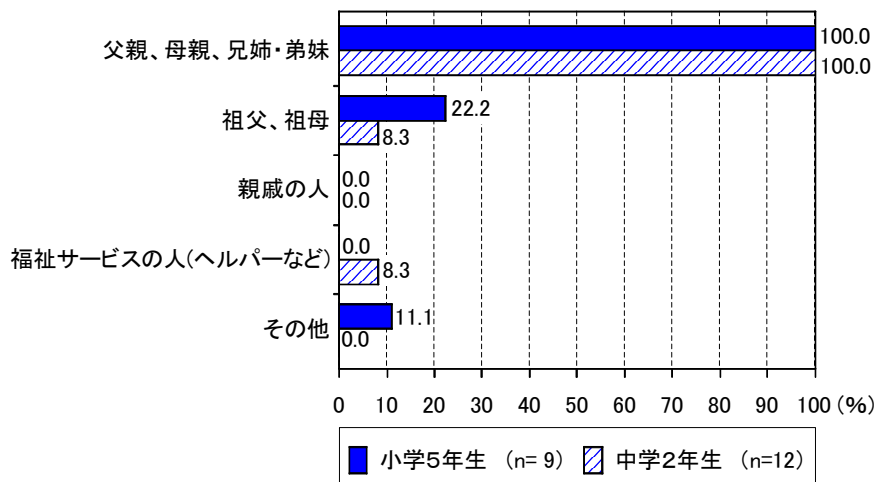
⑧で「いる」を選んだ人にお聞きします。お世話を一緒にしてくれる人は誰となっていますか。(複数回答)[小学5年生:問 18、中学2年生・高校2年生:問 16]

- お世話を一緒にしてくれる人は、すべての学年で「父親、母親、兄姉、弟妹」が最も高く、9～10割となっています。
- 小学5年生では、「父親、母親、兄姉、弟妹」が 96.6%(28 件)、「祖父、祖母」が 20.7%(6 件)、「親戚の人」が 3.4%(1件)となっています。
- 中学2年生では、「父親、母親、兄姉、弟妹」が 100%(11 件)、「祖父、祖母」、「福祉サービスの人(ヘルパーなど)」が 9.1%(1件)となっています。
- 高校2年生では、「父親、母親、兄姉、弟妹」が 100%(7件)、「祖父、祖母」が 42.9%(3件)、「福祉サービスの人(ヘルパーなど)」が 14.3%(1件)となっています。「祖父・祖母」は他の学年に比べ高くなっています。

【今回調査】



【前回調査】



⑩お世話をすることのつらさ・悩み

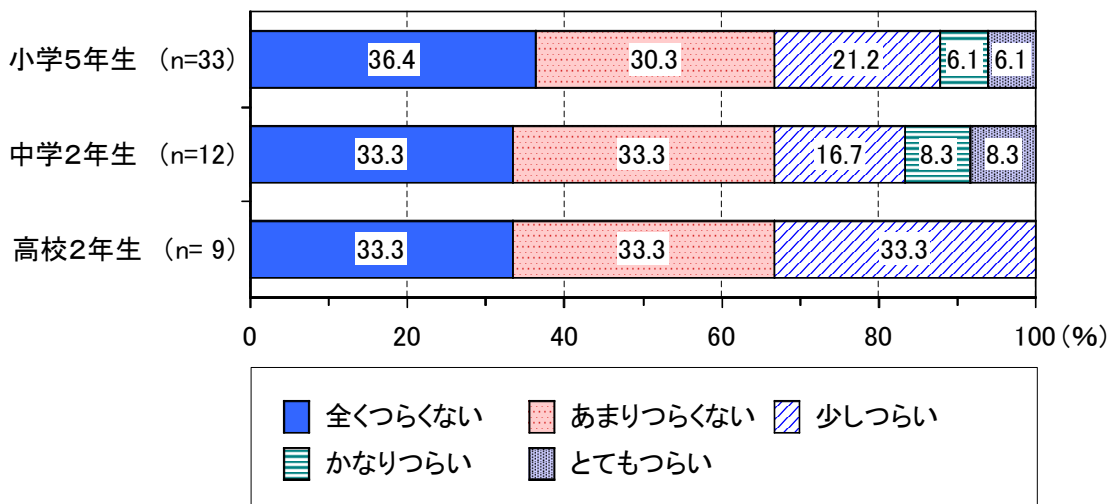
お世話をすることについて大変さやつらさを感じていますか。(それぞれ単数回答)

[小学5年生:問 19、中学2年生・高校2年生:問 17]

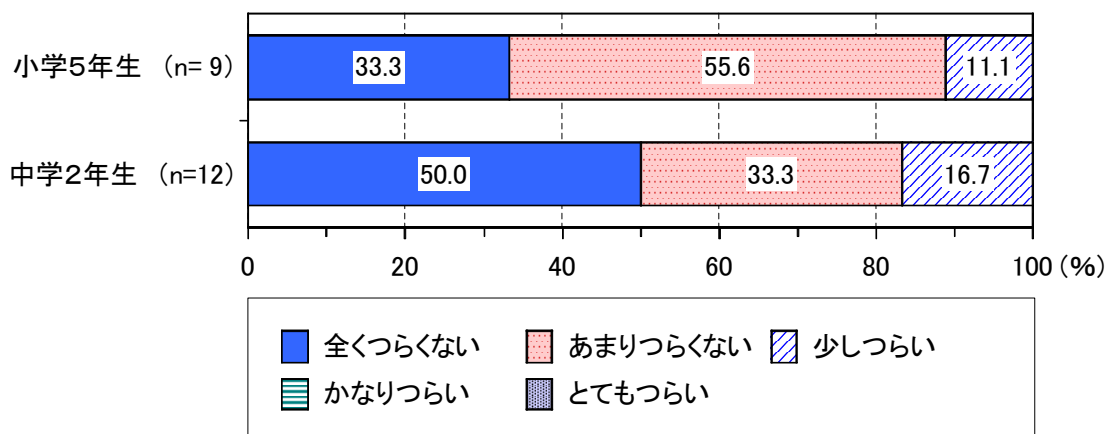
1) 体力の面

- 体力の面では、小学5年生では、「全くつらくない」が 36.4%(12 件)、「あまりつらくない」が 30.3%(10 件)、「少しつらい」が 21.2%(7件)となっています。
- 中学2年生では、「全くつらくない」、「あまりつらくない」が 33.3%、「少しつらい」が 16.7% (4件)となっています。
- 高校2年生では、「全くつらくない」、「あまりつらくない」、「少しつらい」が 33.3%(3件)となっています。
- 「かなりつらい」「とてもつらい」の回答は、小学5年生と中学2年生をあわせて6件あります。

【今回調査】



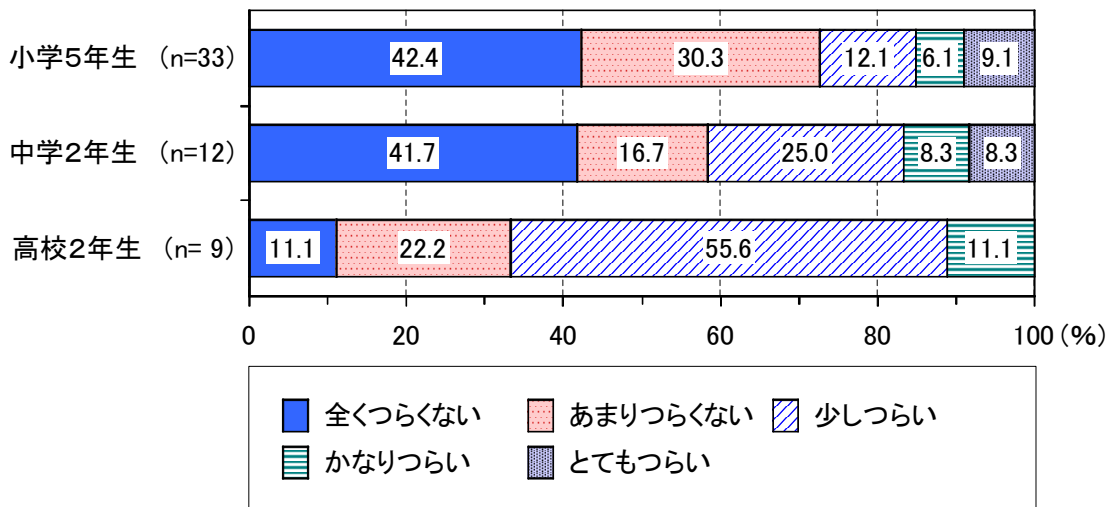
【前回調査】



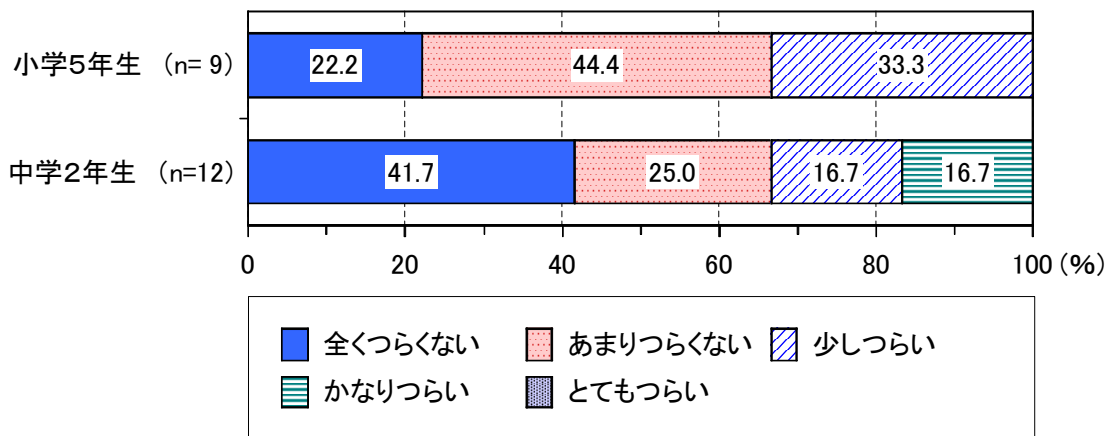
2) 気持ちの面

- 気持ちの面では、小学5年生では、「全くつらくない」が 42.4%(14 件)、「あまりつらくない」が 30.3%(10 件)、「少しつらい」が 12.1%(4件)となっています。
- 中学2年生では、「全くつらくない」が 41.7%(5件)、「少しつらい」が 25.0%(3件)、「あまりつらくない」が 16.7%(2件)となっています。
- 高校2年生では、「少しつらい」が 55.6%(5件)、「あまりつらくない」が 22.2%(2件)、「全くつらくない」、「かなりつらい」が 11.1%(1件)となっています。
- 「かなりつらい」「とてもつらい」の回答は、すべての学年で合計8件あります。

【今回調査】



【前回調査】

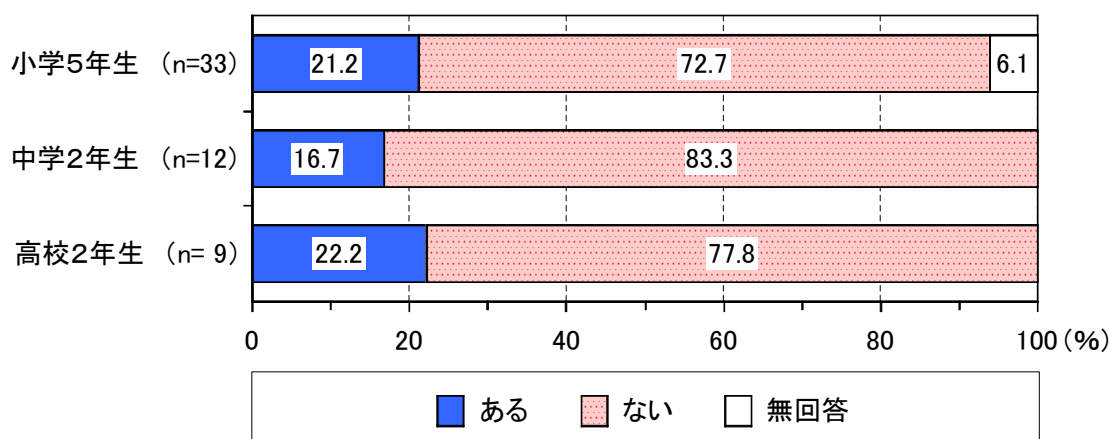


①お世話の悩みについて誰かに相談したことの有無

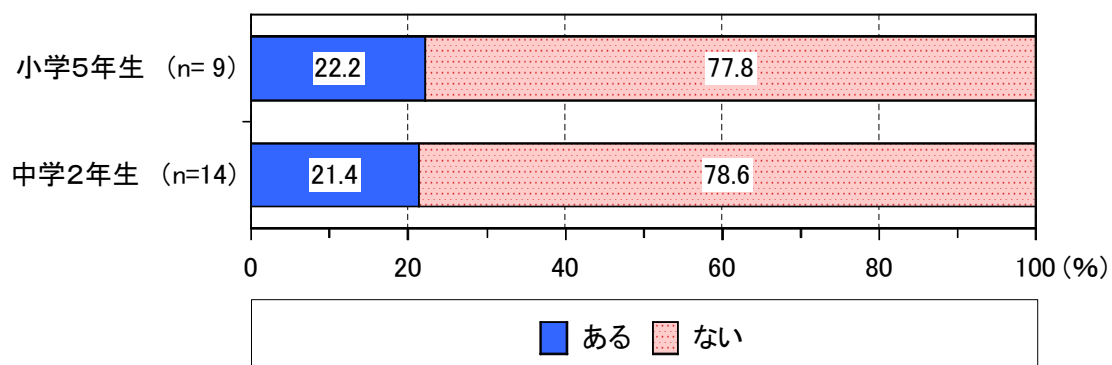
あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことはありますか。(単数回答)[小学5年生:問 20、中学2年生・高校2年生:問 18]

- お世話の悩みについて誰かに相談したことの有無については、すべての学年でおおむね7～8割が「ない」と回答しています。
- 小学5年生では、「ない」が72.7%(24件)、「ある」が21.2%(7件)となっています。
- 中学2年生では、「ない」が83.3%(10件)、「ある」が16.7%(2件)となっています。
- 高校2年生では、「ない」が77.8%(7件)、「ある」が22.2%(2件)となっています。

【今回調査】



【前回調査】

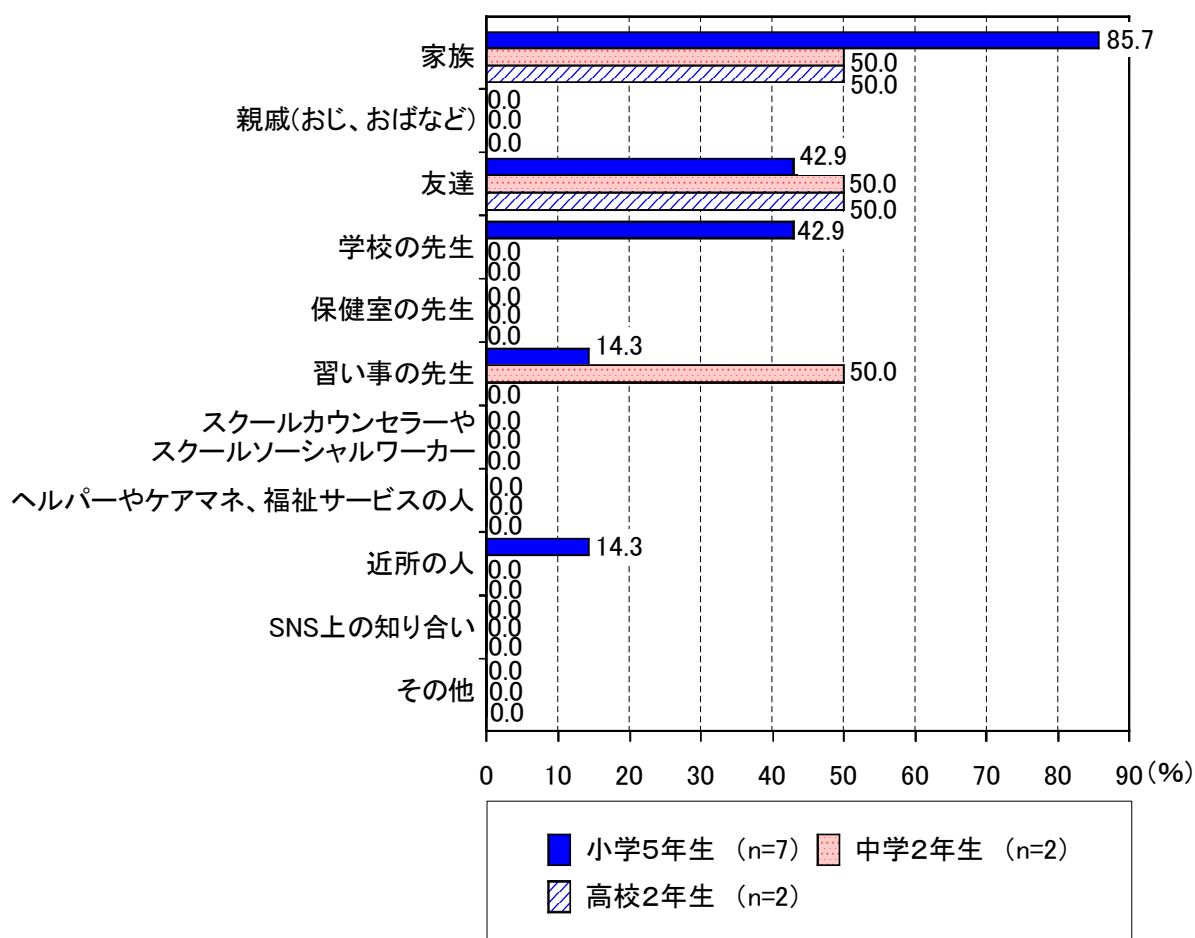


⑫お世話の悩みについて相談した相手

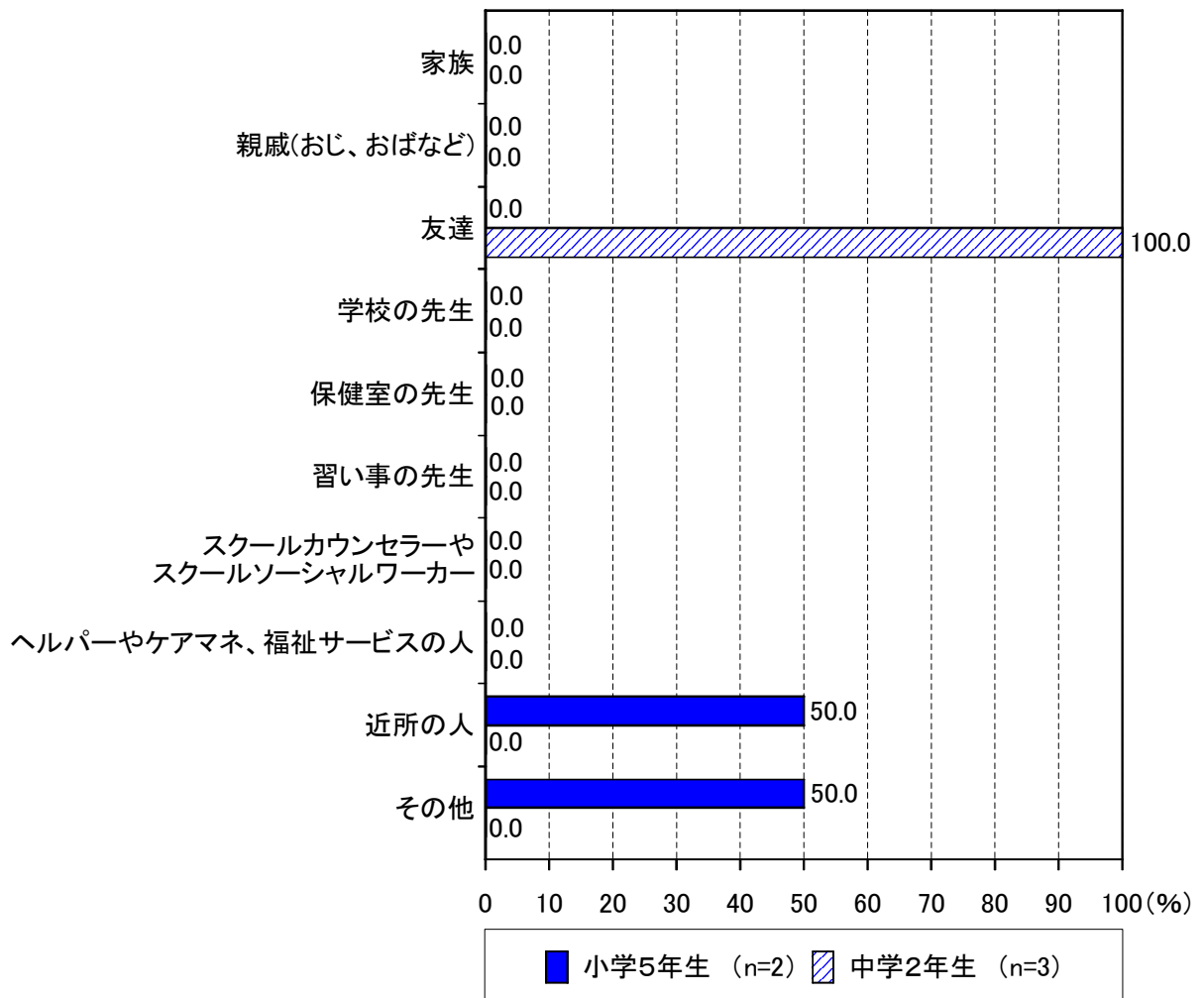
あなたが相談した人は誰ですか。(複数回答)
 [小学5年生:問 21、中学2年生・高校2年生:問 19]

- お世話の悩みについて相談した相手は、小学5年生では、「家族」が 85.7%(6件)、「友達」、「学校の先生」が 42.9%(3件)となっています。
- 中学2年生では、「家族」、「友達」、「習い事の先生」が 50.0%(1件)となっています。
- 高校2年生では、「家族」、「友達」が 50.0%(1件)となっています。

【今回調査】



【前回調査】



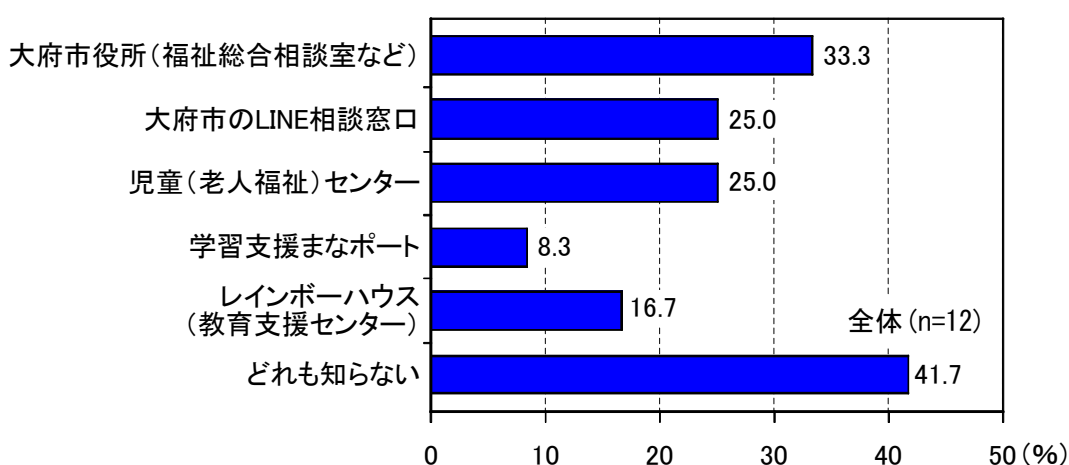
⑬学校以外で家族のことについて相談できる場所

学校以外で家族のことについて相談できる場所を知っていますか。(複数回答)

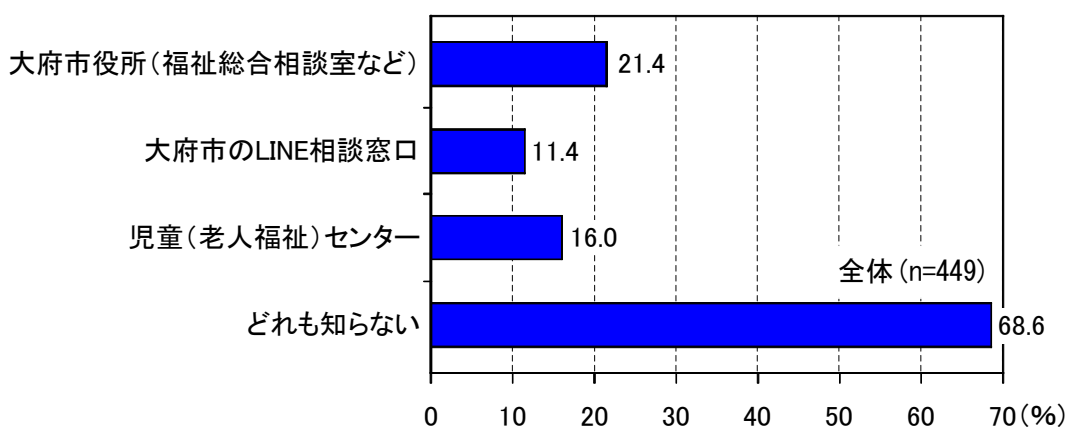
[中学2年生・高校2年生:問 20]

- 家族以外で家族のことについて相談できる場所については、中学2年生では、「大府市役所(福祉総合相談室など)」が 33.3%(4件)、「大府市のLINE相談窓口」、「児童(老人福祉)センター」が 25.0%(3件)が知っている場所として高くなっています。
- 高校2年生では、「大府市役所(福祉総合相談室など)」が 21.4%、「児童(老人福祉)センター」が 16.0%、「大府市のLINE相談窓口」が 11.4%知っている場所として高くなっています。

【中学2年生】(「家族の中にお世話をする人がいる」と回答した人を対象とした設問)



【高校2年生】(対象者全員を対象とした設問)

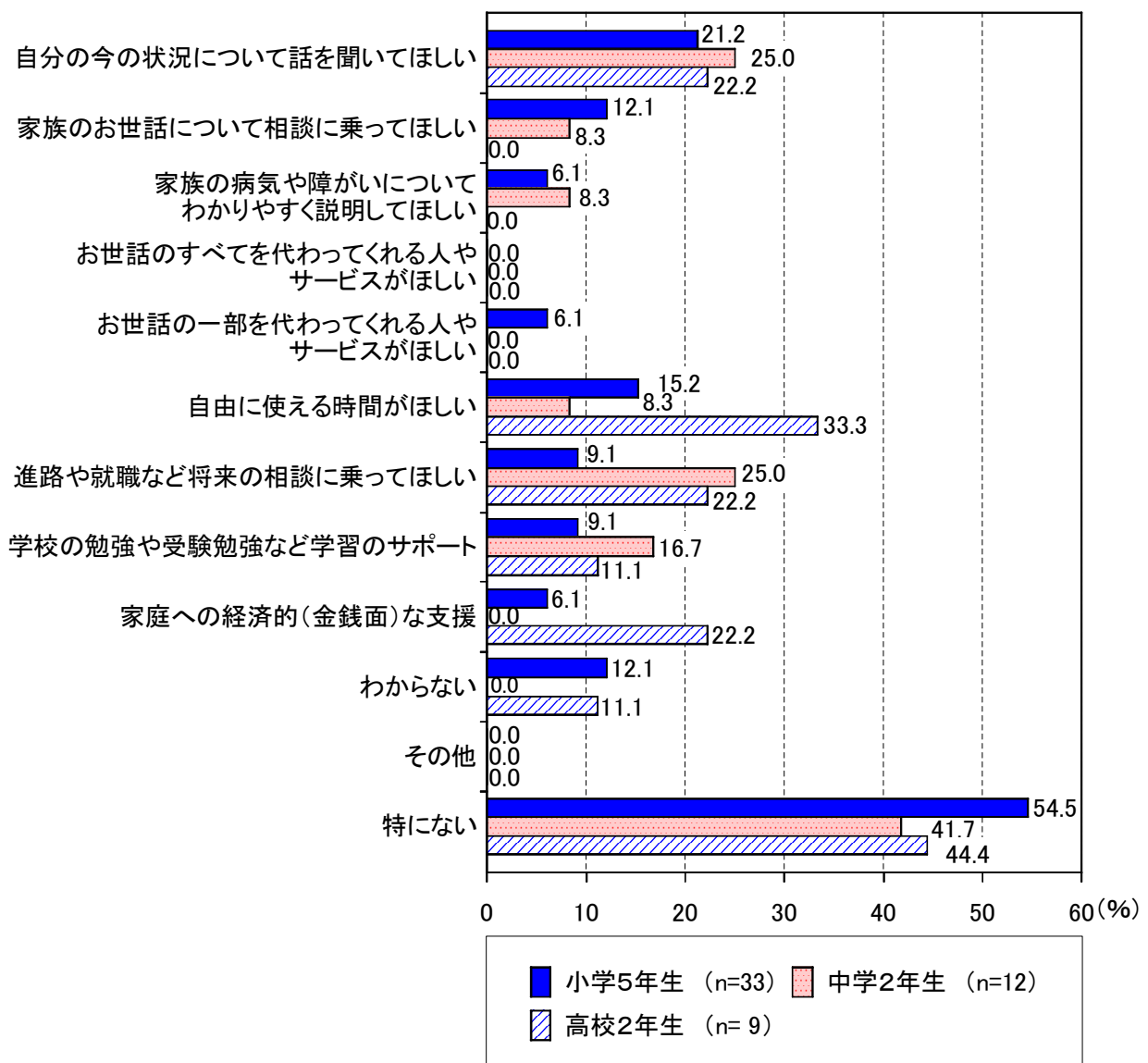


⑭学校や周りの大人にしてもらいたいこと

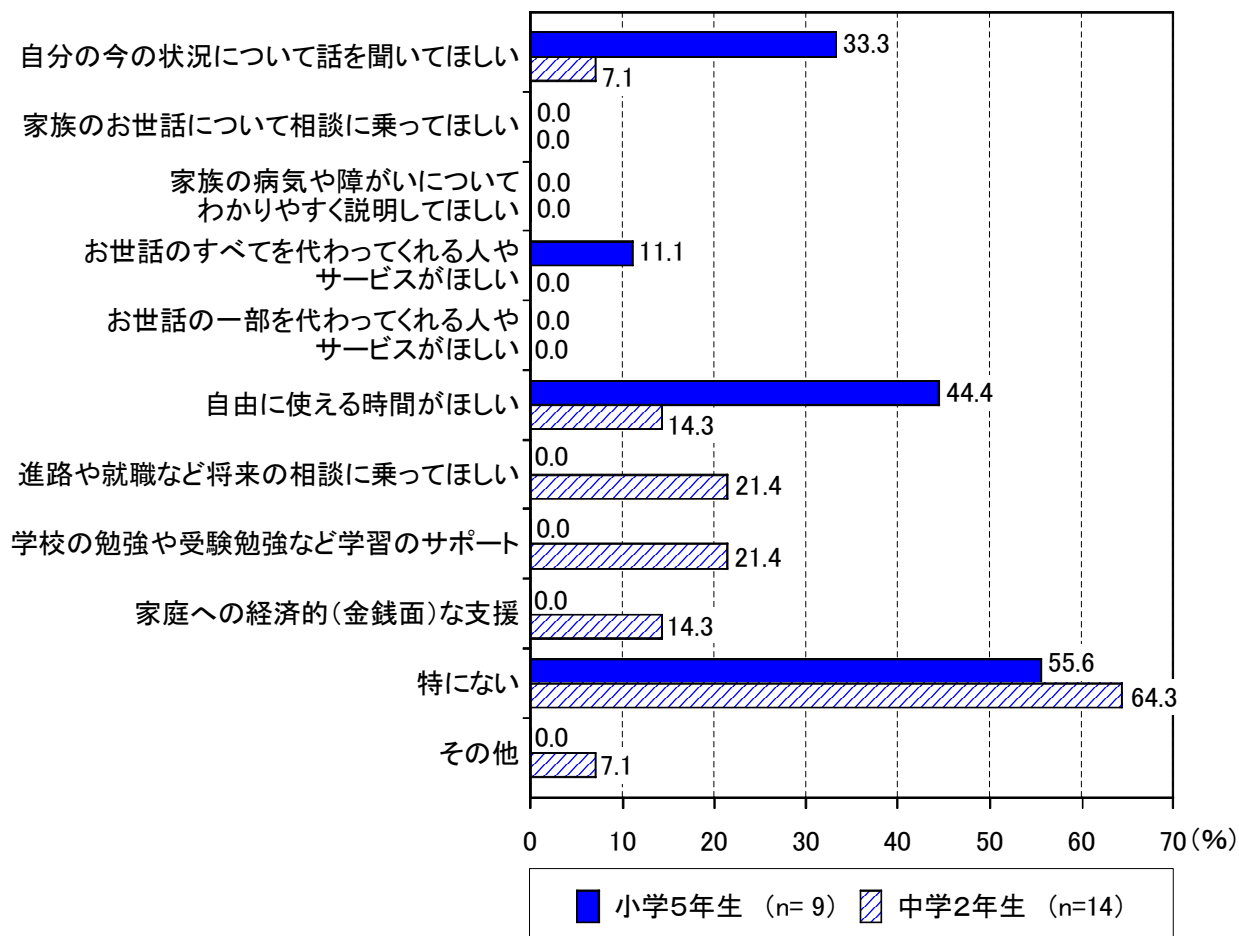
学校や周りの大人にしてもらいたいことはありますか。(複数回答)
 [小学5年生:問 22、中学2年生・高校2年生:問 21]

- 学校や周りの大人にしてもらいたいことについては、小学5年生では、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」が 21.2%(7件)、「自由に使える時間がほしい」が 15.2%(5件)、「家族のお世話について相談に乗ってほしい」が 12.1%(4件)となっています。
- 中学2年生では、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」、「進路や就職など将来の相談に乗ってほしい」が 25.0%(3件)、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」が 16.7%(2件)となっています。
- 高校2年生では、「自由に使える時間がほしい」が 33.3%(3件)、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」、「進路や就職など将来の相談に乗ってほしい」、「家庭への経済的(金銭面)な支援」が 22.2%(2件)となっています。

【今回調査】



【前回調査】



⑮代わってほしいお世話の内容

「お世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい」と「お世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい」を選んだ人にお聞きします。

代わってほしいお世話の内容を教えてください。

[小学5年生:問 23、中学2年生・高校2年生:問 22]

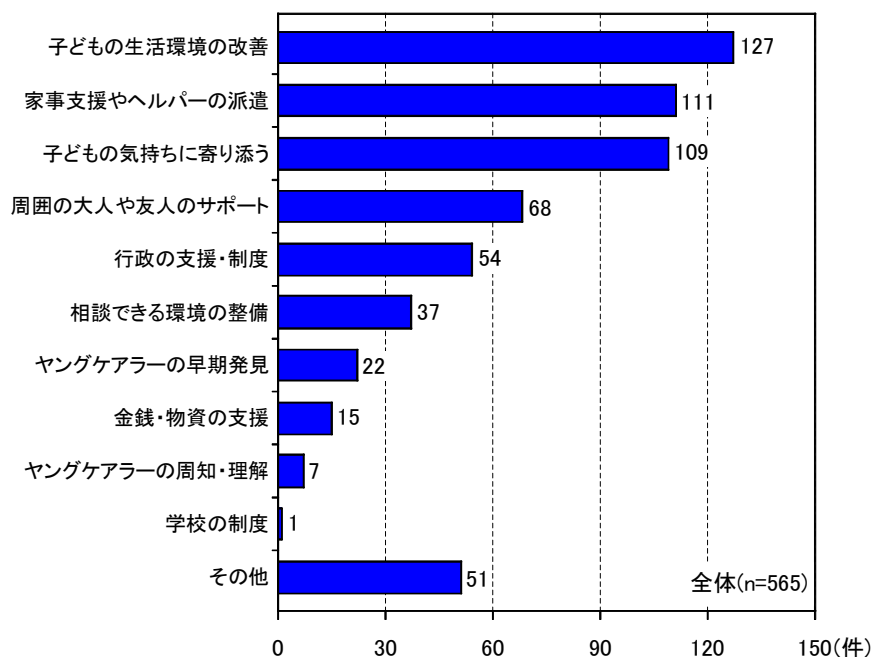
- 代わってほしいお世話の内容については、回答者は小学5年生で1件となり、「お世話の一部を代わってくれるサービスがほしい」については、「答えたくない」。「お世話の一部を代わってくれるサービスがほしい」については、「母への負担がかからないようにしてほしい。」となっています。

6. 自由回答(子ども)

ヤングケアラーの子どもに対して大人にやってもらいたいことなど自由に思うことを書いてください。[小学5年生:問 30]

ヤングケアラーの子どもに対して大人がやるべきと思うこと、支援に必要なことなど自由に思うことを書いてください。[中学2年生・高校2年生:問 28]

①小学5年生(602件)



子どもの生活環境の改善(127件)

【主な意見】

- ・自由時間を増やしてほしい。宿題を少なくしてほしい。
- ・寝る時間を増やしてもらいたい。
- ・子どもに充実した自由時間を割いてあげる。その子どもの話を聞いてあげる。ヤングケアラーのことについて相談してあげる。

家事支援やヘルパーの派遣(111件)

【主な意見】

- ・家事などを手伝って、少しでも自分の時間をつくれるようにする。
- ・少しでも多く学校に行けるように看病などの手伝いをしてほしい。
- ・その人は大変な生活をしているから助けてあげないとと思う。

子どもの気持ちに寄り添う(109件)

【主な意見】

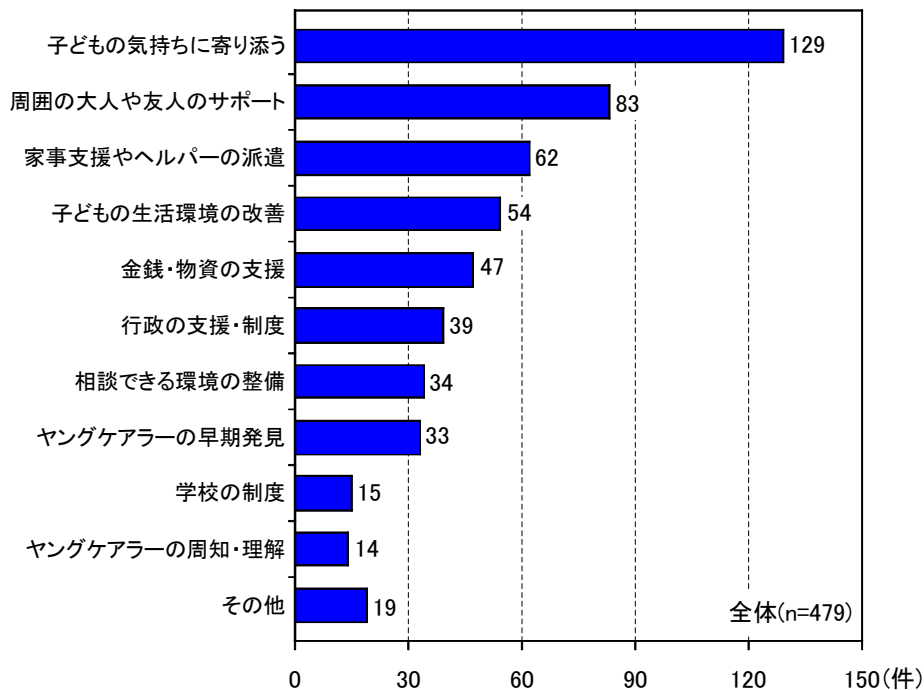
- ・ヤングケアラーに対して優しくしてあげるのがいい。
- ・少しでも、頑張っている子たちの気持ちに寄り添ってほしいと思った。
- ・もし自分の周りにヤングケアラーの子がいたら、その子に優しくしたり、先生やクラスメイトも優し

<p>くしてあげるべきだと思う。でも、そのことを言えないという時はそっとしておいてあげたり、優しくしてあげたい。</p>
<p>周囲の大人や友人のサポート(68件)</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人に手助けしてもらいたいと思った。 ・大人がやることは大人がやってほしい。 ・子ども1人だけじゃなくて大人や近所の人も手伝いみんなで協力してやっていけたらいいと思う。
<p>行政の支援・制度(54件)</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援活動や介護サービスなどのヤングケアラーの人の負担を少しでも減らす取り組み。 ・もっと積極的にヤングケアラーの問題に取り組んでほしい。 ・サロンに行く。親などを福祉センターなどに預けるなど。
<p>相談できる環境の整備(37件)</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰でも相談できる窓口をもっとたくさんつくってほしい。ヤングケアラーの子のことを先生が早く気づけるようにしてほしい。学校で今日みたいな講座をもっといろいろなところでやってほしい。 ・ヤングケアラーの子どもには相談できる人がいるんだよと知ってほしい。 ・相談することを呼びかける。
<p>ヤングケアラーの早期発見(22件)</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生や大人が悩んでいることに気づいたら、すぐに話しかけてほしい。 ・ヤングケアラーだと気づかせる設備をつくってほしい。 ・ヤングケアラーの早期発見が第一だと思った。人から見えないところで、ケアをしている人が辛いと思ったから。
<p>金銭・物資の支援(15件)</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国が動き無料で介護できるようになった方が良くと思う。 ・食べ物やおもちゃの支援。 ・お金を寄付する。
<p>ヤングケアラーの周知・理解(7件)</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤングケアラーの子どものことを知ってそれに対して手伝いなどをする。 ・大人にこのようなことが起こっていると知ってもらいたい。先生は宿題忘れが多い人は怒るだけじゃなくてその人に何か事情があるのかもと考えたら早く発覚するかもしれない。 ・ヤングケアラーについてのポスターの展示。
<p>学校の制度(1件)</p> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題を減らしてもらおう。
<p>その他(51件)</p>

【主な意見】

- ・ヤングケアラーという言葉は初めて聞いてヤングケアラーの人は自分の時間を削ってまで家族の世話をしているすごいと思った。
- ・ヤングケアラーという言葉もその意味も知らなかったなので、今回の講話でヤングケアラーについて知れてよかった。
- ・ヤングケアラーを改めて知って、色々な支援やどんな影響かを知ってヤングケアラーになってしまったらこのこと(今回学んだこと)を思い出して、ヤングケアラーになってしまった人たちの気持ちを体感してみたい。

②中学2年生(529件)



子どもの気持ちに寄り添う(129件)

【主な意見】

- ・少しでも親の代わりに家事をしている子に寄り添わないといけないと思った。
- ・子どもからは、話しぶりと思うので気遣ったりすること。
- ・ヤングケアラーの子が望む支援する。

周囲の大人や友人のサポート(83件)

【主な意見】

- ・周りの大人を頼ったり、親戚に助けを求めれば良いと思う。
- ・積極的に支援は行っていくべきだと思う。子どもだけでは判断できないことなども多くあるので大人の力を借りていくことが大切だと思った。
- ・近所の人が出る。

<p>家事支援やヘルパーの派遣(62件)</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤングケアラーの子どもたちを支えるために、家庭の手伝いをする。 ・家事の補助をする。 ・支援する団体やお手伝いを付けられるサービスをつくる。
<p>子どもの生活環境の改善(54件)</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十分な睡眠時間と勉強する時間。 ・1人の時間が少ないと思うから、1人の時間をつくれるようにできたらいいなと思った。 ・少しでも友達と遊ぶ時間や学校に行く時間をつくってあげること。
<p>金銭・物質の支援(47件)</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学や高校に進学するときのお金の免除。 ・ヤングケアラーがいる家庭に補助金を出す。 ・日用品を購入するときに必要なお金を支援すること。
<p>行政の支援・制度(39件)</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護施設をつくる。学校に行きづらいと思うので学校に行かなくてもできる勉強の手助けをする。 ・ヤングケアラー用の学校を建てたりする。 ・相談ラインの QR コードを印刷してある紙を各家庭に渡す。
<p>相談できる環境の整備(34件)</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談しやすい環境をつくり、相談に乗ること。 ・相談があったり、悩みごとがあった時に、気軽に相談できる空間をつくるのが大切だと思った。 ・インターネットを通して相談するときに、ヤングケアラーの子どもが相談するのをためらいにくいような工夫をする。
<p>ヤングケアラーの早期発見(33件)</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤングケアラーの子どもは自分の家族や自分のことで精一杯だから、ヤングケアラーの子どもの日常生活の少しの変化に大人が気づけるようにしていくこと。 ・子どもの少しの変化にも気づいてケアしてあげることが大切だと思う。 ・自分から言い出しにくい人もいると思うので、家庭訪問等をして、ヤングケアラーの子どもを見つけて保護すべきだと思う。
<p>学校の制度(15件)</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談などでも積極的にヤングケアラーについて聞いていくと良いと思ったし、レインボーハウスの人などが学校と協力して年に1回ほど相談のプロの方と喋れるような機会があるととても良いと思う。 ・ヤングケアラーの人が世話のために学校を休むときに、欠席扱いにしないこと。

・通信などで授業を受けさせる。

ヤングケアラーの周知・理解(14件)

【主な意見】

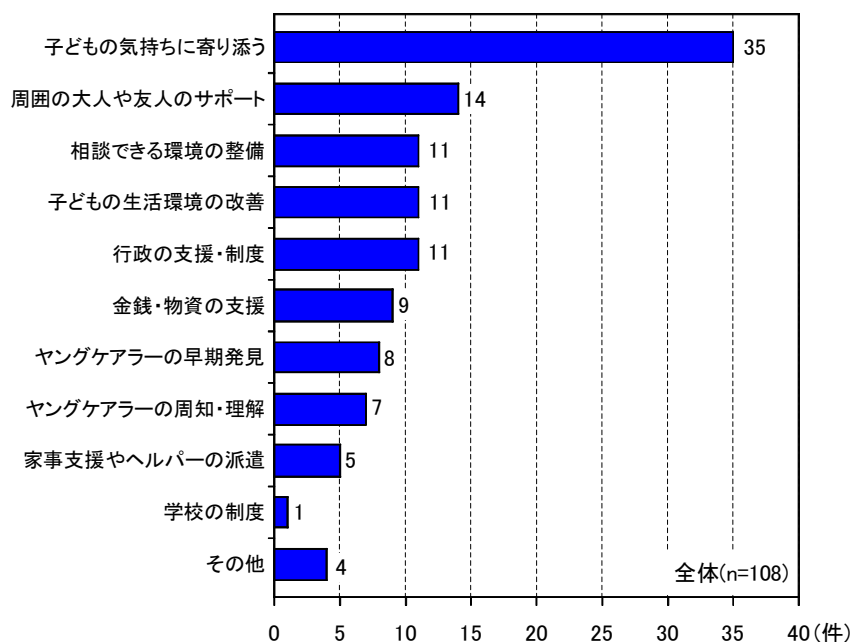
- ・身近にヤングケアラーの子がいるということを理解する必要がある。
- ・ヤングケアラーの人のことを学校の先生や友達にも理解できるように今回のような講演でヤングケアラーとは何かを広めることが大事だと考えた。
- ・ヤングケアラーというものが多くの人から知られていないせいで支援を受けることができなかつたり1人で我慢してしまっている人がいると思うので、もっとテレビなどで取り上げるべきだと思う。

その他(19件)

【主な意見】

- ・ヤングケアラーもそうだが、大人が仕事で世話をできない状況にあるのならば労働問題と関連付けて解決していくのがいいと思う。
- ・元々ヤングケアラーという言葉を知ったことがあったけれど学校に行けなくなったり睡眠時間が減ったりするなど影響があることを知った。
- ・ヤングケアラーを増やさないようにする。

③高校2年生(116件)



子どもの気持ちに寄り添う(35件)

【主な意見】

- ・助けることも大切だけど、まずは気持ちを理解したいという志で接した方がいいと思う。
- ・ヤングケアラーの子どもが孤独を感じないようにすること。
- ・その子の状況を読み取ってあげることが大切。

<p>周囲の大人や友人のサポート(14 件)</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう少しまわりの大人が目を向けて少しでも負担を減らしてあげた方がいいと思う。 ・周りの大人からの過度すぎないサポートや親族同士の支え合いが必要だと思う。 ・大人には自分の役割を理解して支援に励んでほしい。
<p>相談できる環境の整備(11 件)</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所や相談所に 1 人で行くことは子どもだろうと大人だろうととても勇気のいることだと思う。そんな中で使える SNS サイトをもう少し強く出し、気楽にできることなのだと伝えたほうが良いと思う。 ・誰にとっても、いつでも相談しやすい環境があればいいなと思った。 ・ヤングケアラーのチェックリストを広告にし、見た人にやってもらうように促す。ヤングケアラーだと判明した場合の URL を掲載しておく。相談されたらその人の家へ定期的に訪問する。
<p>子どもの生活環境の改善(11 件)</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の自由な時間をつくれるようにしてあげることが必要だと思う。 ・みんなと平等な生活が送れるようにしてあげる。 ・子どもが子どもとしての生活を送れるような気配りをしてあげてほしい。
<p>行政の支援・制度(11 件)</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預けられる施設を増やす。 ・ヤングケアラーの子どもがいる家族ごと入れる介護施設のような、子どもが困らないようにする施設があるといいなと思った。 ・ケアをされる人が施設に入るときに優遇してもらおう。
<p>金銭・物資の支援(9件)</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今以上に、お金であったり保険であったり、支援を手厚くした方がいいと思う。 ・毎月いくらかの支給金を出したり、ヤングケアラーに悩まされている子どものサポートに回ること ・金銭的な支援。何かあった時に駆けつけてくれるサービス。
<p>ヤングケアラーの早期発見(8件)</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少しでもその子に対してヤングケアラーかもしれないと思ったら迷わず手を差しのべることが必要だと思った。 ・周りが気付けるようにすること。 ・気付くこと。
<p>ヤングケアラーの周知・理解(7件)</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての大人がヤングケアラーについて知るべき。 ・ヤングケアラーという言葉を広めること。

・もっとヤングケアラーについての情報を社会に拡散すべきだと思う。この状況を周りの大人たちが知らないかもしれない状況が1番良くないと思うのでもっと大人に向けた説明会などを増やすべきだと思う。

家事支援やヘルパーの派遣(5件)

【主な意見】

- ・家事を手伝ってあげる人がいるようにするといい。
- ・お買い物や家事の時間を削れるようにサポートして自分の時間が持てるようにしたりする。
- ・代行サービスを設ける。

学校の制度(1件)

- ・学業成績などへの配慮。

その他(4件)

【主な意見】

- ・まずはヤングケアラーの可能性のある子どもに対し、直接会って話をするのが大切だと思う。顔を見ることで、信頼できる大人に相談することで見えてくる。大人が真剣に話を聞くことは大切だと思う。
- ・ヤングケアラーの人は自由が限られ、とても大変だと思った。
- ・大変そう

Ⅲ. 学校教職員調査結果

Ⅲ. 学校教職員調査結果

《調査結果 概要》

1. 回答者の属性

- 回答者の年齢は、高い順に、「～29 歳」が 28.0%、「30 歳代」が 27.1%、「40 歳代」が 24.7%となっています。

2. 勤務状況について

- 学校教職員としての経験は、「5年未満」が 23.8%で最も高く、次いで、「10～14 年」が 19.5%、「5～9年」が 19.2%となっています。
- クラス担任の担当については、「担任または副担任をしている」が 75.1%、「担任していない」が 24.9%となっています。
- 子どもたちの話をよく聞いたり、雑談したりする心のゆとりがあると思うかについては、児童生徒との関わりについて、「少しそう思う」「ややそう思う」「とてもそう思う」をあわせた心のゆとりがあると“思う”が 71.7%、「思わない」「あまり思わない」をあわせた心のゆとりがあると“思わない”が 28.2%となっています。
- 教職員同士が連携して業務に対応していると思うかについては、「少しそう思う」「ややそう思う」「とてもそう思う」をあわせた、連携して業務に対応していると“思う”が 94.3%、「思わない」「あまり思わない」をあわせた連携して業務に対応していると“思わない”が 5.7%となっています。

3. 子どもの権利について

- 子どもの権利の認知度については、「知っている」が 82.4%、「知らない」が 17.6%です。
- ヤングケアラーである子どもの権利について意識したことがあるかについて、「考えたことがある」が 69.2%、「考えたことはない」が 30.5%となっています。
- ヤングケアラーである子どもの権利について考えるきっかけは、「テレビの報道、番組」が 71.5%、「インターネット上のニュース記事」が 46.9%、「校内の会議、研修」が 38.1%となっています。前回調査との比較では、「校内の会議・研修」が 26.7 ポイント、「校外の研修の講演会」が 9.9 ポイントと非常に高くなっています。

4. ヤングケアラーのイメージ・影響について

- ヤングケアラーのイメージは、高い順に、「子どもの年相応の生活を送ることができない」が 75.5%、「自分より家族のことを優先している」が 67.0%、「能力以上の介護や介助をしている」が 64.8%となっています。
- ヤングケアラー状態になることで子どもに影響があると思うことは、高い順に、「精神的・情緒的な不安定さを抱える」が 76.7%、「友達など人間関係の形成がしづらくなる」が 74.6%、「不登校状態に陥り、学力が低下する」が 73.2%となっています。

5. ヤングケアラーと思われる子どもについて

- 自分が勤める学校でヤングケアラーではないかと感じる子どもの有無は、「わからない」が60.8%、「いる」が27.1%、「いない」が12.1%となっています。前回調査との比較では、「いない」が8.1ポイント低くなり、「わからない」が6.4ポイント高くなっています。「いる」は1.7ポイントとわずかですが高くなっています。勤務している学校別では、「いる」は小学校で19.2%、中学校で34.6%、高等学校で70.8%となっており、学年が上がるにつれ高くなっています。「わからない」が小学校では67.8%、「中学校」では52.9%と半数を超えています。
- ヤングケアラーではないかと感じる子どもの該当する状況は、高い順に、「欠席が多い、不登校傾向にある」が42.1%、「遅刻や早退が多い」、「学力が低下している」が40.4%、「保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い」が37.7%、「宿題や持ち物の忘れ物が多い」が36.8%の順となっています。

6. ヤングケアラーへの対応・支援について

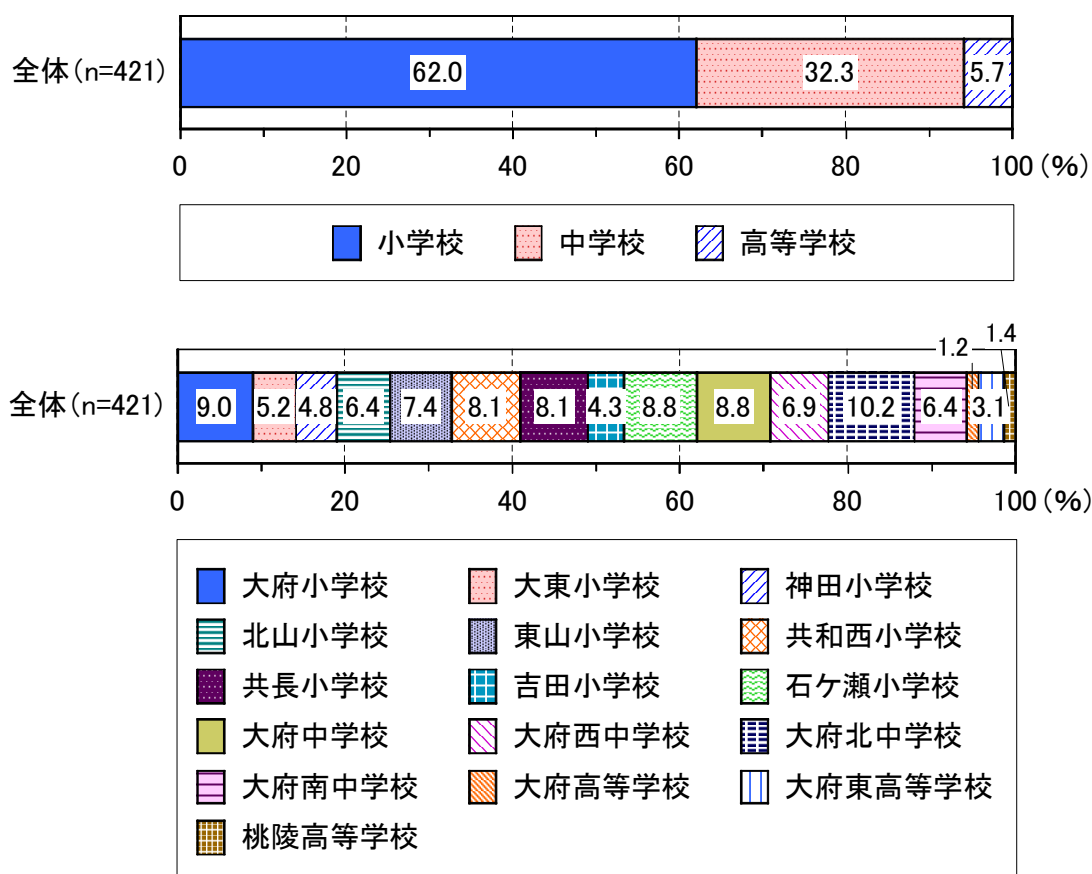
- ヤングケアラーと思われる子どもを発見した時の対応方法は、高い順に、「校長や教頭、学年主任などに相談する」が88.1%、「子ども本人の話を聞く、話を聞く機会を設ける」が81.5%、「大府市役所 福祉総合相談室に相談する」が42.0%となっています。
- ヤングケアラーの問題について相談できる場所の認知は、「児童相談所」が68.6%、「大府市役所 福祉総合相談室」が62.0%、「大府市役所 家庭児童相談室」が46.3%です。前回調査との比較では、「大府市役所 福祉総合相談室」が34.4ポイントと非常に高くなっており、認知度が上がっています。
- ヤングケアラーの支援について、現在学校が連携している機関は、「市教育委員会、県教育委員会」が75.1%、「大府市役所 子ども未来課(家庭児童相談室)」が69.6%、「大府市役所 福祉総合相談室」が46.8%となっています。前回調査との比較では、「大府市役所 福祉総合相談室」が46.8ポイント、「大府市役所 子ども未来課(家庭児童相談室)」が28.4ポイントと非常に高くなっています。なお、「大府市役所 福祉総合相談室」は、前回調査では0.0%でしたが、今回、大府市によるヤングケアラーに関する教職員向けの現職教育(研修)を実施しており、その成果が表れているものと考えられます。
- 外部機関と連携しながらヤングケアラーの支援を強化したいことは、高い順に、「ヤングケアラーの早期発見」が77.9%、「ヤングケアラーの悩みに寄り添って伴走型で支援してくれること」が59.9%、「ヤングケアラーの学習支援」が51.8%となっています。
- ヤングケアラーの子どもを支援する上で重要だと思うことは、高い順に、「家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい世帯を把握する方法」が70.8%、「ヤングケアラーに対する知識・理解を身につけること」が60.6%、「子ども自身やその家族がヤングケアラーという問題を認識すること」が57.2%となっています。
- ヤングケアラーを支援するために必要な支援については、高い順に、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が72.0%、「教員・保育士がヤングケアラーについて知ること」が71.7%、「子どもが教員・保育士に相談しやすい関係をつくること」が64.1%となっています。前回調査との比較では、「地域の中に、ヤングケアラー本人が相談できる体制があること」が36.7ポイントと非常に高くなっています。

- 必要な支援を実現するために市が取り組むべき事項は、高い順に、「ヤングケアラー本人が相談できる体制の整備」が 73.6%、「ヤングケアラーに関する理解の促進」が 64.8%、「ヤングケアラーの保護者・地域の方が相談できる体制の整備」が 63.2%となっています。
- 市が実施したヤングケアラーに関する教職員向けの現職教育(研修)の感想は、高い順に、「大府市役所 福祉総合相談室に相談すればよいことがわかった」が 66.7%、「自身の学校にヤングケアラーに該当する子がいるかもしれないと思った」が 45.8%、「ヤングケアラーの対応の仕方がわかった」が 34.9%となっています。

1. 回答者の属性

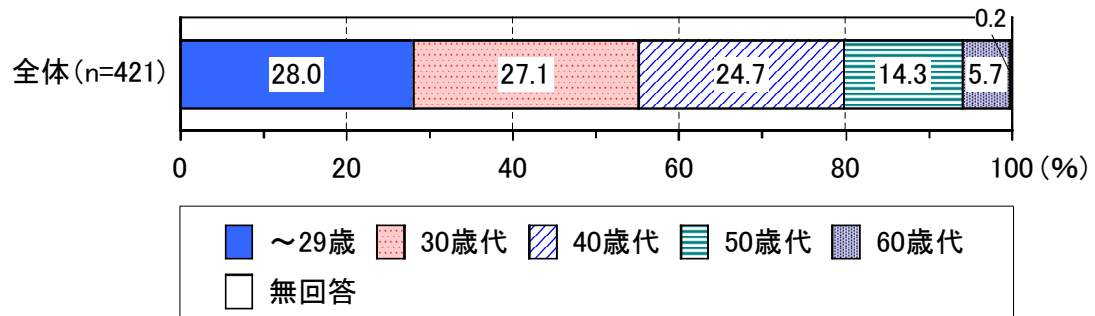
問1 あなたの勤務校を選んでください。(単数回答)

- 回答者の勤務校は、「小学校」が 62.0%、「中学校」が 32.3%、「高等学校」が 5.7%となっています。
- 学校別の内訳では、高い順に「大府北中学校」10.2%、「大府小学校」9.0%、「石ヶ瀬小学校」、「大府中学校」8.8%となっています。



問2 あなたの現在の年齢を教えてください。(数量回答)

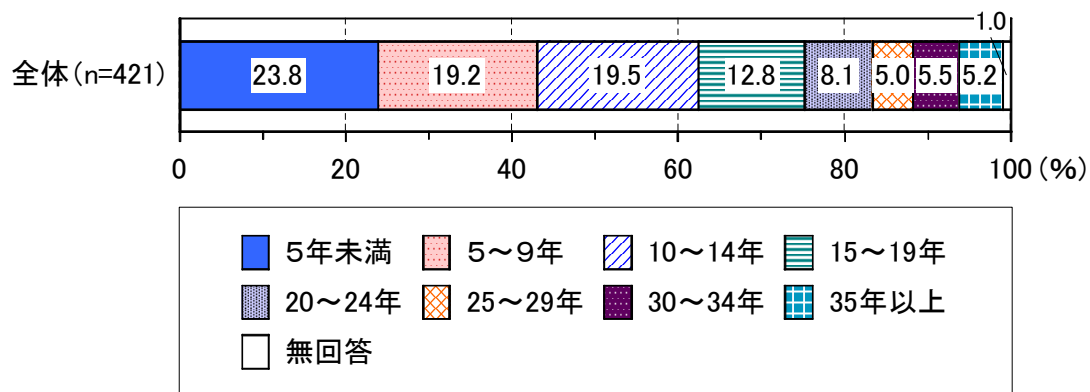
- 回答者の年齢は、高い順に、「～29歳」が28.0%、「30歳代」が27.1%、「40歳代」が24.7%となっています。



2. 勤務状況について

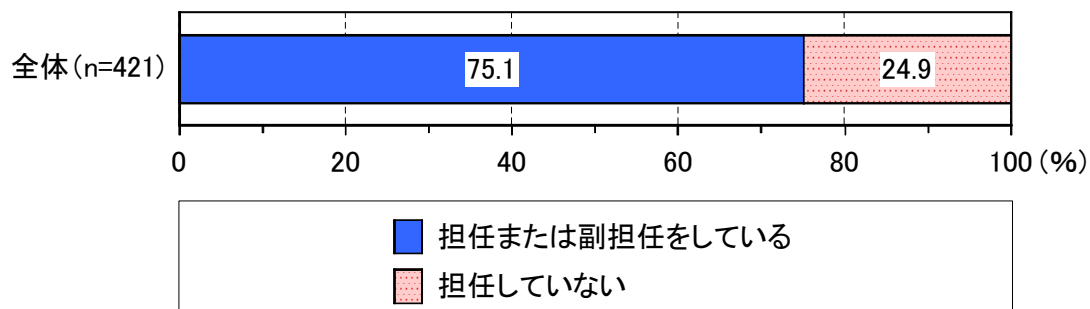
問3 あなたの学校教職員としての経験年数を教えてください。(数量回答)

- 学校教職員としての経験は、「5年未満」が 23.8%で最も高く、次いで、「10～14年」が 19.5%、「5～9年」が 19.2%となっています。



問4 あなたはクラス担任を担当していますか。(単数回答)

- クラス担任の担当については、「担任または副担任をしている」が 75.1%、「担任していない」が 24.9%となっています。

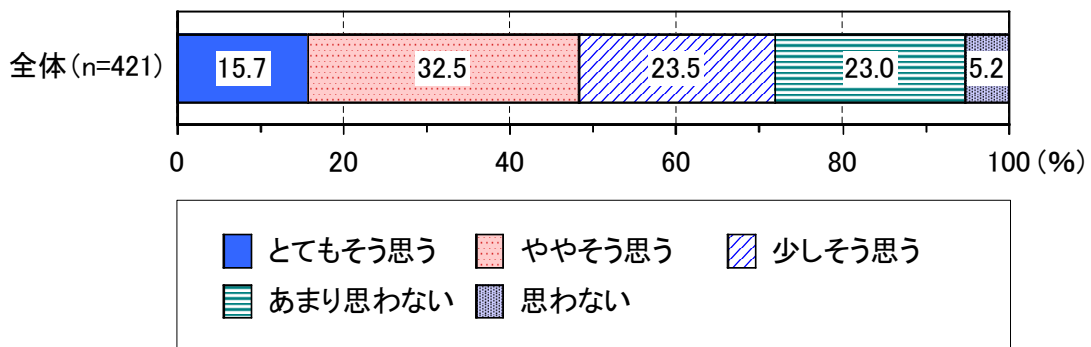


問5 日頃の仕事についてあてはまるものを選んでください。(それぞれ単数回答)

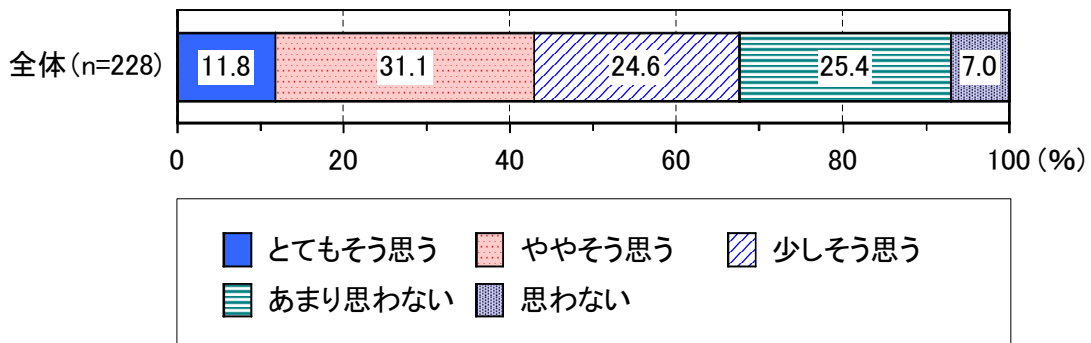
①児童生徒との関わり

子どもたちの話をよく聞いたり、雑談したりする心のゆとりがあると思いますか。

- 児童生徒との関わりについて、「少しそう思う」「ややそう思う」「とてもそう思う」をあわせた心のゆとりがあると“思う”が 71.7%、「思わない」「あまり思わない」をあわせた心のゆとりがあると“思わない”が 28.2%となっています。
- 前回調査と比較すると、4.2 ポイントとわずかですが、“思う”が高くなっています。



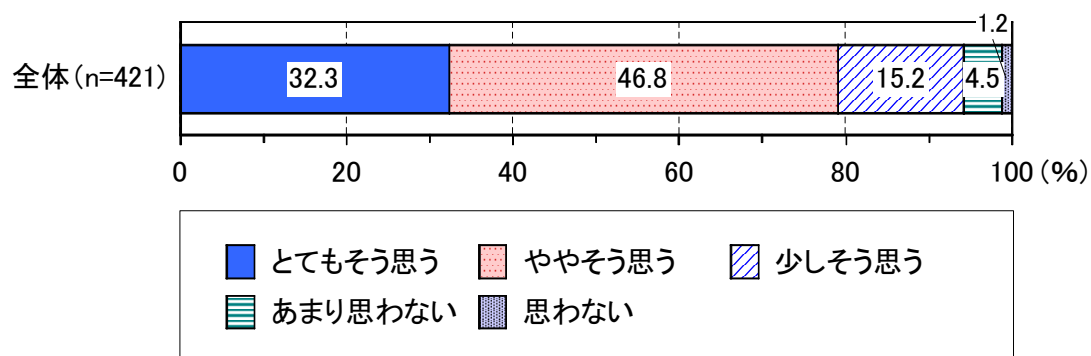
【前回調査】



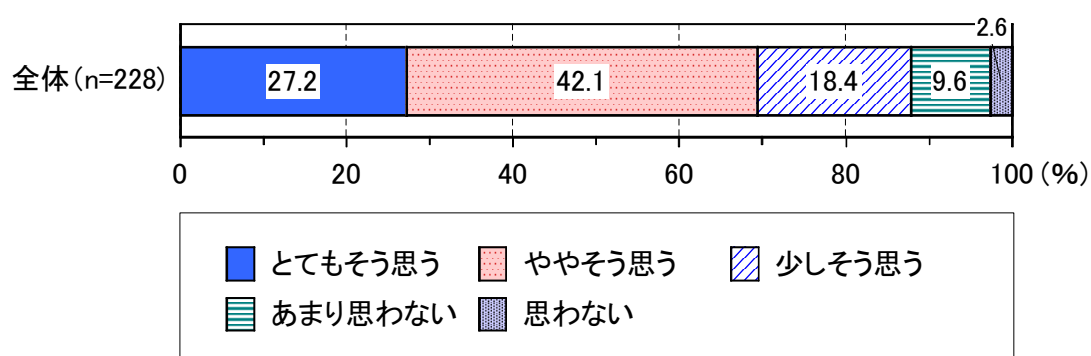
②教職員同士の関わり

教職員同士が連携して業務に対応していると思いますか。

- 教職員同士の関わりについて、「少しそう思う」「ややそう思う」「とてもそう思う」をあわせた、連携して業務に対応していると“思う”が 94.3%、「思わない」「あまり思わない」をあわせた、連携して業務に対応していると“思わない”が 5.7%となっています。
- 前回調査と比較すると、“思う”が 6.6 ポイント高くなっています。



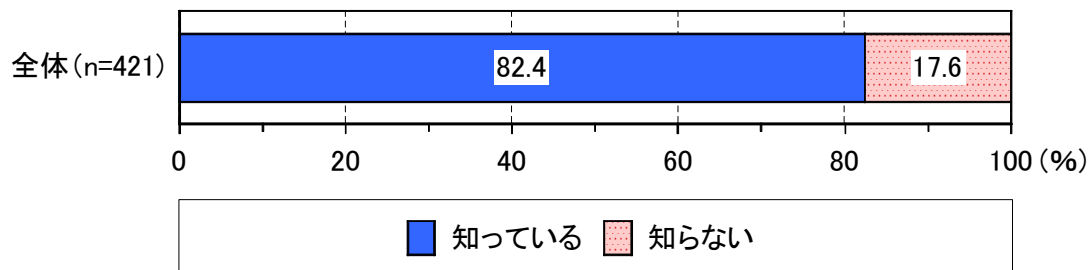
【前回調査】



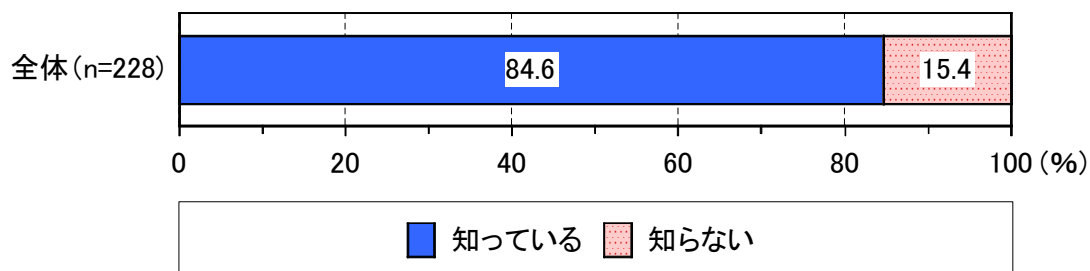
3. 子どもの権利について

問6 あなたは子どもの権利について知っていますか。(単数回答)

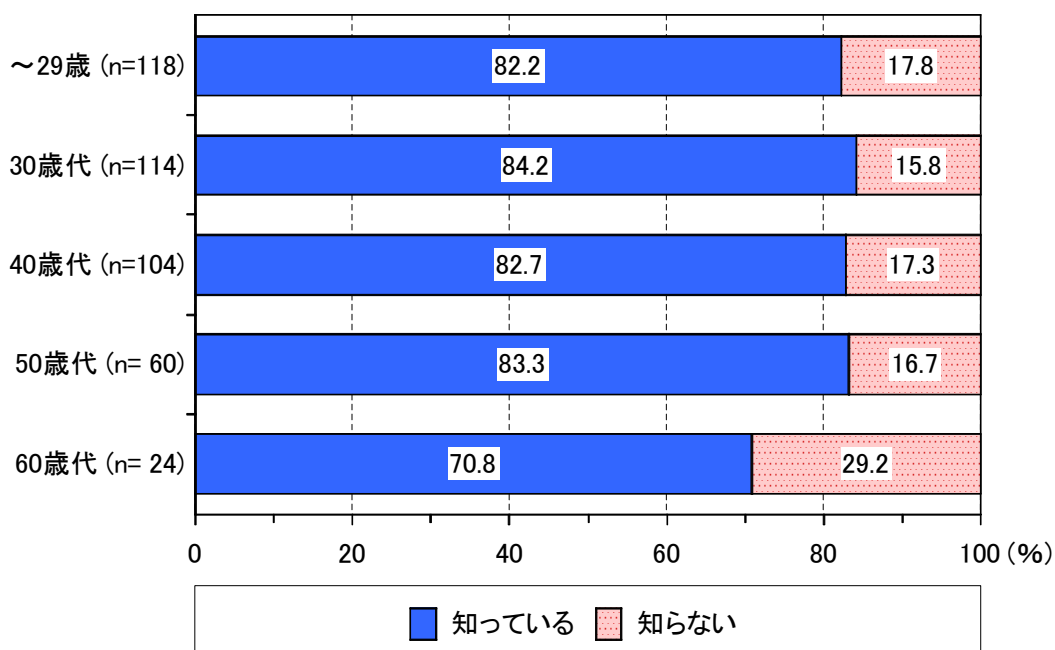
- 子どもの権利の認知度については、「知っている」が82.4%、「知らない」が17.6%です。
- 前回調査の傾向と大きな違いはありませんでした。
- 年齢別では、「60歳代」では、「知っている」が7割と他の年代より低くなっています。



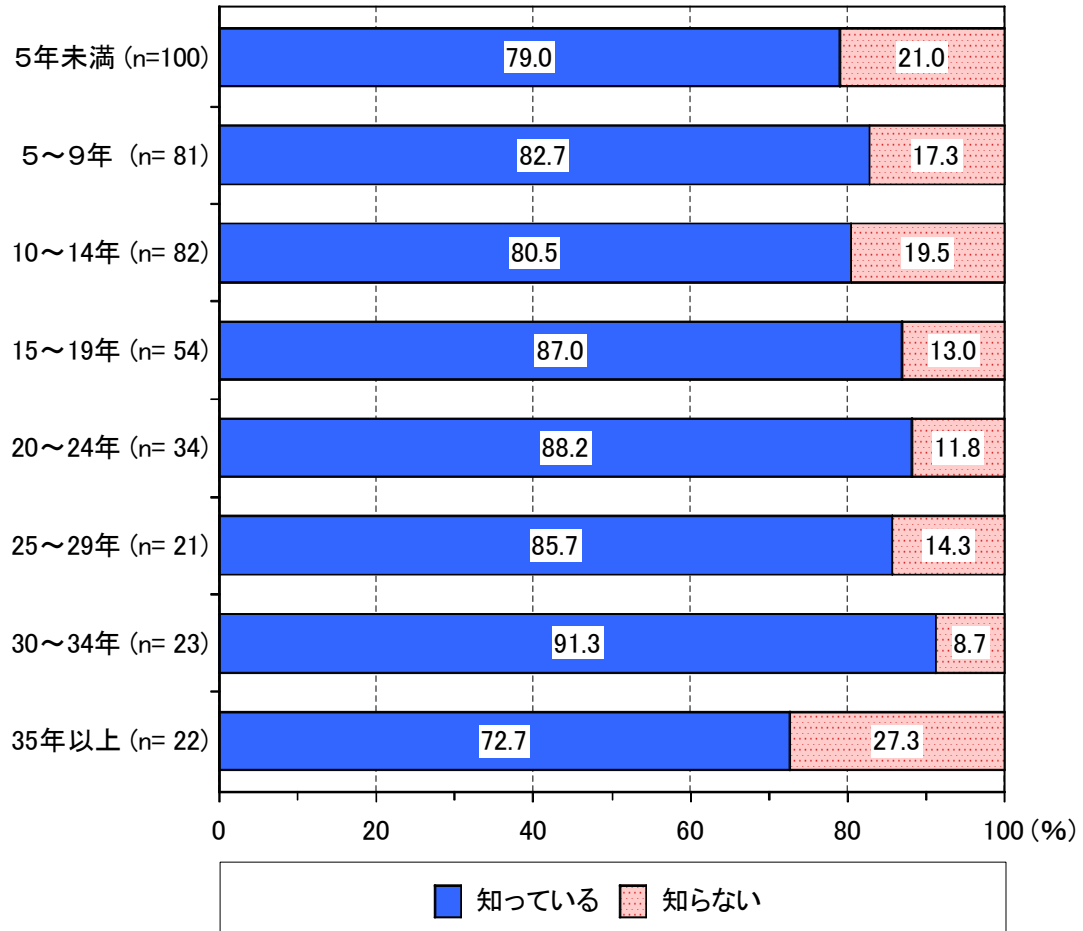
【前回調査】



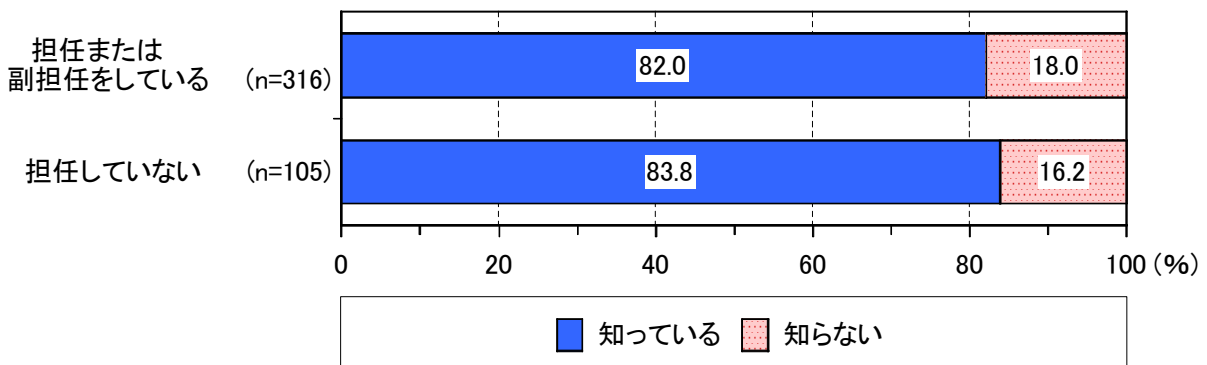
【年齢別】



【教職員経験年数別】

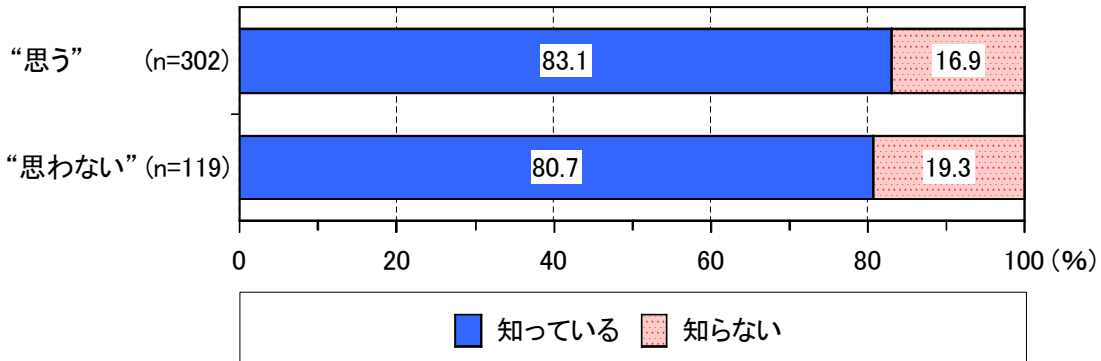


【クラス担任別】



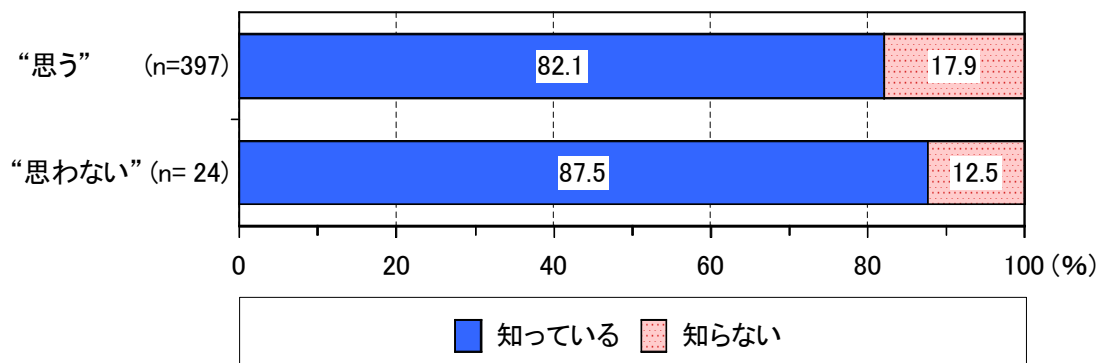
【子どもたちと雑談等する心のゆとりの有無別】

※心のゆとりがあると思うかについて、“思う”は「とてもそう思う+ややそう思う+少しそう思う」、
“思わない”は「あまり思わない+思わない」と回答した人



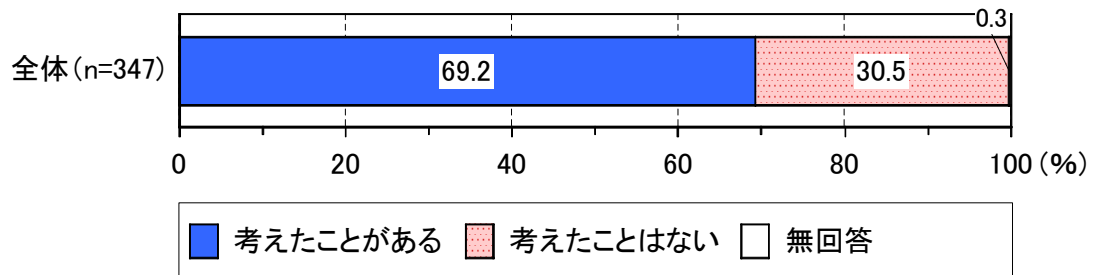
【教職員同士の連携業務の対応の有無別】

※教職員同士が連携して業務に対応していると思うかについて、“思う”は「とてもそう思う+ややそう
思う+少しそう思う」、 “思わない”は「あまり思わない+思わない」と回答した人

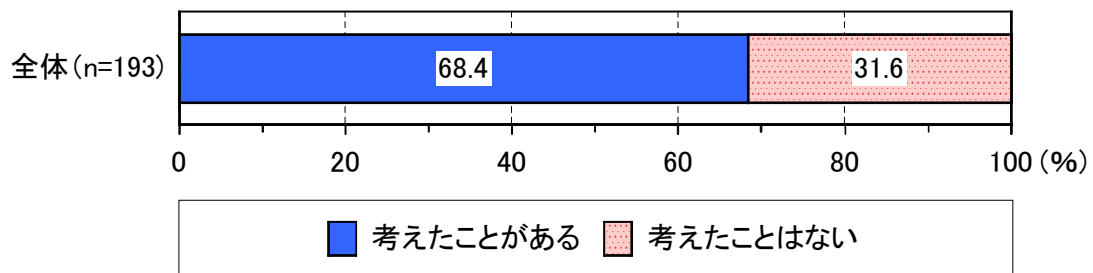


問7 ヤングケアラーである子どもの権利について今まで意識したことや、考えたことがありますか。(単数回答)

- ヤングケアラーである子どもの権利について意識したことがあるかについて、「考えたことがある」が69.2%、「考えたことはない」が30.5%となっています。
- 前回調査の傾向と大きな違いはありませんでした。



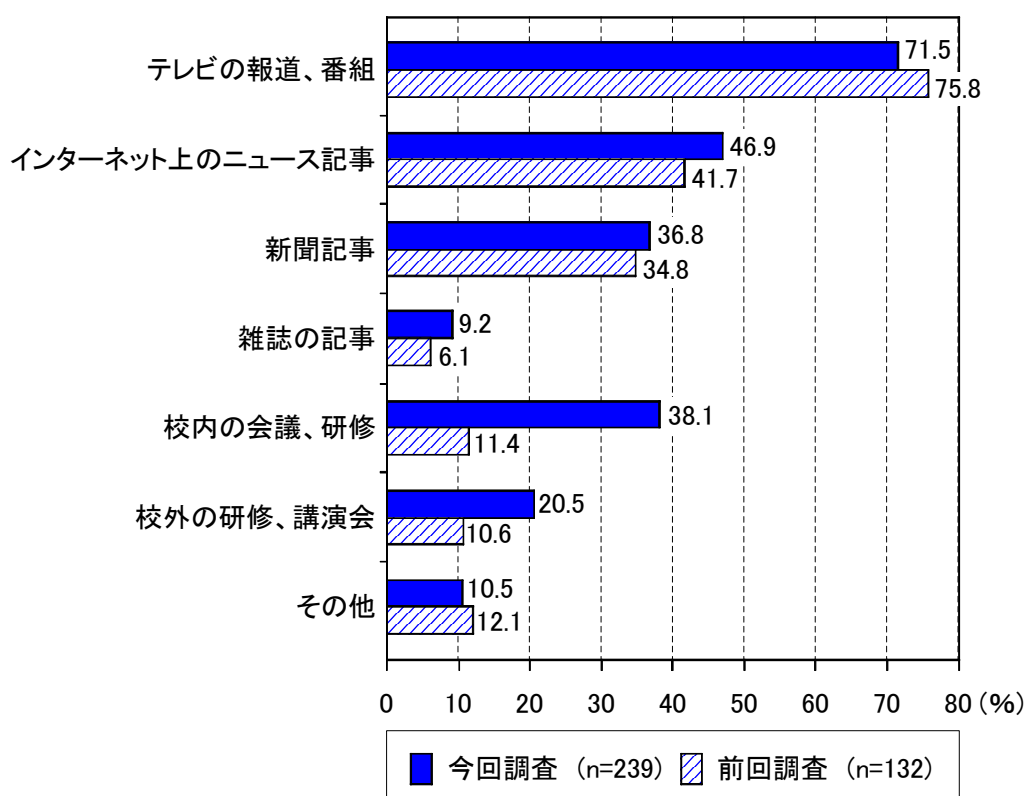
【前回調査】



問8 ヤングケアラーである子どもの権利について何で考えるきっかけを得ましたか。

(複数回答)

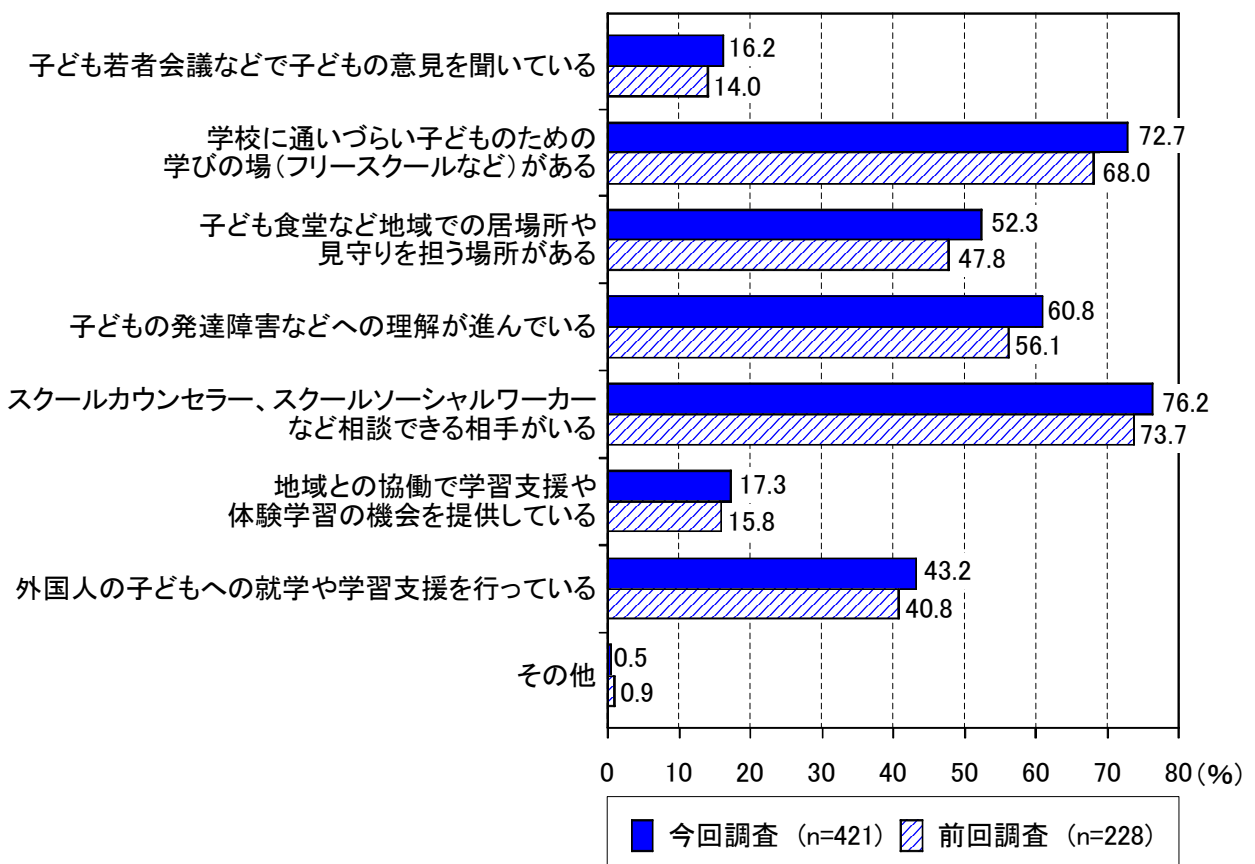
- ヤングケアラーである子どもの権利について考えるきっかけは、「テレビの報道、番組」が71.5%、「インターネット上のニュース記事」が46.9%、「校内の会議、研修」が38.1%となっています。
- 前回調査との比較では、「校内の会議、研修」が26.7ポイント、「校外の研修、講演会」が9.9ポイントと非常に高くなっています。



問9 あなたは今の社会(家庭、地域、学校など)で子どもの権利が尊重されていると思いますか。尊重されていると感じる場面、尊重されていないと感じる場面について教えてください。(それぞれ複数回答)

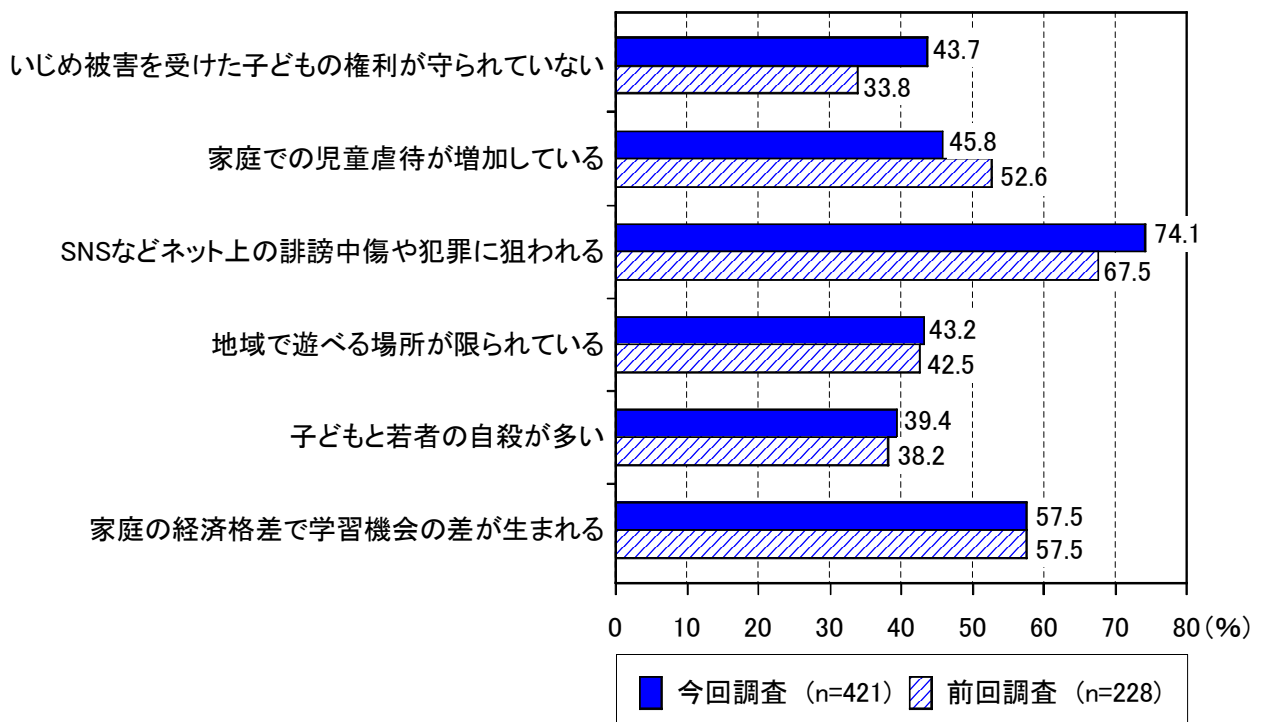
①尊重されていると感じる場面

- 尊重されていると感じる場面は、高い順に、「スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど相談できる相手がいる」が 76.2%、「学校に通いづらい子どものための学びの場(フリースクールなど)がある」が 72.2%、「子どもの発達障害などへの理解が進んでいる」が 60.8%となっています。
- 前回調査の傾向と大きな違いはありませんでした。



②尊重されていないと感じる場面

- 尊重されていないと感じる場面は、高い順に、「SNSなどネット上の誹謗中傷や犯罪に狙われる」が 74.1%、「家庭の経済格差で学習機会の差が生まれる」が 57.5%、「家庭での児童虐待が増加している」が 45.8%となっています。
- 前回調査と比較すると、「いじめ被害を受けた子どもの権利が守られていない」が 9.9 ポイント高くなっています。

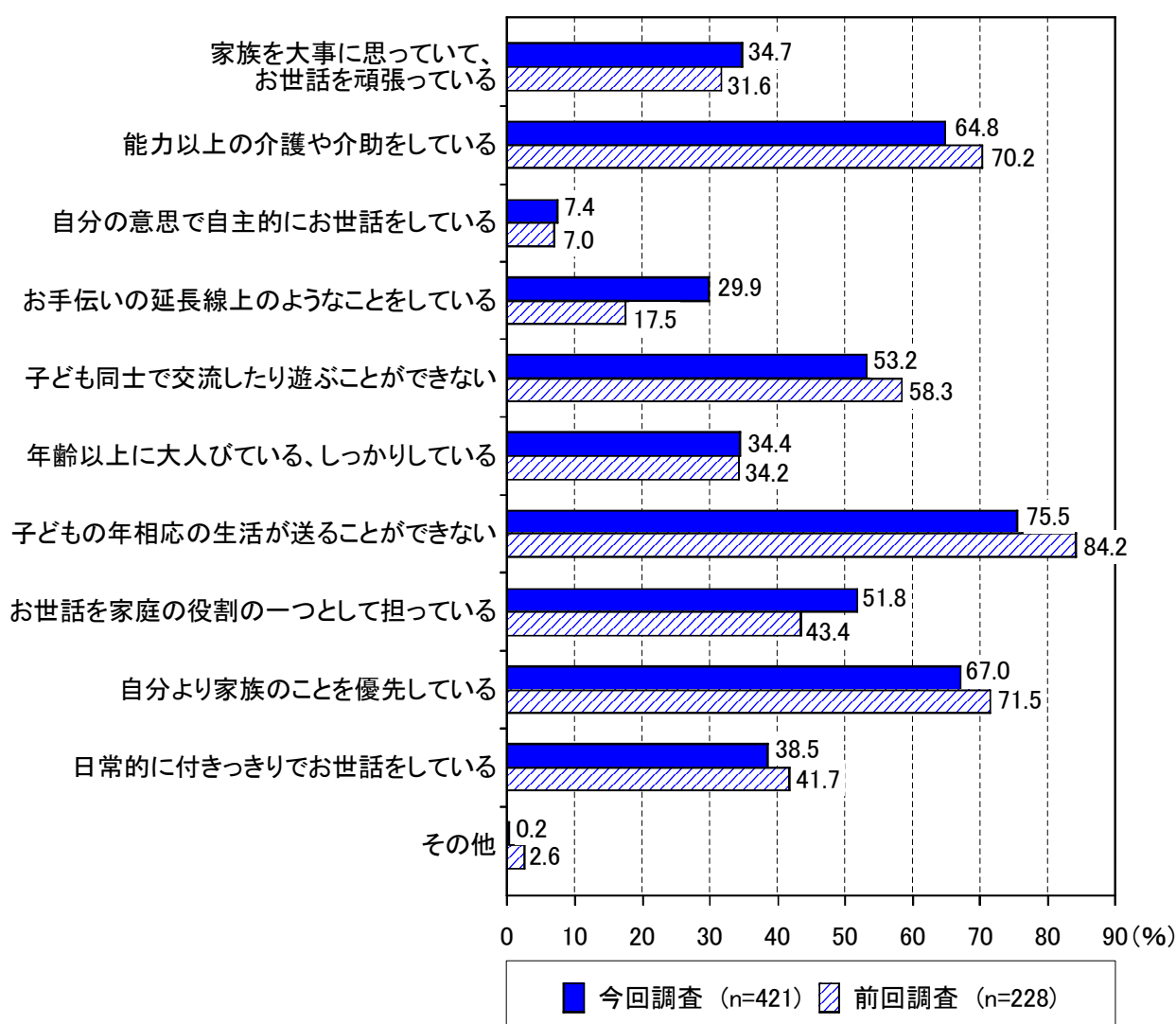


4. ヤングケアラーのイメージ・影響について

問 10 あなたが考えるヤングケアラーのイメージについてあてはまるものを選んでください。

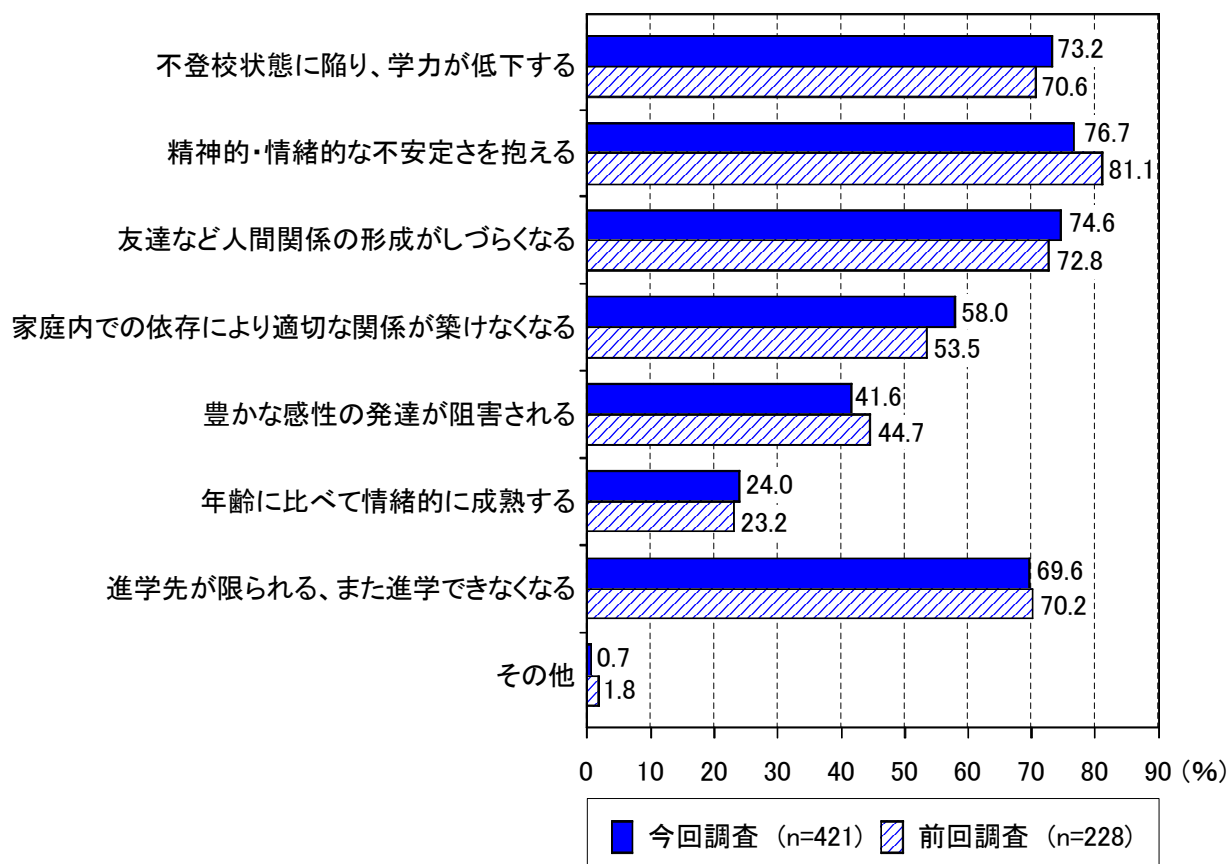
(複数回答)

- ヤングケアラーのイメージは、高い順に、「子どもの年相応の生活が送ることができない」が 75.5%、「自分より家族のことを優先している」が 67.0%、「能力以上の介護や介助をしている」が 64.8%となっています。
- 前回調査との比較では、「お手伝いの延長線上のようなことをしている」が 12.4 ポイント高くなっています。



問 11 ヤングケアラー状態になることで子どもにどんな影響があると思いますか。(複数回答)

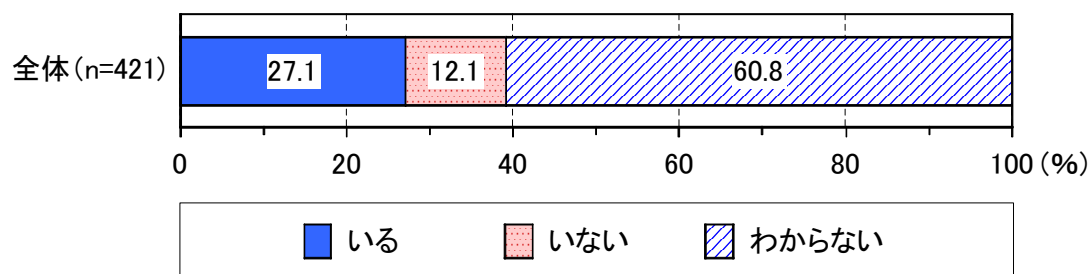
- ヤングケアラー状態になることで子どもに影響があると思うことは、高い順に、「精神的・情緒的な不安定さを抱える」が 76.7%、「友達など人間関係の形成がしづらくなる」が 74.6%、「不登校状態に陥り、学力が低下する」が 73.2%となっています。
- 前回調査の傾向と大きな違いはありませんでした。



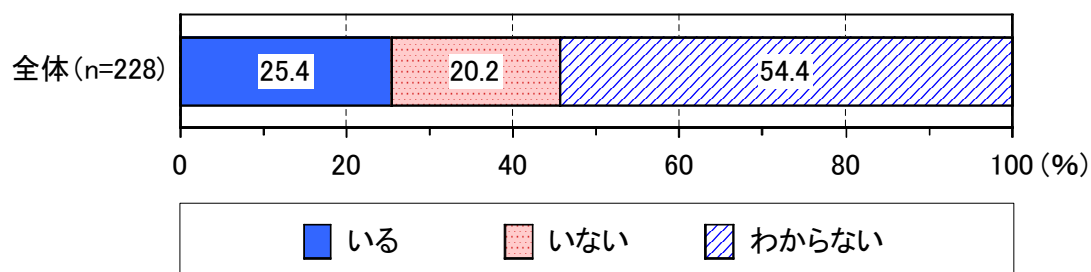
5. ヤングケアラーと思われる子どもについて

問12 現在、貴校にヤングケアラーではないかと感じる(可能性も含めて)子どもはいますか。
把握されている範囲でお答えください。(単数回答)

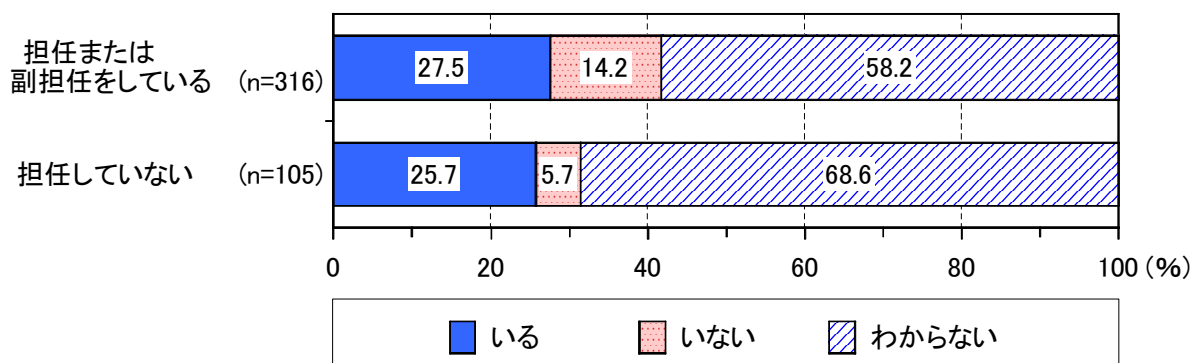
- 自分が勤める学校でヤングケアラーではないかと感じる子どもの有無は、「わからない」が60.8%、「いる」が27.1%、「いない」が12.1%となっています。
- 前回調査との比較では、「いない」が8.1ポイント低くなり、「わからない」が6.4ポイント高くなっています。「いる」は1.7ポイントとわずかですが高くなっています。
- 勤務している学校別では、「いる」は小学校で19.2%、中学校で34.6%、高等学校で70.8%となっており、学年が上がるにつれ高くなっています。「わからない」が小学校では67.8%、「中学校」では52.9%と半数を超えています。



【前回調査】

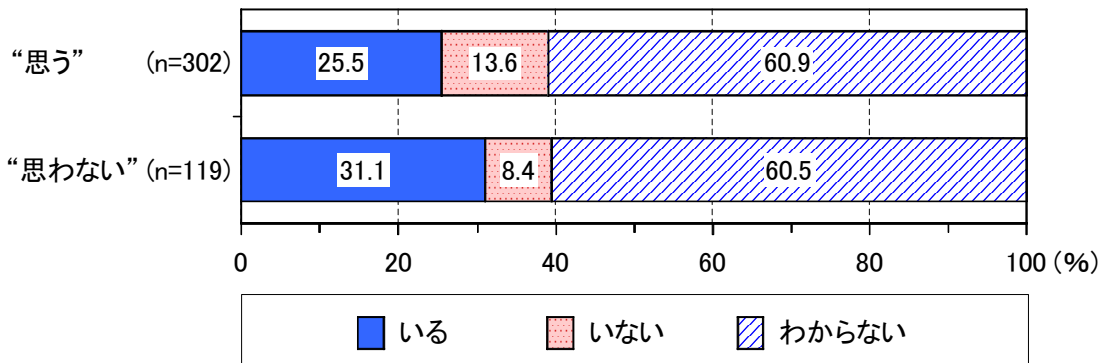


【クラス担任有無別】



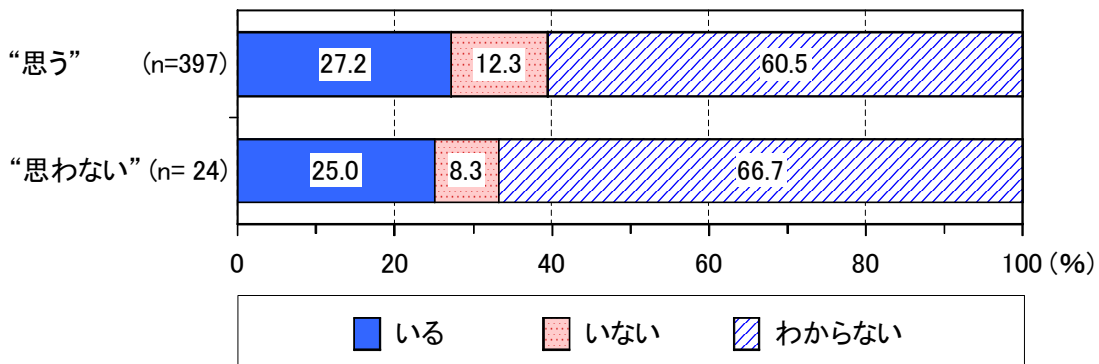
【子どもたちと雑談等する心のゆとりの有無別】

※心のゆとりがあると思うかについて、“思う”は「とてもそう思う+ややそう思う+少しそう思う」、
“思わない”は「あまり思わない+思わない」と回答した人

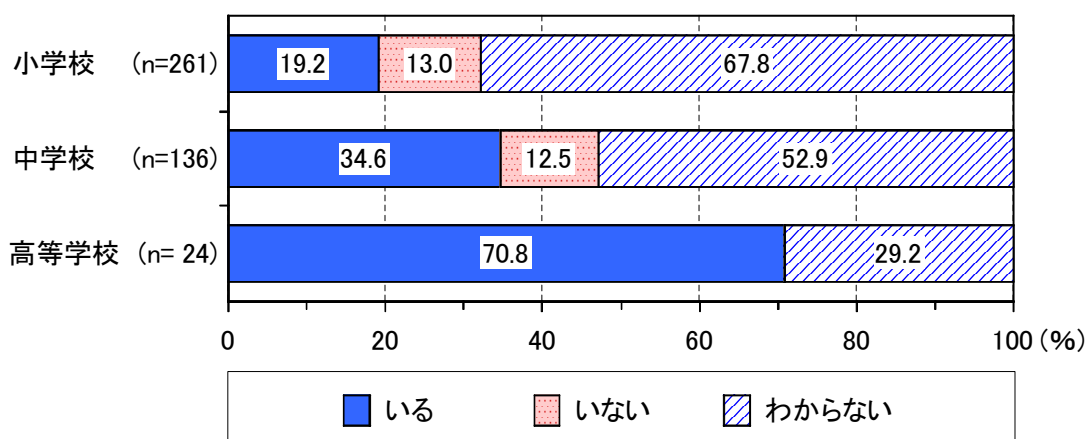


【教職員同士の連携業務の対応の有無別】

※教職員同士が連携して業務に対応していると思うかについて、“思う”は「とてもそう思う+ややそう
思う+少しそう思う」、 “思わない”は「あまり思わない+思わない」と回答した人

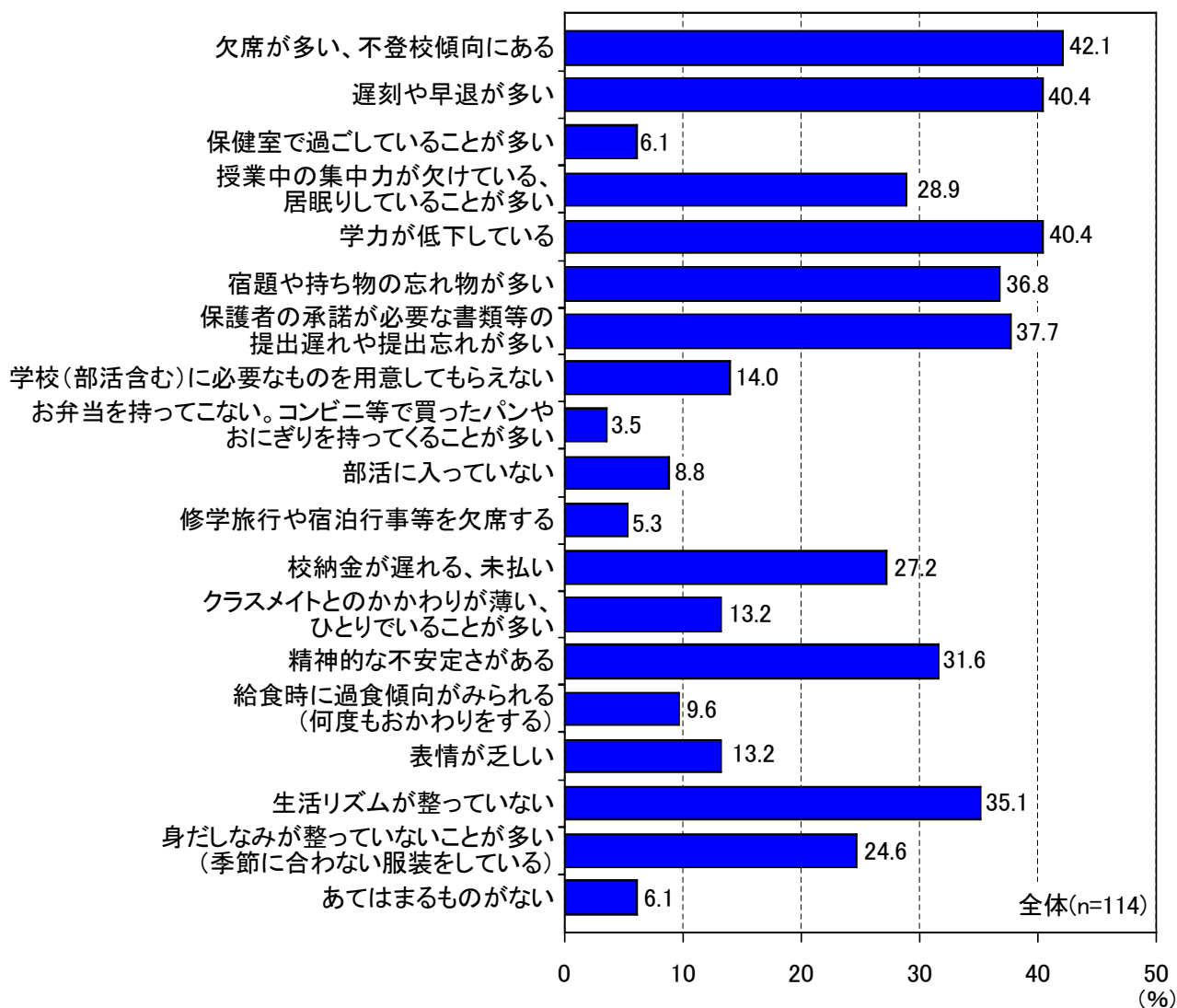


【勤務している学校別】



問 13 その子どもが該当する状況をお答えください。複数の子どもを把握している場合は、全ての子どもが該当しているものを選んでください。(複数回答)

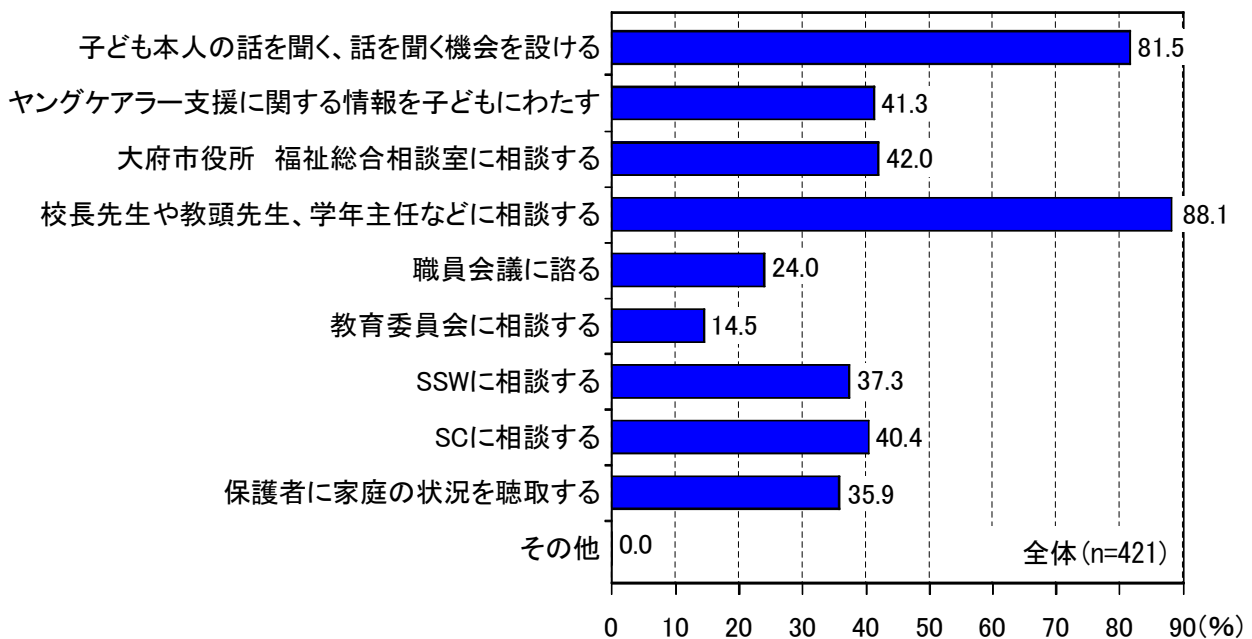
- ヤングケアラーではないかと感じる子どもの該当する状況は、高い順に、「欠席が多い、不登校傾向にある」が 42.1%、「遅刻や早退が多い」、「学力が低下している」が 40.4%、「保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い」が 37.7%、「宿題や持ち物の忘れ物が多い」が 36.8%の順となっています。



6. ヤングケアラーへの対応・支援について

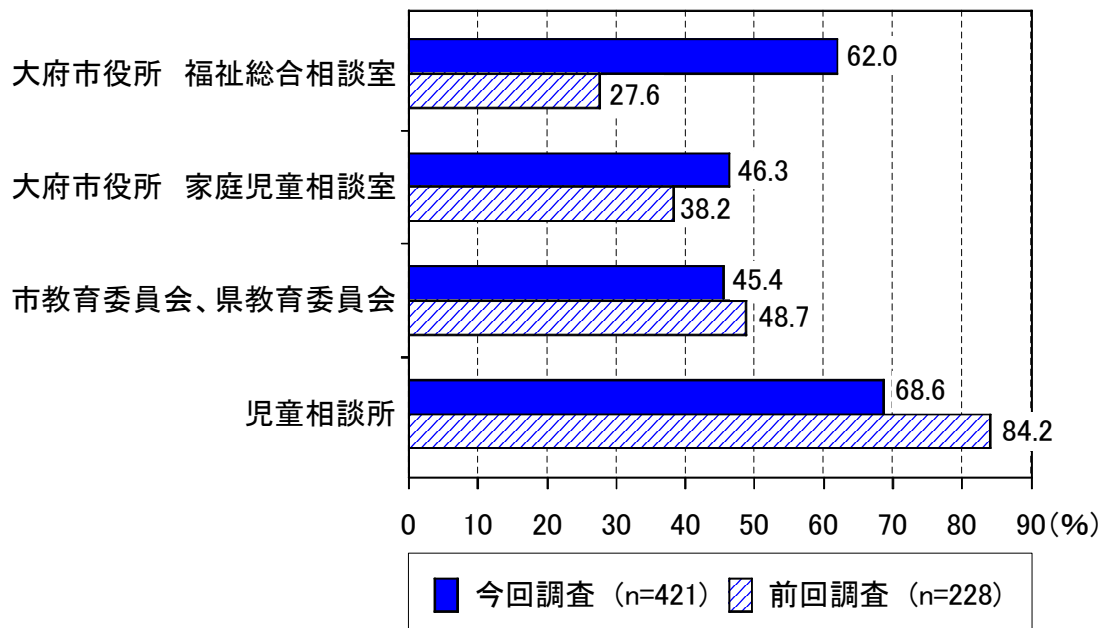
問 14 ヤングケアラーと思われる子どもを発見した場合の、あなたが適当と思う手段・方法はどれですか。(複数回答)

- ヤングケアラーと思われる子どもを発見した時の対応方法は、高い順に、「校長や教頭、学年主任などに相談する」が 88.1%、「子ども本人の話を聞く、話を聞く機会を設ける」が 81.5%、「大府市役所 福祉総合相談室に相談する」が 42.0%となっています。



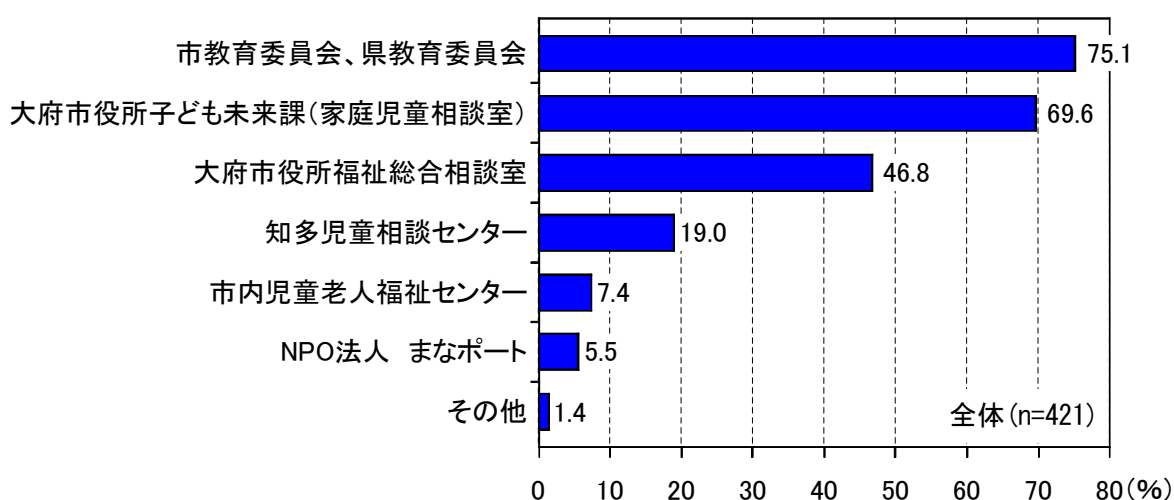
問 15 ヤングケアラーの問題について相談できる窓口や外部機関のうち、知っているものはどれですか。(複数回答)

- ヤングケアラーの問題について相談できる場所の認知は、「児童相談所」が 68.6%、「大府市役所 福祉総合相談室」が 62.0%、「大府市役所 家庭児童相談室」が 46.3%です。
- 前回調査との比較では、「大府市役所 福祉総合相談室」が 34.4 ポイントと非常に高くなっています。

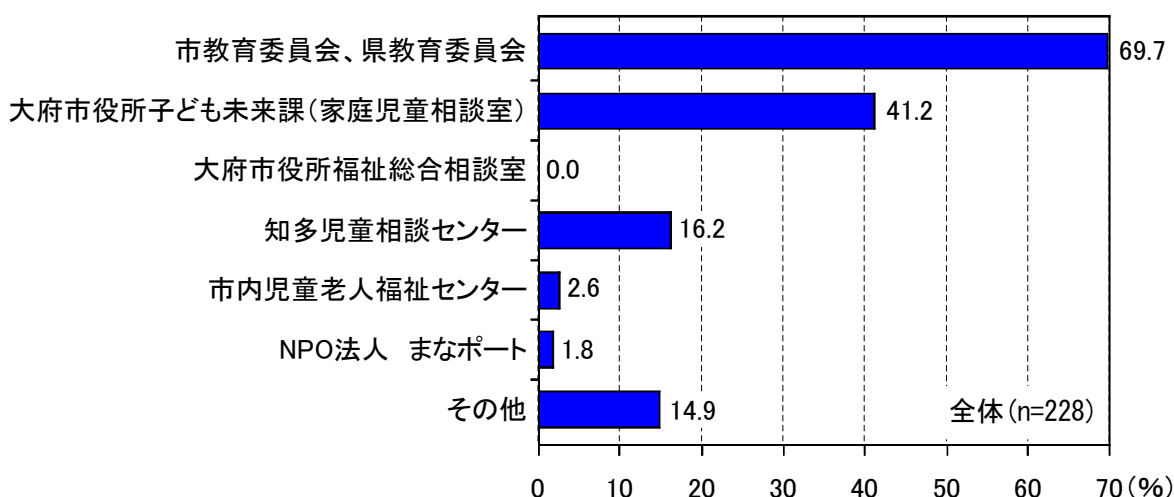


問 16 ヤングケアラーの支援について、貴校が連携をしている機関はどこですか。(複数回答)

- ヤングケアラーの支援について、現在学校が連携している機関は、「市教育委員会、県教育委員会」が 75.1%、「大府市役所 子ども未来課(家庭児童相談室)」が 69.6%、「大府市役所 福祉総合相談室」が 46.8%となっています。
- 前回調査との比較では、「大府市役所 福祉総合相談室」が 46.8 ポイント、「大府市役所 子ども未来課(家庭児童相談室)」が 28.4 ポイントと非常に高くなっています。なお、「大府市役所 福祉総合相談室」は、前回調査では 0.0%でしたが、今回、大府市によるヤングケアラーに関する教職員向けの現職教育(研修)を実施しており、その成果が表れているものと考えられます。
- なお、前回調査では、ヤングケアラーの子どもを支援するために、今後連携を強化していきたいと思う機関について尋ねており、「児童相談所」が 71.5%で最も高く、次いで「大府市役所 福祉総合相談室」(57.5%)、「市教育委員会、県教育委員会」(57.0%)の順となっています。

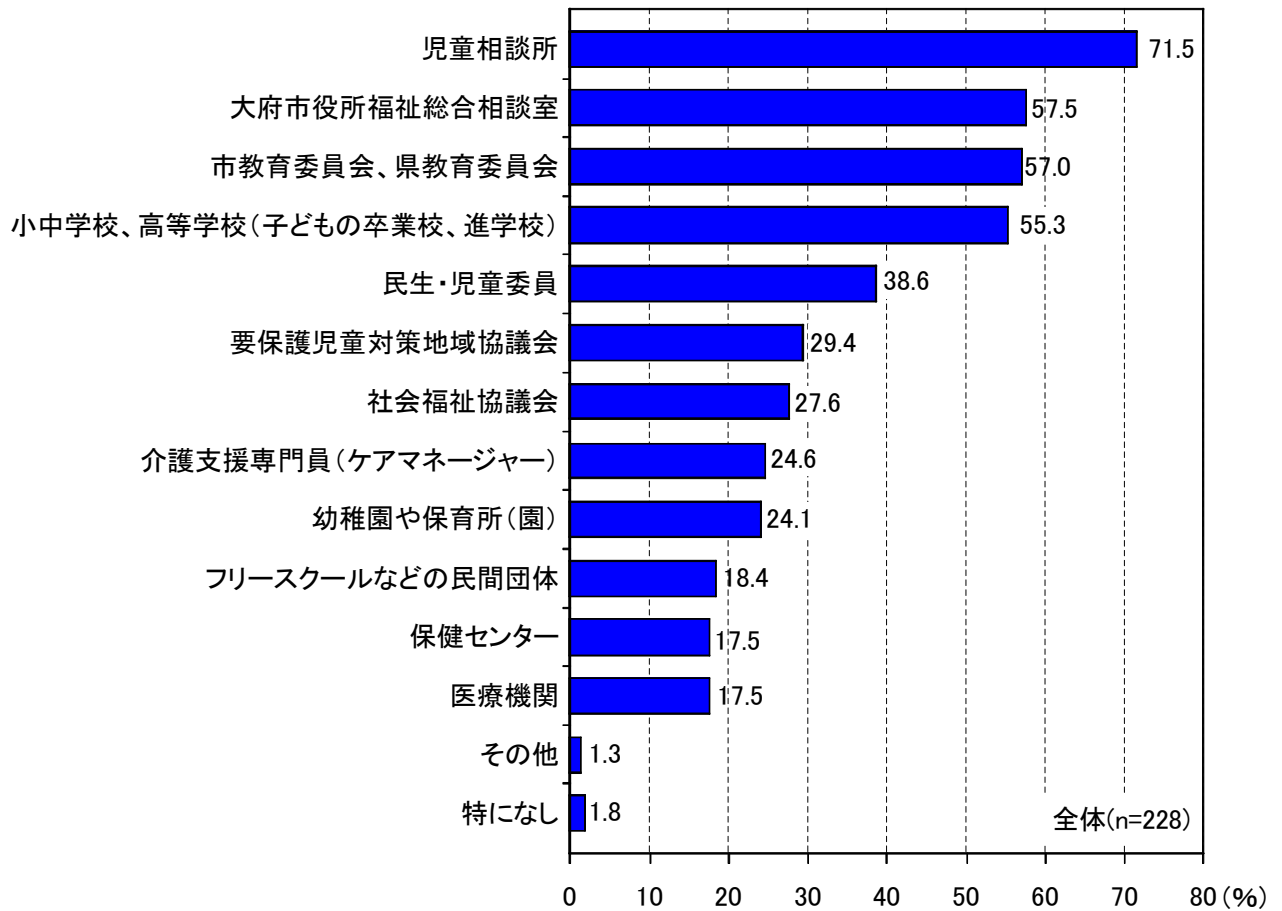


【前回調査】



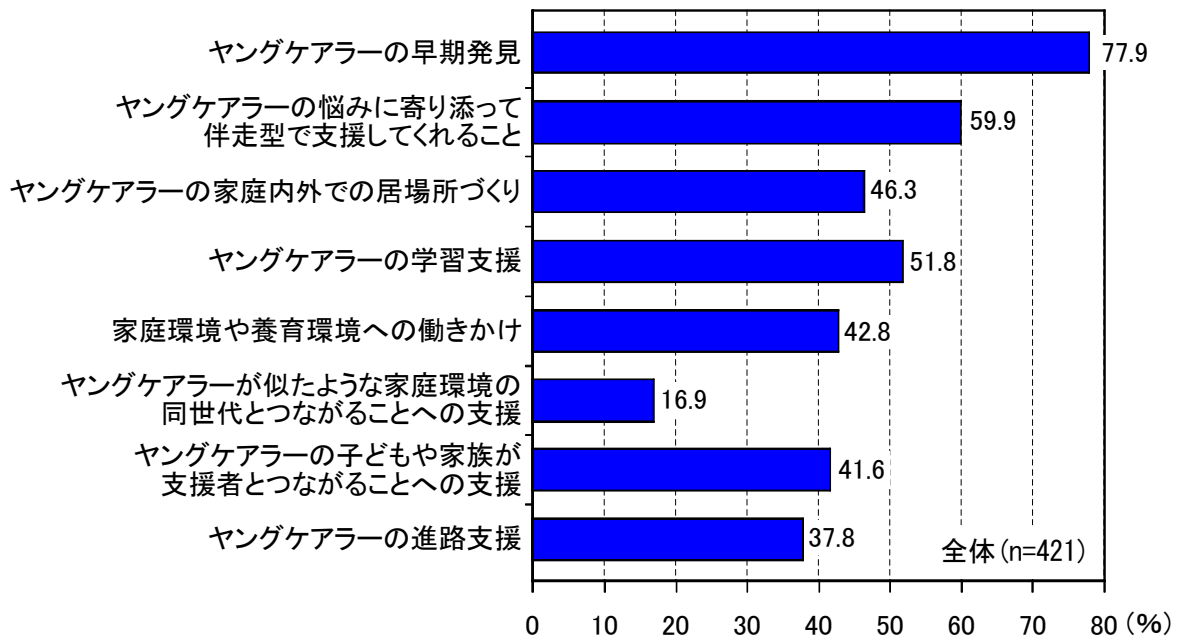
(参考)前回調査

「ヤングケアラーの子どもを支援するために、今後連携を強化していきたいと思う機関」



問 17 今後、外部の機関と連携しながら、ヤングケアラーの子どもの支援を強化していきたいと思うことは、以下のうちどれが考えられますか。(複数回答)

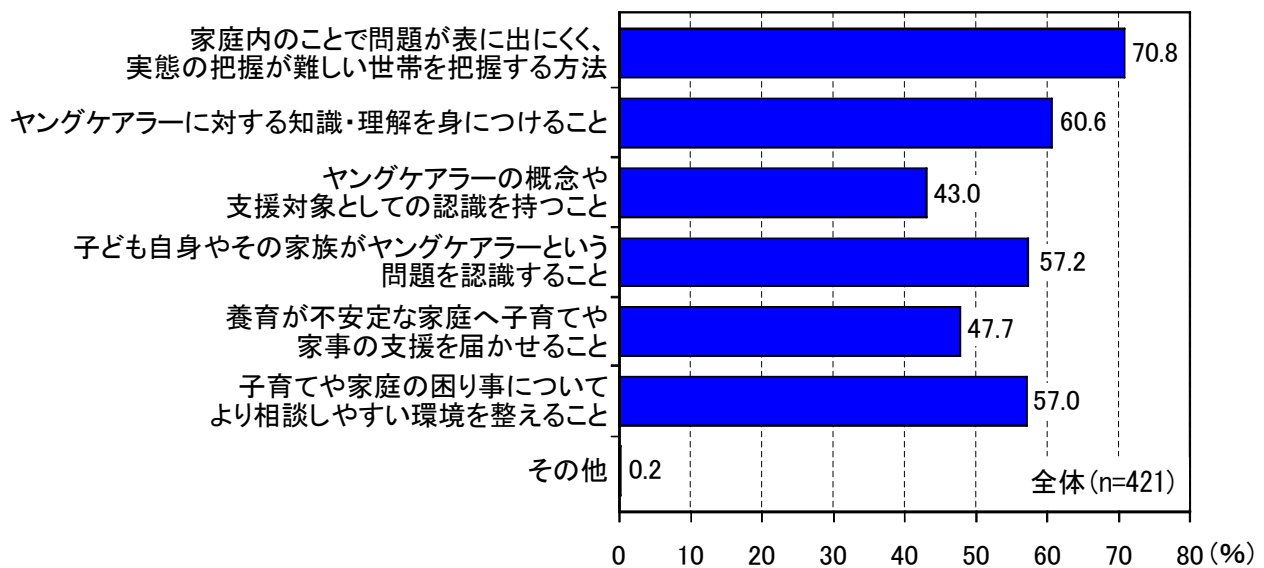
- 外部機関と連携しながらヤングケアラーの支援を強化したいことは、高い順に、「ヤングケアラーの早期発見」が 77.9%、「ヤングケアラーの悩みに寄り添って伴走型で支援してくれること」が 59.9%、「ヤングケアラーの学習支援」が 51.8%となっています。



問 18 ヤングケアラーの子どもを支援する上で重要だと思うものを選んでください。

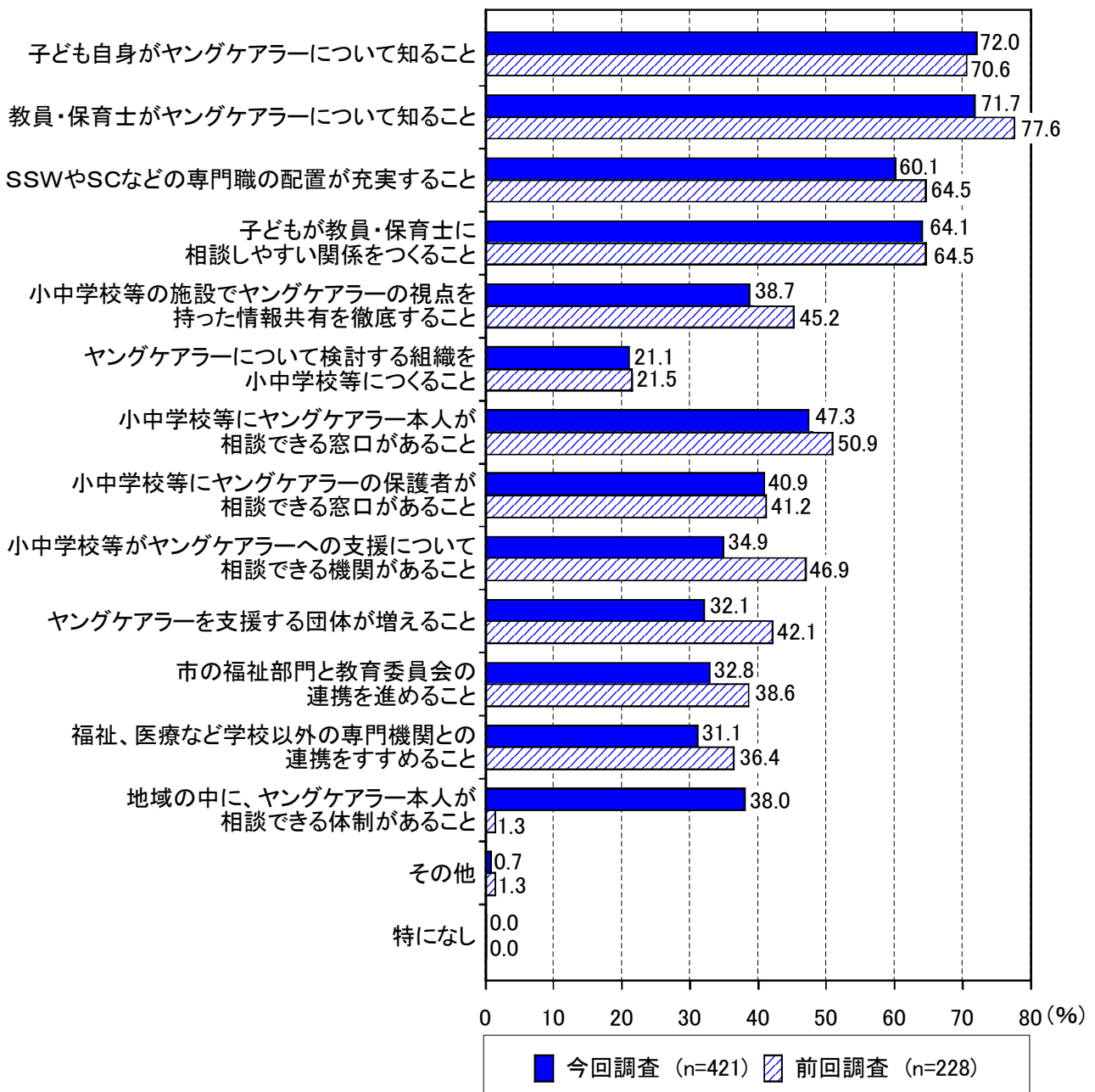
(複数回答)

- ヤングケアラーの子どもを支援する上で重要だと思うことは、高い順に、「家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい世帯を把握する方法」が 70.8%、「ヤングケアラーに対する知識・理解を身につけること」が60.6%、「子ども自身やその家族がヤングケアラーという問題を認識すること」が 57.2%となっています。



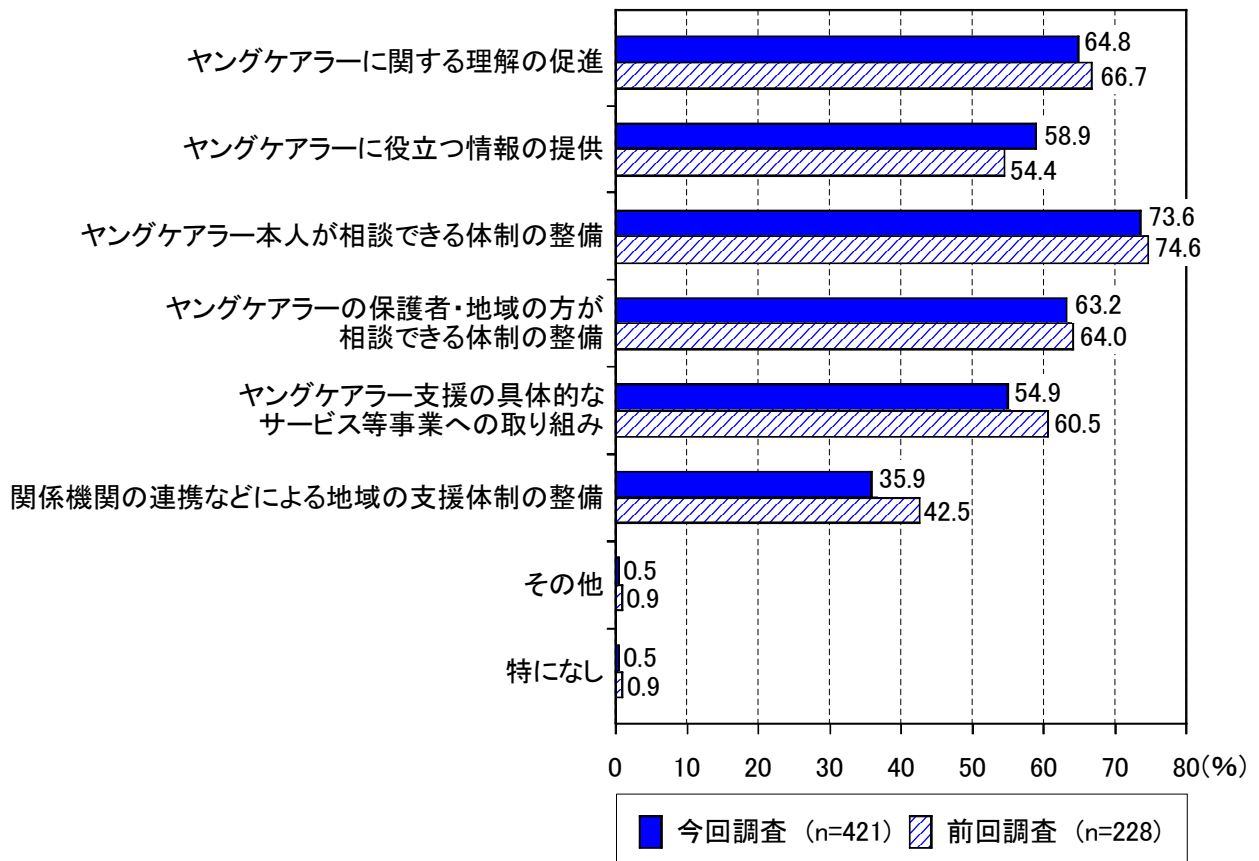
問 19 ヤングケアラー(疑いも含む)を支援するために、どのようなことが必要だと思えますか。
(複数回答)

- ヤングケアラーを支援するために必要な支援については、高い順に、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が 72.0%、「教員・保育士がヤングケアラーについて知ること」が 71.7%、「子どもが教員・保育士に相談しやすい関係をつくること」が 64.1%となっています。
- 前回調査との比較では、「地域の中に、ヤングケアラー本人が相談できる体制があること」が 36.7 ポイントと非常に高くなっています。



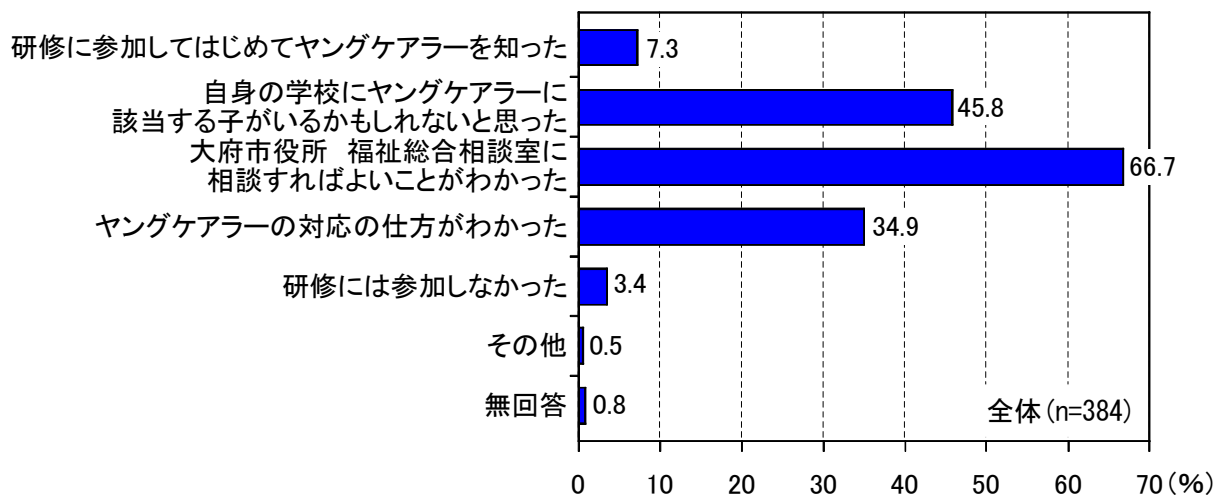
問 20 必要な支援を実現するために市が取り組むべき事項は何だと思えますか。(複数回答)

- 必要な支援を実現するために市が取り組むべき事項は、高い順に、「ヤングケアラー本人が相談できる体制の整備」が 73.6%、「ヤングケアラーに関する理解の促進」が 64.8%、「ヤングケアラーの保護者・地域の方が相談できる体制の整備」が 63.2%となっています。
- 前回調査の傾向とは大きな違いはありませんでした。



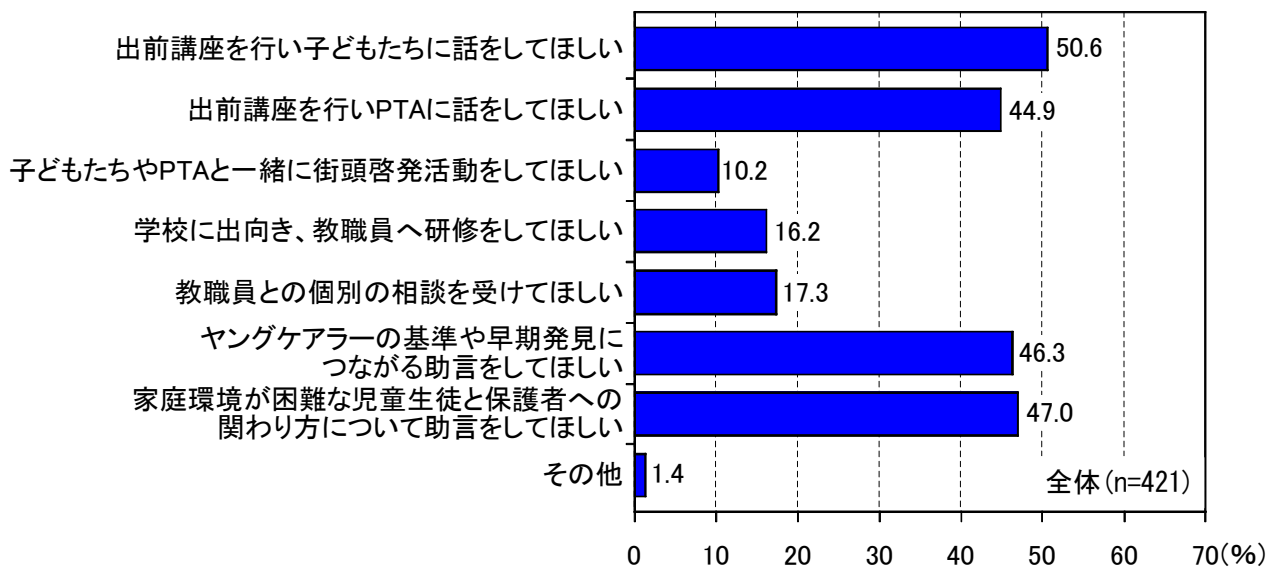
問 21 市では、今年度、小・中学校、高校でヤングケアラーに関する研修を実施しました。
研修の感想を教えてください。(複数回答)

- 市が実施したヤングケアラーに関する研修の感想は、高い順に、「大府市役所 福祉総合相談室に相談すればよいことがわかった」が 66.7%、「自身の学校にヤングケアラーに該当する子がいるかもしれないと思った」が 45.8%、「ヤングケアラーの対応の仕方がわかった」が 34.9%となっています。



問 22 大府市では、ヤングケアラー支援モデル事業を開始しています。
ヤングケアラー支援として市に期待することを選んでください。(複数回答)

- ヤングケアラー支援で市に期待することは、高い順に、「出前講座を行い子どもたちに話をしてほしい」が 50.6%、「家庭環境が困難な児童生徒と保護者への関わり方について助言をしてほしい」が 47.0%、「ヤングケアラーの基準や早期発見につながる助言をしてほしい」が 46.3%となっています。



7. 自由回答(教職員)

【学校の制度】

保護者への働きかけや、連携が不足しやすい。保護者側の仕事が夜勤や残業で遅くなることが多いと、中々連絡が取れない。そうなった時の対処が難しく、問題が起きた時に後手になりやすい。
学校内でどこまで把握できるのかが大切だとは思いますが、それができていると胸を張っては言えない状況なのかなとも思う。子どもと関わる時間をもっと確保していく必要がある。
ヤングケアラーだけでなく、ネグレクト、虐待、不登校、個別の配慮など、さまざまな対応が必要となる児童や保護者が校内に多くいるので、担任1人では対応しきれない。経験年数の少ない教員が大半を占める状況もあり、どんどん対応が難しくなると思う。スクールカウンセラーの在校時間を増やす、支援員を増やすなど対応できる状況をつくってほしい。
教師が家庭内のことについて支援していくことはとても難しい。家庭環境調査と学校での生活の様子を見ているとヤングケアラーの疑いをもつことはあるが、そこから先、家庭の方針や環境に踏み込んで話をしていくことができない。しかし「疑い」のレベルで動かないと、ヤングケアラーの支援には辿りつかないとも感じる。学校に1人 SSW 配置等、専門員の配置をもっともっと拡充してもらいたい。学校で対応するには限界。
人員を増やす。
生徒と関わる時間を多く持てるようにして、早期発見と対応できるような教職員の人員と時間確保。
児童の様子をしっかりと見られるような時間的余裕の確保、業務削減。

【教員の啓発】

実際にどんな支援があるのか実例が講演時にあると良い。困り感のある子だけでなく、家族のサポートが必要と感じているのが福祉課だけでなく、学校現場も同じように感じている。保護者への啓発をもっと実施していただきたい。
ヤングケアラーに該当する可能性のある生徒がいるが、本人がしっかりしているから安易に大丈夫と思わず、その裏にどんな生活が隠れているのか考えていかなければならないと思った。本人にヤングケアラーとしての自覚がない場合もあると思ったので、生徒にヤングケアラーについての理解を深めさせたい。
ヤングケアラーと虐待の判別がつきにくいと感じた。また、ヤングケアラーの子どもが学級にいたとき、親の問題だから、どこまで教員が介入して良いものなのか、分からないとも思った。その時に、どんなところに相談すれば良いのか、どの教員も知っておくと、解決にもつながるし、教師の悩みも軽減されると思う。
いじめなどへのアンテナは高く持っている教員が多いと思うが、ヤングケアラーがいるかもしれないという視点は、すぐに浮かばない教員が多いと思う。私自身もそうで、日々の様子を見たり、教育相談等するとき、ヤングケアラーなのではないか、という視点を常に持つことが必要であると考えた。
事例があれば、どのように対応してきたのか、また現在しているのか教えていただきたい。
事例と対応例を学ぶ。

【行政の制度】

ヤングケアラーの支援は大切だ。ただ、個々には不登校・非行・虐待など複数の問題を抱えているので、統括的
--

な視野で個人を捉えて、どのような支援をすると良いか、の組織をつくっていかないと、と思う。何か個々の問題が起こるたびに、増えるたびに、それぞれの対応しては、縦割りのことになることをまだ恐れている。だから、ヤングケアラーのみの支援モデルにならぬようにしていかなければと思う。

発見時から市に報告するまでの流れを明確にすることや聴取した情報を記録するなどの体制を整えることが必要。また、校内でも情報を共有し、当該児童への関わり方を知る研修が必要であると感じる。

学校だけではできることが限られているので、教育委員会や福祉総合相談室との協力体制が必須だと感じた。

【子どもの話を聞く】

子どもの困っている話に耳を傾けて聞く姿勢が大切だと思う。

親として参加させていただいた。教職員の方々には子どもがいて保護者の方もいると思う。職員自身のご家庭は大丈夫だろうか。親が頑張る姿をみて、子どももがんばることを無意識に強いられてるかもしれない。頑張っていると感じる子どもたちの素直な心の内を拾ってあげられたらと思う。自身も自分の子どもの声を聞かなくてはと痛感した。

踏み込んでいい距離がどれぐらいなのかがわかりにくいため、見逃してしまうことがある。まず、担任は子どもとの信頼関係をしっかり掴んでおくことが大切だと思う。

子どもと家庭の様子を話す機会をつくり、どんな家庭なのかを把握していきたいと思った。貴重なお話をいただきありがとうございます。

【専門家の派遣】

それぞれの家庭にもさまざまな事情があるので、専門の機関やスタッフを増やして、個々に家庭に合ったサポートの仕方を教えてもらえるようにしてほしい。

【相談できる環境の整備】

各担任が児童生徒と積極的にコミュニケーションを図り、風通しの良い関係を築くことが大切。

どうしても家庭の中に関する問題なので、子どもとの信頼関係を築くことが大事だと思った。

日常的に子どもと関わり、生徒が相談しやすい関係を築くことが必要だと考える。そのために、教員が生徒1人1人と関われるようにゆとりをもてる環境をつくっていくべきだと思う。

子どもたちと関わる時間を増やしたり、教育相談等、相談できる機会を継続的に設けたりしていく。

保護者と話せる機会・児童と一対一で話せる機会をもっとつくる必要があると思う。

【ヤングケアラーの可能性のある児童の情報共有】

子どもの家庭環境について、特に気になる子がいれば学年や学校で情報共有をより積極的にしていくべきだと感じた。子どもによってある先生には言って、ある先生には言えていないということもあるため。

ヤングケアラーの可能性のある生徒の情報交換。

学校内で解決していけない問題であることが多いので、学校外の方の力を借りることが大切だと思う。中学校からの情報があれば、高校でも対応が後手にならずに済むと思う。

【ヤングケアラーの周知】

保護者にも、ヤングケアラーとは何かということを知らせる文書等を出すことで、認知度を上げる。
ヤングケアラーという言葉自体がまだあまり知られていないので、周知する活動を教育課程の中に組み込んでいくべきだと考えた。ただ、教員も日々の業務があるため動画教材など子どもたちにも分かりやすいものがあると、教員も取り組みやすい。
ヤングケアラーについて知識をもち、気になる生徒について情報交換を密に行うことが大切である。
子どものヤングケアラーに関する知識も必要だと思う。ケアラーの方の多くがその自覚がないと聞くので、ヤングケアラーについて正しい知識を身につけ、生活を振り返ることが必要だと思う。子どもの中にはそもそもヤングケアラーを知らない子が多いので、出前授業や学校保健委員会などで取り扱うといいと思った。

【ヤングケアラーの早期発見】

懇談会や教育相談などで家庭での状況をつかみ共有すること。
家庭環境がわかりづらく、ヤングケアラーかどうかの判断が難しい。家庭のことは、深く話を聞くことが難しい。
教職員や子どもたち用にチェックシートがあれば、判断材料になりやすいのかと思う。(もうあったらすみません・・・)
教科の提出物の提出率や定期テストの点数が低いことに気付いた時は誰かに相談する。もしかしたら家で勉強ができないのかもしれない。そう思うことも大切かもしれない。色々な家庭内事情があることを考慮して、様子を見る。これがヤングケアラーの初期症状なのかもしれない。しかし思い込みをすることはよくないので、あくまで様子を伺いながら上手に情報を集めることが大切だと思う。綺麗事で済ませようとはしないで、まずは母親と「おうちで勉強する時間がありますか」と聞いてみることもいいのかもしれないと思う。
ヤングケアラーについて初めて学んだ。私のクラスにも、遅刻が多い児童や休みが続いている児童がいる。できる限り会話をして何か抱え込んでないか気にかけているが、心配な部分が多々ある。これからもヤングケアラーに気をつけて子どもの様子を見ていけるといいと思った。
遅刻や欠席だけでなく、家庭環境も影響するので、改めて片親等の環境についても確認すべきだと感じた。特に、母親がいないところは注意が必要だと感じた。

【その他】

今回の本校での講演会の講師の方の話し方が単調で生徒が興味を持ったか不安。身近な例として講師の方が経験談を話されたが、適切であったとは思えない。一般的な話とかけ離れすぎていて生徒に誤解を与えたのではないかと心配だ。
--

IV. 調査結果の考察

1. ヤングケアラーの疑いのある子どもの特性①

《ヤングケアラーの疑いのある子ども》

- 子どもの調査結果より、『現在家族の中にお世話をする必要のある人のうち、自身がお世話をしている子ども』は、小学5年生では33件、中学2年生では12件、高校2年生では9件となっています。この項目の該当者をヤングケアラーの疑いのある子どもとして、学年別に特性や課題について整理しました。

学年	回答者数 (件)	家族の中にお世話が 必要な人がいる子ども	家族の中にお世話が必要な 人がいる人のうち、自身がお 世話をしている子ども
小学5年生	786	71件(9.0%)	33件(46.5%) 対全体比(4.2%)
中学2年生	778	27件(3.5%)	12件(44.4%) 対全体比(1.5%)
高校2年生	449	22件(4.9%)	9件(40.9%) 対全体比(2.0%)

- お世話の対象では、すべての学年で、年下のきょうだいが高くなっていますが、「母親」、「祖母」「兄・姉」「父親」といった他の家族も対象としてお世話をしている状況がうかがえます。
- お世話の内容では、学年が上がるにつれて、家事などに加え、感情面のサポートやきょうだいの送迎・通院の付き添いなどの屋外でのお世話など、お世話の範囲が広範になっています。
- お世話の頻度では、すべての学年で週に「2日以上」が9～10割となっています。週に「6日以上」では3割を占めます。
- お世話を始めた時期は、小学5年生では、1年前からが7割、1年以上前から3割となっています。また、中学2年生と高校2年生では、1年前からが4割、1年以上前から6割となっています。お世話を始めたタイミングとしては、小学生からお世話が始まった子どもが一定いることがうかがえます。
- お世話を一緒にしてくれる人の有無では、すべての学年でいる人が多いですが、小学5年生と中学2年生では1割、高校2年生では2割が「いない」となっています。

- お世話の負担感(つらさ)では、**体力的にはすべての学年で3割強がつらさを感じています**。また、**気持ち的には、学年が上がるにつれて、つらさの割合が高くなっており、小学5年生では3割弱、中学2年生では4割、高校2年生で7割弱がつらさを感じています**。**学年があがるにつれて、お世話期間の長期化やお世話の内容が広がることなどで、負担が大きくなっていると考えられます**。**特に、高校2年生では、お世話を一緒に手伝ってくれる人がいないという回答が高くなっていることから、負担が一人に集中している可能性もあります**。
- 学校以外で相談できる場所については、半数以上が「知らない」と回答していることから、「大府市役所(福祉総合相談室など)」、「大府市のLINE相談窓口」「児童(老人福祉)センター」といった**学校以外に相談できる場所の更なる周知が必要と考えられます**。
- 学校や周りの人にしてほしいことは、**すべての学年で「自分の今の状況について話を聞いてほしい」が高くなっています**。学年別では、小学5年生では、自由に使える時間がほしいこと、家族のお世話について相談に乗ってほしいことなどが高くなっています。中学2年生では、学校の勉強や受験勉強など学習のサポートや進路や就職など将来の相談に乗ってほしいことなどが高くなっています。高校2年生では、自由に使える時間がほしいこと、進路や就職など将来の相談に乗ってほしいこと、家庭への経済的(金銭面)な支援などが高くなっています。中学2年生、高校2年生では、**将来への不安が高くなる傾向にあることが分かります**。

表 ヤングケアラーと思われる子どもが該当する状況

項目	主な回答・傾向		
	小学5年生(33件)	中学2年生(12件)	高校2年生(9件)
お世話の対象	「弟・妹」 「母親」 「祖母」	「弟・妹」 「母親」 「兄・姉」	「弟・妹」 「母親」 「祖母」
お世話をしている人の状況	「若い」 「食事や身の回りのお世話が 必要」 「仕事でいそがしい」	「若い」 「身体障がい」 「日本語が苦手」	「高齢」 「若い」 「要介護」 「認知症」
お世話の内容	「身体的な介護(入浴や トイレのお世話など)」 「見守り」 「家事(食事の準備や掃 除、洗濯)」	「家事(食事の準備や 掃除、洗濯)」 「きょうだいの世話や 保育所等への送迎な ど」 「感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相 手になるなど)」 「見守り」	「見守り」 「身体的な介護(入浴や トイレのお世話など)」 「家事(食事の準備や掃 除、洗濯)」 「きょうだいの世話や 保育所等への送迎な ど」 「外出の付き添い(買い 物、散歩など)」 「感情面のサポート(愚 痴を聞く、話し相手にな るなど)」
お世話の頻度	週に2日以上が9割	週に2日以上が10割	週に2日以上が9割
お世話を始めた時期	1年前から7割 1年以上前から3割	1年前から4割 1年以上前から6割	
お世話を一緒にする人	いない1割		いない2割
お世話をすることのつ らさ・悩み(体力)	“つらい”3割強		
お世話をすることのつ らさ・悩み(気持ち)	“つらい”3割弱	“つらい”4割	“つらい”7割弱
お世話についての相談 経験	ない7割	ない8割弱	ない8割
相談した人	家族、友達、学校の先生	学校、友達、 習い事の先生	家族、友達
学校以外で相談できる 場所の認知	—	「大府市役所(福祉総合相談室など)」、 「大府市のLINE相談窓口」、 「児童(老人福祉)センター」など ※「どれも知らない」が最も高い	
学校や周りの大人にし てもらいたいこと	「自分の今の状況につい て話を聞いてほしい」 「自由に使える時間がほ しい」 「家族のお世話について 相談に乗ってほしい」	「自分の今の状況につ いて話を聞いてほ しい」 「進路や就職など将来 の相談に乗ってほ しい」 「学校の勉強や受験 勉強など学習のサポ ート」	「自由に使える時間が ほしい」 「自分の今の状況につ いて話を聞いてほ しい」 「進路や就職など将来 の相談に乗ってほしい」 「家庭への経済的な支 援」

2. ヤングケアラーの疑いのある子どもの特性②(全体との比較)

- 本項では「ヤングケアラーの疑いのある子ども」について、調査の全体の結果と比較しながら学年別に特性や課題について整理しました。
- 普段の生活の様子からは、欠席や遅刻・早退の有無については、いずれの学年でも、ヤングケアラーの疑いのある子どもが欠席や遅刻・早退が多い傾向となっています。また、睡眠が足りていないは、小学5年生では、全体と比べ 30 ポイントほど高くなっています。さらに、朝食をとっているかは、中学2年生と高校2年生で「とっていない」が多い傾向となっています。また、普段の生活で当てはまること(できていないこと)としては、「宿題や課題ができないことが多い」がすべての学年で全体と比べ高くなっており、また、学年にもよりますが、「持ち物の忘れ物が多い」、「部活動や習い事を休むことが多い」、「提出物を出すのが遅れることが多い」、「友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」などの項目も高くなっています。これらの項目に複数該当する子どもはヤングケアラーの疑いがあると考えられます。
- 悩みや困りごとでは、全体と比べると、いずれの学年も「特にない」が 20～30 ポイント程度低く、悩みや困りごとが多い傾向が読み取れます。小学5年生では「友達のこと」「学校の成績のこと」「家族のこと」「生活や勉強に必要なお金のこと」などで全体と比べポイントが高く、中学2年生・高校2年生では、「学業成績のこと」「進路のこと」「学費など学校生活に必要なお金のこと」「自分の自由時間がもてないこと」「自分と家族の関係のこと」「家族内の人間関係のこと」などで全体と比べポイントが高くなっています。
- 相談相手については、小学5年生では「家族」「友達」が低くなっており、家族や友達には相談しにくい状況がうかがえます。また、中学2年生と高校2年生では「友達」が高くなっており、「友達」には比較的相談しやすい状況がうかがえました。
- 相談しやすい「方法」では、中学2年生・高校2年生では、全体と比べ「インターネットやSNSなど文字で相談する方法」「自分の情報は知られずに相談できる方法」が高くなっています。
- ヤングケアラーの認知度は、全体と比べ、すべての学年でポイントが低くなっています。ヤングケアラーの疑いのある子どもについては、当事者としての自覚がない場合も想定する必要があると考えられます。
- 「ヤングケアラーという言葉聞いたことがある」については、中学2年生と高校2年生では、今回実施した「大府市の人権講話」や「学校」のポイントなどが高くなっています。
- 人権講話の感想では、いずれの学年で、全体と比べ「自分がヤングケアラーに当てはまるかもしれないと思った」が高くなっています。

表 ヤングケアラーと思われる子どもが該当する状況(全体との違い)

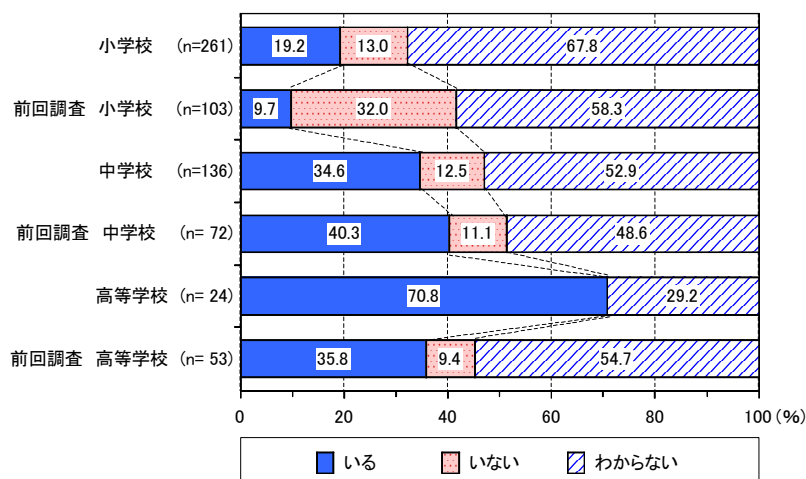
項目	主な回答・傾向		
	小学5年生(33件)	中学2年生(12件)	高校2年生(9件)
欠席をする	全体と比べ、「たまにする」が25.1ポイント高い	全体と比べ、「たまにする」が13.0ポイント高い	全体と比べ、「たまにする」が3.9ポイント高い
遅刻・早退する	全体と比べ、「たまにする」が11.5ポイント高い	全体と比べ、「たまにする」が6.8ポイント高い	全体と比べ、「たまにする」が8.6ポイント高い
習い事をしている	全体と比べ、14.3ポイント低い	—	—
睡眠が足りていない	全体と比べ、30.0ポイント高い	—	—
朝食をとっていない	—	全体と比べ、33.2ポイント高い	全体と比べ、19.9ポイント高い
普段の生活であてはまること(できていないこと)	宿題ができないことが多い、持ち物の忘れ物が多い、習い事を休むことが多い、提出物を出すのが遅れることが多い、友達と遊んだりする時間が少ない	宿題ができないことが多い、提出物を出すのが遅れることが多い	授業中に居眠りすることが多い、宿題や課題ができないことが多い、友達と遊んだりする時間が少ない
悩み・困りごと	友達のこと 学校の成績のこと 家族のこと 生活や勉強に必要なお金のこと	学業成績のこと、進路のこと 学費など学校生活に必要なお金のこと 自分の自由時間がもてないこと 自分と家族の関係のこと 家族内の人間関係のこと	
相談相手	全体と比べ「家族」「友達」「学校の先生」などが低い	全体と比べ「友達」「学校の先生」が高い	全体と比べ「家族」「学校の先生」が低く、「友達」がやや高い
相談しやすい方法	全体と比べ「その他」が高い	全体と比べ「インターネットやSNSなど文字で相談する方法」「自分の情報は知られずに相談できる方法」が高い	全体と比べ「インターネットやSNSなど文字で相談する方法」「自分の情報は知られずに相談できる方法」「平日の夜に相談できる方法」「学校のない日に相談できる方法」が高い。
ヤングケアラーの認知度	全体と比べ「聞いたことがない」が8.7ポイント高い。	全体と比べ「聞いたことがない」が15.0ポイント高い。	全体と比べ「聞いたことがない」が15.2ポイント高い。
市が企画するサロンへの関心	全体と比べ、「料理教室」が9.0ポイント高い。	全体と比べ、「キャリア講座」が21.8ポイント高い。	全体と比べ、「キャリア講座」「メンタルヘルス講座」が7～10ポイント程度高い。
人権講話の感想	全体と比べ、「自分がヤングケアラーに当てはまるかもしれないと思った」が19.0ポイント高い。	全体と比べ、「自分がヤングケアラーに当てはまるかもしれないと思った」が21.0ポイント高い。	全体と比べ、「自分がヤングケアラーに当てはまるかもしれないと思った」が68.6ポイント高い。

3. 当事者が相談しやすい相談環境の整備と周知

- ヤングケアラーの疑いがある子どもは、全体と比べ、悩みや困りごとが多い傾向がみられました。
- 家族のお世話に関する問題の中で、学校や周りの人にしてほしいことは、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」が高くなっています。
- 相談相手については、全体と比べ、小学5年生では、家族や友達には相談しにくい状況がうかがえます。また、中学2年生と高校2年生では「友達」が高くなっており、「友達」には比較的相談しやすい状況がうかがえます。
- ただし、中学2年生・高校2年生については、友達には相談しやすい状況がみられる一方で、相談しやすい「方法」としては、中学2年生・高校2年生では、全体と比べ、「インターネットやSNSなど文字で相談する方法」、「自分の情報は知られずに相談できる方法」が高くなっています。
- 学校以外で相談できる場所については、おおむね半数以上が「知らない」と回答していることから、「大府市役所(福祉総合相談室など)」、「大府市のLINE相談窓口」「児童(老人福祉)センター」といった学校以外に相談できる場所について、更なる周知が必要と考えられます。

4. ヤングケアラーの疑いのある子どもの把握・早期発見

- 学校教職員向けアンケート調査の結果では、ヤングケアラーの疑いのある子どもの有無は小学校では「いる」が19.2%(前回調査9.7%)、中学校では「いる」が34.6%(前回調査40.3%)、高等学校では「いる」が70.8%(前回調査35.8%)となっており、学年が上がるにつれて、ヤングケアラーと思われる子どもを教職員が認識している割合が高くなる傾向にあります。なお、前回調査と比較すると、「いる」の割合は、今回調査は小学校で約10ポイント、高等学校では約35ポイントと高くなっています。



- 学校教職員向けアンケート調査の結果では、ヤングケアラーと思われる子どもが該当する状況では、欠席・遅刻や早退が多いことや学力が低下していることなどが上位項目となっており、これらに複数該当する子どもはヤングケアラーの疑いがあると考えられます。なお、前項で確認したとおり、「欠席・遅刻や早退が多いこと」はヤングケアラーの特徴と合致しており、1つの目

安としてヤングケアラーの早期発見につながる指標になると考えられます。

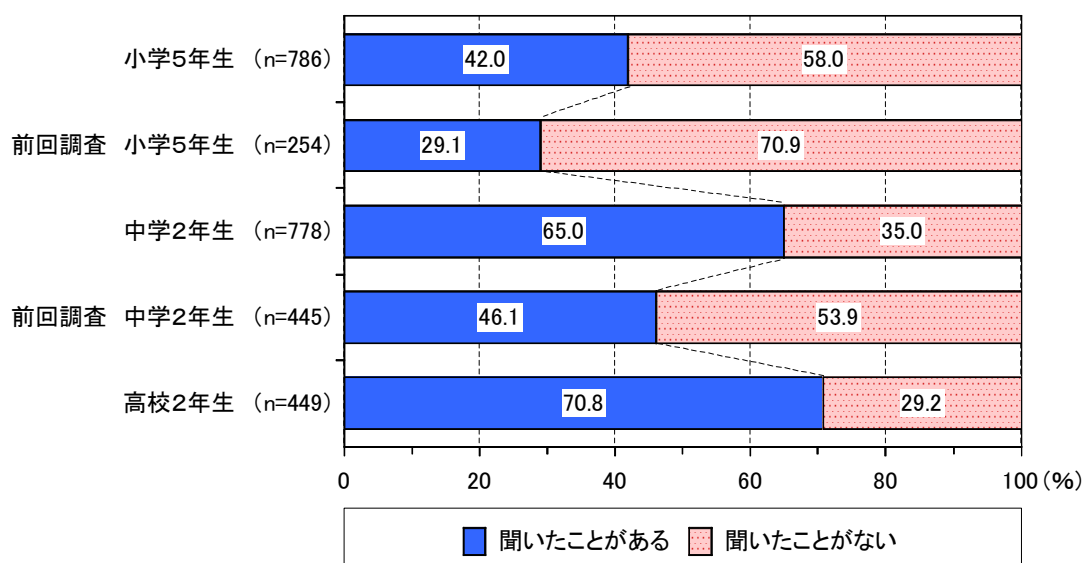
- ヤングケアラーの疑いのある子どもの特性からは、時間的にも、体力的、気持ち的にも余裕がない状況がうかがえ、さらに、ヤングケアラーとしての自覚のない子どももいると想定すると、子どもにとって、家族以外では一番身近な大人である教職員が、「もしかしたらヤングケアラーに該当するかもしれない」という疑いの視点も持ちながら、子どもと接することも必要と考えられます。

表 教職員からみたヤングケアラーと思われる子どもが該当する状況

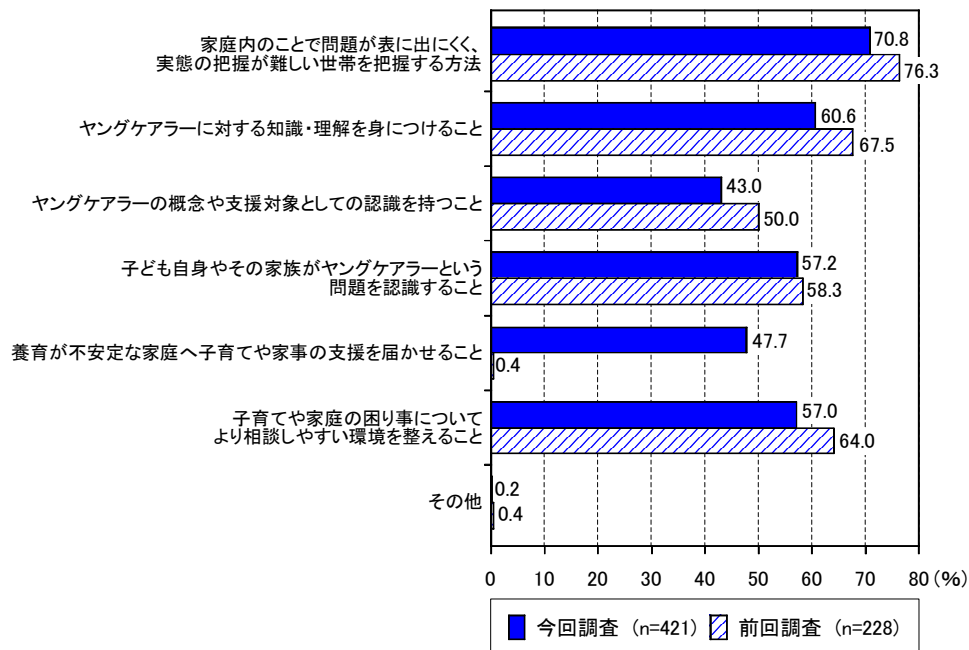
順位	状況	割合
1位	欠席が多い、不登校傾向にある	42.1%
2位	遅刻や早退が多い	40.4%
2位	学力が低下している	40.4%
3位	保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	37.7%
4位	宿題や持ち物の忘れ物が多い	36.8%
5位	生活リズムが整っていない	35.1%

5. 「ヤングケアラー」の認知度向上に向けた啓発

- 小学生・中学生向けアンケート結果では、ヤングケアラーという言葉を知ったことがあるかについて「聞いたことがある」が、小学生では42.0%(前回調査29.1%)、中学生では「聞いたことがある」が65.0%(前回調査46.1%)、高校2年生では、70.8%となっており、学年が上がるにつれて高くなっています。また、前回調査との比較では、「聞いたことがある」が小学5年生では12.9ポイント、中学2年生では18.9ポイント増加しており、昨年と比べ認知度が高まっていることがうかがえます。他方で、社会的な関心が高まり、テレビや新聞などでも目にする機会が増加している中、小学生では6割、中学生では3割強、高校生では3割が「聞いたことがない」と回答していることから、引き続き継続的な周知が求められます。



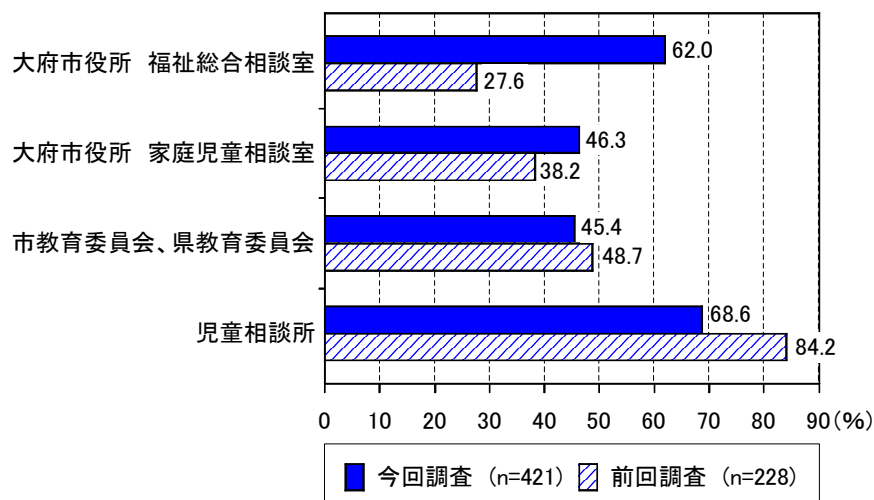
- また、ヤングケアラーという言葉を知った媒体は、すべての学年で、「テレビ、新聞」や「学校」が上位にあがっています。特に、高校2年生では、「学校」が最も高くなっています。「学校」のポイントは、前回調査と比べ、小学5年生では18.9ポイント、中学2年生では22.0ポイントと大きく増加しており、学校による周知の機会が増えたことで、認知度の向上につながっていることがうかがえます。
- 今回実施した「大府市の人権講話(ヤングケアラーに関する講座)」の感想については、すべての学年で、「講話を聞いて、はじめてヤングケアラーを知った」が50%を超えて最も高くなっています。他にも、「自分がヤングケアラーに該当するかもしれないと思った」や「友人がヤングケアラーに該当するかもしれないと思った」などの回答も一定数みられました。特に、ヤングケアラーの疑いのある子どもについては、いずれの学年でも、全体と比べ「自分がヤングケアラーに当てはまるかもしれないと思った」が高くなっており、当事者の自覚にもつながっていると考えられます。市によるヤングケアラーに関する講座は、ヤングケアラーの認知度向上とヤングケアラー当事者の自覚の促進、周囲の友人による当事者の発見に効果的に寄与するものとして、今後も継続的に取り組むことが必要と考えられます。
- また、教職員アンケートの結果では、ヤングケアラーの子どもを支援する上で重要だと思うことは、「家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい世帯を把握する方法」、「ヤングケアラーに対する知識・理解を身につけること」「子ども自身やその家族がヤングケアラーという問題を認識すること」が上位となっていました。ヤングケアラー自身とその家族のみならず、家族をとりまく学校や地域等の周囲の大人も含めて、ヤングケアラーという問題を認識し、ヤングケアラーに対する知識・理解を身につけることが何より重要であると考えられます。



- なお、前項で確認したとおり、ヤングケアラーの疑いのある子どもは、ヤングケアラーという言葉を知ったことを「聞いたことがない」と回答した人が全体と比べやや高くなっており、自覚がない場合を想定する必要があることから、当事者と家族に届く周知の在り方を検討していく必要があります。

6. 行政や学校、NPOなどの各関係機関と連携したヤングケアラーへの対応

- 教職員アンケート結果で、ヤングケアラーと思われる子どもを発見した場合の学校での対応方法として適当と思われる手段では、「校長や教頭、学年主任などに相談する」、「子ども本人の話を聞く、話を聞く機会を設ける」などが高く、次いで、「大府市役所 福祉総合相談室に相談する」が高くなっています。また、ヤングケアラーの問題について相談できる場所については、「児童相談所」「大府市役所 福祉総合相談室」「大府市役所 家庭児童相談室」などが上位にあがっており、特に、前回調査との比較では、「大府市役所 福祉総合相談室」が高くなっています。今回のアンケート等を通じて、ヤングケアラーの問題に関する相談先として、学校以外にも、大府市役所福祉総合相談室が活用できるという認知が進んでいると考えられます。
- 他方、教職員が市に期待することとしては、「ヤングケアラー本人が相談できる体制の整備」、「ヤングケアラーの保護者・地域の方が相談できる体制の整備」、「ヤングケアラーに関する理解の促進」などが上位となっています。相談環境の整備については、ヤングケアラー本人、保護者、そしてヤングケアラーをとりまく周囲の友人や大人からも相談しやすい環境づくりを進めていくことが求められています。また、今回実施した市によるヤングケアラーに関する講座も、前項で記載の通り、ヤングケアラーの認知度向上とヤングケアラー当事者の自覚の促進、周囲の友人による当事者の発見に効果的に寄与するものとして、今後も継続的に取り組むことが必要と考えられます。



- 教職員アンケート結果で、外部機関と連携しながらヤングケアラーの支援を強化したいことは、「ヤングケアラーの早期発見」、「ヤングケアラーの悩みに寄り添って伴走型で支援してくれること」、「ヤングケアラーの学習支援」などが上位となっています。学校や行政だけでは担いきれない支援については、NPO等の専門機関などと連携しながら、当事者の気持ちに寄り添いながら、長期的に伴走支援を行っていくことが求められています。

(参考資料)

家族の中にお世話をする必要がある人がいる子どもの置かれた状況(詳細)

1. 回答者の属性

①小学校別(小学5年生)

上段:件数 下段:(%)	n=	大府 小学 校	大東 小学 校	神田 小学 校	北山 小学 校	東山 小学 校	共和 西小 学校	共長 小学 校	吉田 小学 校	石ヶ 瀬 小学 校
全体	786	116	75	53	98	58	110	105	64	107
	100	14.8	9.5	6.7	12.5	7.4	14	13.4	8.1	13.6
家族のお世 話をしてい る	33	5	3	3	4	3	5	5	3	2
	100	15.2	9.1	9.1	12.1	9.1	15.2	15.2	9.1	6.1

②中学校別(中学2年生)

上段:件数 下段:(%)	n=	大府 中学校	大府西 中学校	大府北 中学校	大府南 中学校
全体	778	260	146	270	102
	100	33.4	18.8	34.7	13.1
家族のお世話を している	12	5	4	-	3
	100	41.7	33.3	-	25.0

③高校別(高校2年生)

上段:件数 下段:(%)	n=	大府高校	大府 東高校	桃陵高校
全体	449	216	213	20
	100	48.1	47.4	4.5
家族のお世話を している	9	5	4	-
	100	55.6	44.4	-

2. 普段の生活について

あなたは学校を欠席したり、遅刻や早退をすることがありますか。(単数回答)

[小学5年生・中学2年生・高校2年生:問3]

①欠席について

【小学5年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	ほとんど しない	たまにす る	ときどき する	よくする
全体	786	594	160	28	4
	100	75.6	20.4	3.6	0.5
家族のお世話を している	33	13	15	5	-
	100	39.4	45.5	15.2	-

【中学2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	ほとんど しない	たまにす る	ときどき する	よくする
全体	778	651	93	25	9
	100	83.7	12.0	3.2	1.2
家族のお世話を している	12	9	3	-	-
	100	75.0	25.0	-	-

【高校2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	ほとんど しない	たまにす る	ときどき する	よくする
全体	449	340	82	22	5
	100	75.7	18.3	4.9	1.1
家族のお世話を している	9	5	2	2	-
	100	55.6	22.2	22.2	-

②遅刻・早退について

【小学5年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	ほとんど しない	たまにす る	ときどき する	よくする
全体	786	650	100	27	9
	100	82.7	12.7	3.4	1.1
家族のお世話を している	33	22	8	2	1
	100	66.7	24.2	6.1	3.0

【中学2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	ほとんど しない	たまにす る	ときどき する	よくする
全体	778	669	77	19	13
	100	86.0	9.9	2.4	1.7
家族のお世話を している	12	10	2	-	-
	100	83.3	16.7	-	-

【高校2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	ほとんど しない	たまにす る	ときどき する	よくする
全体	449	366	61	16	6
	100	81.5	13.6	3.6	1.3
家族のお世話を している	9	7	2	-	-
	100	77.8	22.2	-	-

③放課後や休日の習い事(小学5年生)

あなたは放課後や休日に習い事をしていますか。(単数回答)[小学5年生:問4]

【小学5年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	はい	いいえ
全体	786	660	126
	100	84.0	16.0
家族のお世話を している	33	23	10
	100	69.7	30.3

④習い事・部活動・学校外のクラブ活動(中学2年生、高校2年生)

あなたは習い事・部活動・学校外のクラブ活動に参加していますか。(単数回答)

[中学2年生・高校2年生:問4]

【中学2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	はい	いいえ
全体	778	712	66
	100	91.5	8.5
家族のお世話を している	12	12	-
	100	100.0	-

【高校2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	はい	いいえ
全体	449	339	110
	100	75.5	24.5
家族のお世話を している	9	7	2
	100	77.8	22.2

⑤睡眠時間が足りているか

最近睡眠時間が足りないと感じていますか。(単数回答)

[小学5年生・中学2年生・高校2年生:問5]

【小学5年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	はい	いいえ
全体	786	217	569
	100	27.6	72.4
家族のお世話を している	33	19	14
	100	57.6	42.4

【中学2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	はい	いいえ
全体	778	349	429
	100	44.9	55.1
家族のお世話を している	12	4	8
	100	33.3	66.7

【高校2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	はい	いいえ
全体	449	258	191
	100	57.5	42.5
家族のお世話を している	9	9	-
	100	100.0	-

⑥朝食をとっているか

毎朝朝食をとっていますか。(単数回答)[小学5年生・中学2年生・高校2年生:問6]

【小学5年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	はい	いいえ
全体	786	750	36
	100	95.4	4.6
家族のお世話を している	33	32	1
	100	97.0	3.0

【中学2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	はい	いいえ
全体	778	712	66
	100	91.5	8.5
家族のお世話を している	12	7	5
	100	58.3	41.7

【高校2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	はい	いいえ
全体	449	389	60
	100	86.6	13.4
家族のお世話を している	9	6	3
	100	66.7	33.3

⑦朝食の準備をする人

朝食は誰が準備していますか。(単数回答)[小学5年生:問7]

【小学5年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	お父さん、お母さん	お兄さん、お姉さん	自分	その他
全体	786	704	13	163	25
	100	89.6	1.7	20.7	3.2
家族のお世話をしている	33	26	-	13	-
	100	78.8	-	39.4	-

⑧お小遣いをもらっているか

あなたは保護者の方からお小遣いをもらっていますか。(単数回答)

[小学5年生:問8、中学2年生・高校2年生:問7]

【小学5年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	もらって いる	もらって いない
全体	786	564	222
	100	71.8	28.2
家族のお世話を している	33	27	6
	100	81.8	18.2

【中学2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	もらって いる	もらって いない
全体	778	571	207
	100	73.4	26.6
家族のお世話を している	12	7	5
	100	58.3	41.7

【高校2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	もらって いる	もらって いない
全体	449	367	82
	100	81.7	18.3
家族のお世話を している	9	7	2
	100	77.8	22.2

⑨家でのルールや決まりごとについて保護者と話し合っているか

あなたは家でのルールや決まりごとについて保護者の人と話し合っていますか。(単数回答)
 [小学5年生:問9]

【小学5年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	話し合っ ている	話し合っ ていない
全体	786	548	238
	100	69.7	30.3
家族のお世話を している	33	22	11
	100	66.7	33.3

⑩ふだんの学校生活であてはまること

ふだんの学校生活で以下にあてはまるものはありますか。(複数回答)

[小学5年生:問10、中学2年生・高校2年生:問8]

【小学5年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	授業中に寝てしまうことが多い	宿題ができないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	習い事を休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事などを欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	あてはまるものはない
全体	786	33	83	158	21	113	8	9	45	35	508
	100	4.2	10.6	20.1	2.7	14.4	1.0	1.1	5.7	4.5	64.6
家族のお世話をしている	33	2	13	14	4	13	1	1	5	6	11
	100	6.1	39.4	42.4	12.1	39.4	3.0	3.0	15.2	18.2	33.3

【中学2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	授業 中に居 眠りす ること が多い	宿題 や課 題が できな いこと が多い	持ち物 の忘 れ物 が多 い	部活 動や 習い 事を 休む こと が多 い	提出 物を 出す のが 遅れ ること が多 い	修学 旅行 など の宿 泊行 事な どを 欠席 する	保健 室で 過ご すこと が多い	学校 では 一人 で過 ごす こと が多い	友達 と遊 んだ り、 おし ゃべ りし たり する 時間 が少 ない	あて はま るも のは ない
全体	778	98	108	178	69	196	3	2	39	25	440
	100	12.6	13.9	22.9	8.9	25.2	0.4	0.3	5.0	3.2	56.6
家族のお 世話をし ている	12	2	3	3	2	6	-	-	-	-	5
	100.0	16.7	25.0	25.0	16.7	50.0	-	-	-	-	41.7

【高校2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	授業 中に居 眠りす ること が多い	宿題 や課 題が できな いこと が多い	持ち物 の忘 れ物 が多 い	部活 動や 習い 事を 休む こと が多 い	提出 物を 出す のが 遅れ ること が多 い	修学 旅行 など の宿 泊行 事な どを 欠席 する	保健 室で 過ご すこと が多い	学校 では 一人 で過 ごす こと が多い	友達 と遊 んだ り、 おし ゃべ りし たり する 時間 が少 ない	あて はま るも のは ない
全体	449	160	44	75	22	56	1	2	22	20	218
	100	35.6	9.8	16.7	4.9	12.5	0.2	0.4	4.9	4.5	48.6
家族のお世 話をし ている	9	6	2	-	-	1	-	-	1	2	2
	100	66.7	22.2	-	-	11.1	-	-	11.1	22.2	22.2

3. 悩みや困りごと

①悩みや困りごと

あなたが悩んでいることや困りごとはありますか。(複数回答)

[小学5年生:問 11、中学2年生・高校2年生:問9]

【小学5年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	友達のこと	学校の成績のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	自分のために使える時間が少ないこと	その他	特にな
全体	786	119	135	58	49	32	23	519
	100	15.1	17.2	7.4	6.2	4.1	2.9	66.0
家族のお世話をしている	33	13	9	8	8	3	1	10
	100	39.4	27.3	24.2	24.2	9.1	3.0	30.3

【中学2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	友人関係	学業成績のこと	進路のこと	学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと	塾(通信含む)や習い事ができない	自分の自由な時間が持てないこと	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと	その他	特にな
全体	778	131	337	335	41	14	32	29	35	14	296
	100	16.8	43.3	43.1	5.3	1.8	4.1	3.7	4.5	1.8	38.0
家族のお世話をしている	12	3	9	9	2	1	2	3	2	-	1
	100.0	25.0	75.0	75.0	16.7	8.3	16.7	25.0	16.7	-	8.3

【高校2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	友人 関係	学業 成績 のこと	進路の こと	学費 (授業 料)な ど学 校生 活に 必要 なお金 のこと	塾 (通 信含 む) や習 い事 がで きな い	自分 の自 由な 時間 が持 てない こと	自分と 家族と の関 係のこ と	家族 内の 人間 関係 のこと	そ の 他	特にな い
全体	449	61	167	209	32	5	25	20	15	2	174
	100	13.6	37.2	46.5	7.1	1.1	5.6	4.5	3.3	0.4	38.8
家族のお 世話をし ている	9	2	5	4	2	1	3	3	2	-	2
	100	22.2	55.6	44.4	22.2	11.1	33.3	33.3	22.2	-	22.2

⑫悩みや困りごとの相談先

あなたは、悩んでいることや困りごとがあったとき、「誰(どこ)」に相談しますか。
 (複数回答)[小学5年生:問 12、中学2年生・高校2年生:問 10]

【小学5年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	家族	友達	近所の人	学校の先生	習い事の先生	SNS上の知り合い
全体	786	660	409	14	273	44	17
	100	84.0	52.0	1.8	34.7	5.6	2.2
家族のお世話をしている	33	25	10	1	7	2	-
	100	75.8	30.3	3.0	21.2	6.1	-

放課後クラブの先生	レインボーハウス(教育支援センター)	児童(老人福祉)センター	大府市役所(福祉総合相談室など)	大府市のLINE相談窓口	相談できる人・場所はない	その他
18	11	16	23	20	32	13
2.3	1.4	2.0	2.9	2.5	4.1	1.7
1	-	-	-	-	1	3
3.0	-	-	-	-	3.0	9.1

【中学2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	家族	友達	近所の人	学校の先生	習い事の先生	SNS上の知り合い
全体	778	605	561	9	247	55	49
	100	77.8	72.1	1.2	31.7	7.1	6.3
家族のお世話をしている	12	7	10	-	5	1	-
	100	58.3	83.3	-	41.7	8.3	-

まなポート(学習支援)	放課後クラブの先生	児童老人福祉センター	レインボーハウス(教育支援センター)	大府市役所(福祉総合相談室など)	大府市のLINE相談窓口	相談できる人・場所はない	その他
6	4	2	8	5	8	25	15
0.8	0.5	0.3	1.0	0.6	1.0	3.2	1.9
-	-	-	-	-	-	1	-
-	-	-	-	-	-	8.3	-

【高校2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	家族	友達	近所の人	学校の先生	習い事の先生	SNS上の知り合い
全体	449	311	362	1	81	18	23
	100	69.3	80.6	0.2	18.0	4.0	5.1
家族のお世話をしている	9	5	8	-	1	1	1
	100	55.6	88.9	-	11.1	11.1	11.1

児童老人福祉センター	大府市役所(福祉総合相談室など)	大府市のLINE相談窓口	相談できる人・場所はない	その他
2	-	-	16	5
0.4	-	-	3.6	1.1
-	-	-	1	-
-	-	-	11.1	-

⑬悩みや困りごとを相談しやすい方法

悩んでいることや困りごとがあったとき、相談しやすいのはどのような「方法」ですか。
 (複数回答)[小学5年生:問 13、中学2年生・高校2年生:問 11]

【小学5年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	相手の 顔をみ ながら 直接相 談でき る方法	電話で 相談で きる方 法	インター ネットや SNSを 使って 文字で 相談す る方法	自分の ことは 知られ ずに、相 談でき る方法	平日の 夜に相 談でき る方法	学校の ない日 に相談 できる 方法	その他
全体	786	453	154	104	192	83	146	23
	100	57.6	19.6	13.2	24.4	10.6	18.6	2.9
家族のお世話 をしている	33	17	6	3	6	2	5	4
	100	51.5	18.2	9.1	18.2	6.1	15.2	12.1

【中学2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	相手の 顔をみ ながら 直接相 談でき る方法	電話で 相談で きる方 法	インター ネットや SNSを 使って 文字で 相談す る方法	自分の 情報は 知られ ずに、相 談でき る方法	平日の 夜に相 談でき る方法	学校の ない日 に相談 できる 方法	その他
全体	778	482	135	222	243	67	69	10
	100	62.0	17.4	28.5	31.2	8.6	8.9	1.3
家族のお世話 をしている	12	9	2	5	5	1	2	-
	100	75.0	16.7	41.7	41.7	8.3	16.7	-

【高校2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	相手の 顔をみ ながら 直接相 談でき る方法	電話で 相談で きる方 法	インター ネットや SNSを 使って 文字で 相談す る方法	自分の 情報は 知られ ずに、相 談でき る方法	平日の 夜に相 談でき る方法	学校の ない日 に相談 できる 方法	その他
全体	449	293	83	150	124	29	25	3
	100	65.3	18.5	33.4	27.6	6.5	5.6	0.7
家族のお世話 をしている	9	6	2	8	4	2	2	-
	100	66.7	22.2	88.9	44.4	22.2	22.2	-

4. ヤングケアラーについて

①ヤングケアラーの認知度

あなたは「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。(単数回答)

[小学5年生:問 24、中学2年生・高校2年生:問 23]

【小学5年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	聞いたこ とがある	聞いたこ とがない
全体	786	330	456
	100	42.0	58.0
家族のお世話を している	33	11	22
	100	33.3	66.7

【中学2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	聞いたこ とがある	聞いたこ とがない
全体	778	506	272
	100	65.0	35.0
家族のお世話を している	12	6	6
	100	50.0	50.0

【高校2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	聞いたこ とがある	聞いたこ とがない
全体	449	318	131
	100	70.8	29.2
家族のお世話を している	9	5	4
	100	55.6	44.4

②ヤングケアラーを知った媒体

「聞いたことがある」を選んだ人にお聞きします。
 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(複数回答)
 [小学5年生:問 25、中学2年生・高校2年生:問 24]

【小学5年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	今日の 人権講 話	テレ ビ、新 聞	雑誌や 本	SNS やイン ターネ ット	広報や チラシ	学校	先生、 親以外 の大人 の人	その他
全体	329	72	153	78	52	77	98	15	23
	100	21.9	46.5	23.7	15.8	23.4	29.8	4.6	7.0
家族のお世 話をしてい る	11	3	3	3	1	1	3	-	2
	100	27.3	27.3	27.3	9.1	9.1	27.3	-	18.2

<その他>

- ・家族(親、親戚など)
- ・ヤングケアラーの団体(コラビア)
- ・児童センター、老人福祉センター(児童館)
- ・友達から聞いた。など

【中学2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	今日 の人 権講 話	テレ ビ、新 聞	雑誌 や本	SNS やイン ターネ ット	広報 やチラ シ	学校	先生、 保護 者以 外の 大人 の人	その 他	無回 答
全体	506	137	237	58	122	89	220	24	9	1
	100	27.1	46.8	11.5	24.1	17.6	43.5	4.7	1.8	0.2
家族のお世 話をしてい る	6	3	3	-	3	2	4	2	-	-
	100	50.0	50.0	-	50.0	33.3	66.7	33.3	-	-

【高校2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	研修 会・人 権講 話	テレ ビ、新 聞	雑誌 や本	SNS やイン ターネ ット	広報 やチラ シ	学校	先生、 保護 者以 外の 大人 の人	その 他	無回 答
全体	318	29	150	35	94	35	187	26	9	2
	100	9.1	47.2	11.0	29.6	11.0	58.8	8.2	2.8	0.6
家族のお世 話をしてい る	5	1	-	-	-	-	4	-	-	-
	100	20.0	-	-	-	-	80.0	-	-	-

③身近にヤングケアラーがいるか

あなたの身近にヤングケアラーにあてはまるような子どもはいますか。(単数回答)
 [小学5年生:問 26、中学2年生・高校2年生:問 25]

【小学5年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	いると思 う	いないと 思う
全体	786	75	711
	100	9.5	90.5
家族のお世話を している	33	6	27
	100	18.2	81.8

【中学2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	いると思 う	いないと 思う
全体	778	59	719
	100	7.6	92.4
家族のお世話を している	12	1	11
	100	8.3	91.7

【高校2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	いると思 う	いないと 思う
全体	449	65	384
	100	14.5	85.5
家族のお世話を している	9	5	4
	100	55.6	44.4

④ヤングケアラーの生活への影響

ヤングケアラーの状態になると、毎日の生活にどんな影響が出るとお思いますか。(複数回答)
 [小学5年生:問 27、中学2年生・高校2年生:問 26]

【小学5年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	学校に あまり 行けな くなる	寝る時 間が少 なくな る	自分の 自由な 時間が なくな る	勉強で きる時 間が少 なくな る	友達と 遊ぶこ とがで きない	その他	わから ない
全体	786	608	654	665	601	660	34	67
	100	77.4	83.2	84.6	76.5	84.0	4.3	8.5
家族のお世話 をしている	33	20	25	25	19	23	-	6
	100	60.6	75.8	75.8	57.6	69.7	-	18.2

【中学2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	学校に あまり 行けな くなる	睡眠時 間が少 なくな る	自分の 自由な 時間が なくな る	勉強で きる時 間が少 なくな る	受験や 進路に 影響す る	友達と 遊ぶこ とがで きなく なる	その他	わから ない
全体	778	615	680	700	649	603	662	12	43
	100	79.0	87.4	90.0	83.4	77.5	85.1	1.5	5.5
家族のお世 話をしてい る	12	6	10	8	9	6	8	-	2
	100	50.0	83.3	66.7	75.0	50.0	66.7	-	16.7

【高校2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	学校に あまり 行けな くなる	睡眠時 間が少 なくな る	自分 の自 由な 時間 がな くな る	勉強 で きる 時 間 が 少 な く な る	受験 や 進 路 に 影 響 す る	友達 と 遊 ぶ こ と が で き な く な る	その他	わか ら ない
全体	449	253	338	375	312	259	320	-	35
	100	56.3	75.3	83.5	69.5	57.7	71.3	-	7.8
家族のお世 話をしてい る	9	4	5	8	3	2	5	-	1
	100	44.4	55.6	88.9	33.3	22.2	55.6	-	11.1

⑤市が主催するサロンで関心のある企画

市では、ヤングケアラーの子どもの支援としてサロン(交流ができる場)を設けています。
サロンの企画の内容について、関心があるものを教えてください。(複数回答)
[小学5年生:問 28、中学2年生・高校2年生:問 27]

【小学5年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	ボードゲーム大会	料理教室	その他
全体	786	395	358	33
	100	50.3	45.5	4.2
家族のお世話をしている	33	12	18	3
	100	36.4	54.5	9.1

【中学2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	料理教室	キャリア講座(将来の生き方や仕事について考える講座)	介護(ケア)についての勉強会	その他
全体	778	445	349	186	14
	100	57.2	44.9	23.9	1.8
家族のお世話をしている	12	3	8	3	-
	100	25.0	66.7	25.0	-

【高校2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	メンタルヘルス講座	料理教室	キャリア講座(将来の生き方や仕事について考える講座)	介護(ケア)についての勉強会	その他
全体	449	218	189	151	101	12
	100	48.6	42.1	33.6	22.5	2.7
家族のお世話をしている	9	5	4	4	1	-
	100	55.6	44.4	44.4	11.1	-

⑥人権講話の感想

大府市の人権講話の感想を教えてください。(複数回答)

[小学5年生:問 29、中学2年生・高校2年生:問 28]

【小学5年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	講話を聞いて、はじめてヤングケアラーを知った	自分がヤングケアラーに当てはまるかもしれないと思った	友人がヤングケアラーに当てはまるかもしれないと思った	講話には参加しなかった	その他
全体	786	526	41	81	27	153
	100	66.9	5.2	10.3	3.4	19.5
家族のお世話をしている	33	20	8	4	1	6
	100	60.6	24.2	12.1	3.0	18.2

【中学2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	講話を聞いて、はじめてヤングケアラーを知った	自分がヤングケアラーに該当するかもしれないと思った	友人がヤングケアラーに該当するかもしれないと思った	講話には参加しなかった	その他
全体	778	474	31	82	21	198
	100	60.9	4.0	10.5	2.7	25.4
家族のお世話をしている	12	6	3	-	1	2
	100	50.0	25.0	-	8.3	16.7

【高校2年生】

上段:件数 下段:(%)	n=	講話を聞いて、はじめてヤングケアラーを知った	自分がヤングケアラーに該当するかもしれないと思った	友人がヤングケアラーに該当するかもしれないと思った	講話には参加しなかった	その他	無回答
全体	233	120	15	35	6	46	18
	100	51.5	6.4	15.0	2.6	19.7	7.7
家族のお世話をしている	4	-	3	2	-	-	-
	100	-	75.0	50.0	-	-	-

※大府高校では人権講話を実施していないため、大府高校の生徒にはお尋ねしていません。

**大府市ヤングケアラーに関するアンケート調査
結果報告書
令和6年3月**

発行:大府市 福祉部 福祉総合相談室
〒474-8701 愛知県大府市中央町五丁目 70 番地
電話:0562-45-6219
FAX:0562-47-3150